

大阪大学総合学術博物館 年報 2012

大阪大学総合学術博物館
The Museum of Osaka University

大阪大学総合学術博物館

年報 2012

はじめに

平成 24 年 (2012)、大阪大学総合学術博物館は創立 10 周年の年を迎えました。ユニバーシティ・ミュージアムの原点である調査研究活動は言うまでもなく、詳細は本文中で報告されていますが一昨年のおお阪大学創立 80 周年に続き、創立 10 周年にちなむ記念展や特別講演会、シンポジウムなど、特色ある事業を展開しました。

春季は、大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念「巨大ワニと恐竜の世界 ―巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防―」を開催しました。大阪大学の至宝とも言える収蔵展示品「マチカネワニ化石」の最新研究を中心に据え、マチカネワニと恐竜をテーマに全国から古代生物の標本をあつめ、展示室内部に太古の世界を再現しました。地元豊中市や北海道大学総合博物館、大学院理学研究科等の関係機関の支援も得て、入館者数は過去最高の 11,823 人を数えました。秋季には、文理融合したユニークな企画展「ものづくり 上方“酒”ばなし ―先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科―」を、大学院工学研究科や日本生物工学会等の学内外からの協力を得て開催し、会期中には特別講演会ほか、美術や雅楽も関係した関連イベントも実施しました。その成果は研究活動として、大阪大学総合学術博物館叢書 8『ものづくり 上方“酒”ばなし ―先駆・革新の系譜と大阪高等工業学校醸造科―』の刊行に結実しています。

創立 10 周年記念としては、リサーチユニバーシティの博物館らしい“知”の最前線を探り、広く市民にも公開すべく、諸分野の著名な専門家を招き、特別講演会「伝統と革新 ―ユニバーシティ・ミュージアムが発信する学際研究―」、文化財公開シンポジウム「奈良の大仏はなぜ“若くみえる”のか? ―美術史、化学、修復からみた金銅仏の最新研究―」、シンポジウム「オオサカがとんがっていた時代 大阪のアヴァンギャルド芸術 ―焼け跡から万博前夜まで―」の 3 つの大きなイベントを開催しました。

教育普及では「サイエンスカフェ@待兼山」や、豊中市立中央公民館との「夏の小学生科学体験教室」、湯川記念室の「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2012」も好評を博しました。年間の来館者数・団体見学数も前年度を上回りました。

平成 14 年 (2002) の発足以来 10 年の歳月が総合学術博物館を成長させ、全国の国立大学の大学博物館のなかでも、「阪大スタイル」を誇る個性的な館としての社会的な評価も定着しつつあるように感じます。しかしまた、時代の変化の中で博物館のあり方が大きな転機を迎えていることも事実であり、社会の要請に応えるべく一層アクティブに地域交流型ミュージアムとして親しまれ、地域になくってはならない博物館を目指したいと考えておりますので、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 (2014) 年 2 月

大阪大学総合学術博物館長

橋爪 節也

目 次

1. 展覧会報告Ⅰ	5
大阪大学総合学術博物館創立10周年記念 第5回特別展 巨大ワニと恐竜の世界 - 巨大爬虫類2億3千万年の攻防 -	
・ 概要	6
・ 報告 (大阪大学総合学術博物館 助教 横田 洋)	9
2. 展覧会報告Ⅱ	13
大阪大学総合学術博物館創立10周年記念 第15回企画展 ものづくり上方“酒”ばなし - 先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科 -	
・ 概要	14
・ 報告 (大阪大学総合学術博物館 助教 松永 和浩)	17
3. 創立10周年記念事業報告	22
・ 創立10周年記念特別講演会 「伝統と革新 - ユニバーシティ・ミュージアムが発信する学際研究 -」	24
・ 創立10周年記念 文化財公開シンポジウム 「奈良の大仏はなぜ“若くみえる”のか? - 美術史、化学、修復からみた金銅仏の最新研究 -」	29
・ 創立10周年記念シンポジウム 「オオサカがとんがっていた時代 大阪のアヴァンギャルド芸術 - 焼け跡から万博前夜まで -」	33
4. サイエンスカフェ@待兼山 “土曜の午後はミュージアム”	37
・ 2012年度 前期 (カフェ No. 89 ~ 99)	38
・ 2012年度 後期 (カフェ No.100 ~ 107)	40
5. 夏の小学生科学体験教室	42
・ 授業内容	43
6. 専任教員活動報告	45
総合学術博物館 研究・教育部	
・ 資料基礎研究系 准教授 高橋 京子	46
・ 資料先端研究系 教 授 上田 貴洋	49
准教授 豊田 二郎	51
准教授 宮久保圭祐	52
・ 資料情報研究系 教 授 橋爪 節也	54
助 教 横田 洋	59
総合学術博物館 資料部	
助 教 松永 和浩	60
6. 資料	63
・ 2012年度の主な活動一覧	64
・ 入館者数及びアンケート集計結果一覧	68
・ 団体見学一覧	80
・ 関連記事一覧	82
・ 寄贈図書一覧	86
・ 館内配置図	89

1. 展覧会報告 I

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 第 5 回特別展

巨大ワニと恐竜の世界 —巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防—

概 要

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 第 5 回特別展「巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防—」を 2012 年 4 月 7 日（土）から 6 月 30 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

2012 年は大阪大学総合学術博物館創立 10 周年という節目の年でもあり、開催には北海道大学総合博物館、豊中市・豊中市教育委員会、大阪大学大学院理学研究科をはじめとし、様々な関係機関の協力を得ることができた。

当館を代表する収蔵展示品でもあるマチカネワニと恐竜をテーマとした本展覧会では、大阪初公開の標本の展示を含め、時代を追ってワニと恐竜を紹介することで、その進化と争いの歴史を肌で感じてもらえることを目指し、展示を行った。

本展覧会の期間中の来場者は、過去最高の 11,823 名と好評であった。

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 第 5 回特別展

テーマ：「巨大ワニと恐竜の世界 —巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防—」

期 間：2012 年 4 月 7 日（土）～ 2012 年 6 月 30 日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：北海道大学総合博物館・豊中市・豊中市教育委員会・大阪大学大学院理学研究科

協 力：国立科学博物館・群馬県立自然史博物館・神流町恐竜センター

茨城県自然博物館・神奈川県立生命の星・地球博物館

有限会社ゴビサポートジャパン・大阪大学 21 世紀懐徳堂

入館者数：11,823 人

ミュージアム・レクチャー

第 41 回 4 月 14 日（土）「最新恐竜学：ワニのまなざしから」来場者数：110 人

真鍋 真 氏（国立科学博物館）

第 42 回 4 月 28 日（土）「ワニと恐竜の共進化」来場者数：130 人

小林 快次 氏（北海道大学総合博物館）

第 43 回 5 月 19 日（土）「恐竜時代の日本：ワニと恐竜」来場者数：90 人

久保田 克博 氏（神流町恐竜センター）

第 44 回 6 月 16 日（土）「現生ワニからわかる恐竜の顎の動き」来場者数：123 人

大橋 智之 氏（北九州市立いのちのたび博物館）

ワークショップ（豊中市との共催イベント）

5 月 3 日（木・祝）全 2 回 参加者数：計 40 人

「恐竜の復元画」

所 十三 氏（漫画家）

5 月 26 日（土）全 2 回 参加者数：計 47 人

「マチカネワニ復元の話&ティラノサウルス復元に挑戦」

徳川 広和 氏（恐竜・古生物復元模型作家）

荻野 慎太郎 氏（古生物学者）

巨大ワニと 恐竜の世界

— 巨大爬虫類2億3千万年の攻防 —

大阪初公開の標本多数登場

2012 4/7[土]~6/30[土] 10:30~17:00 入館料 無料

日曜・祝日は休館 但し 4/30・5/3・5/4・5/5は開館

Deinosuchus rugosus

ミュージアム・レクチャー

4/14・4/28・5/19・6/16 各土曜日 14:00から

ワークショップ(事前申込要)

5/3(木・祝)・5/26(土)

- 主催 大阪大学総合学術博物館
共催 北海道大学総合博物館
豊中市・豊中市教育委員会
大阪大学大学院理学研究科
協力 国立科学博物館
群馬県立自然史博物館
神流町恐竜センター
茨城県自然博物館
神奈川県立生命の星・地球博物館
有限会社ゴビサポートジャパン
大阪大学21世紀構想堂



大阪大学総合学術博物館創立10周年記念

第5回特別展



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 Tel.06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分 ※公共交通機関をご利用ください。

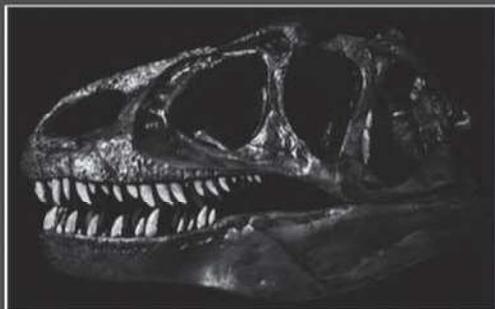
巨大ワニと恐竜の世界

— 巨大爬虫類2億3千万年の攻防 —

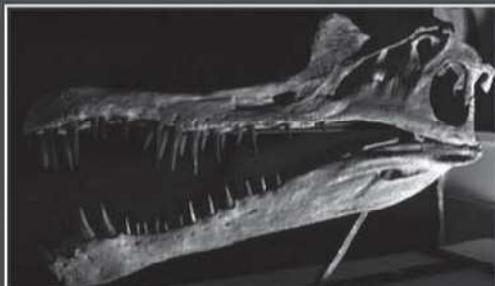
日本を代表する爬虫類化石で世界から注目を浴びているマチカネワニ。マチカネワニの祖先にはどのようなものがいたのか、祖先たちは恐竜と戦っていたのか。「巨大ワニと恐竜の世界」展では、約2億3千万年前までさかのぼり、ワニの進化と恐竜との争いを紹介する。約1億5千万年前（ジュラ紀後期）の北米大陸、約1億年前（白亜紀中ごろ）の Gondwana 大陸、そして恐竜が絶滅する直前の約7千万年前（白亜紀末）の北米とアジアといった世界が、時空を超えて大阪大学総合学術博物館によみがえる。大阪初公開の標本を含め、巨大ワニや恐竜化石など約50点を展示。

展示内容

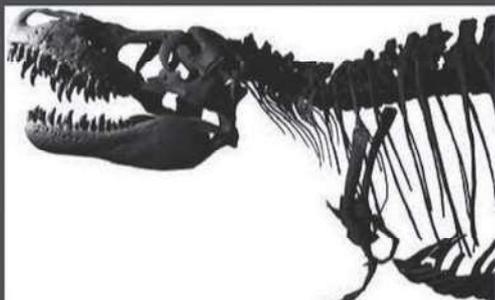
- 1 約2億3千万年前の南米大陸
ワニと恐竜の誕生
- 2 約1億5千万年前の北米大陸
現代型ワニの誕生と恐竜の巨大化
- 3 約1億年前の Gondwana 大陸
ワニの巨大化と恐竜の繁栄
- 4 約7千万年前の北米大陸とアジア大陸
巨大ワニと巨大恐竜の戦い
- 5 約5000万年前の大坂
巨大ワニ、日本出現!
- 6 現在
生き延びたワニ、姿を変えた恐竜



ジュラ紀後期 肉食恐竜アロサウルス(神流町恐竜センター蔵)



白亜紀中頃 肉食恐竜スコムミス(神流町恐竜センター蔵)



白亜紀末 肉食恐竜タルボサウルス(国立科学博物館蔵)

ミュージアム・レクチャー ■3F セミナー室にて

第41回 4月14日(土) 14:00~15:30
「最新恐竜学:ワニのまなざしから」
真鍋 真(国立科学博物館)

第42回 4月28日(土) 14:00~15:30
「ワニと恐竜の共進化」
小林 快次(北海道大学総合博物館)

第43回 5月19日(土) 14:00~15:30
「恐竜時代の日本:ワニと恐竜」
久保田 克博(神流町恐竜センター)

第44回 6月16日(土) 14:00~15:30
「現生ワニからわかる恐竜の顎の動き」
大橋 智之(北九州市立いのちのたび博物館)

◆いずれも聴講自由、30分前より受付開始 定員60名

ワークショップ(豊中市との共催イベント) ■3F セミナー室にて

5月3日(木・祝)
「恐竜の復元画」
所 十三(漫画家)

◆内容
11:00~12:30/14:00~15:30 全2回 各回定員20名
対象 小学生5年生以上。保護者同伴可。

◆申込期間
平成24年4月7日~平成24年4月17日必着

5月26日(土)
「マチカネワニ復元の話&ティラノサウルス復元に挑戦」
徳川 広和(恐竜・古生物復元模型作家)
荻野 慎太郎(古生物学者)

◆内容
11:00~12:30/14:00~15:30 全2回 各回定員20名
対象 小学生以上。保護者同伴可。小学3年生までは必ず保護者の方がご同伴ください。
材料費 実費 1,000円

◆申込期間
平成24年4月23日~平成24年5月8日必着

◆申込方法
*1名につき1枚の往復はがきでタイトル名(ワークショップごとに1枚)・希望時間・住所・氏名・電話番号・年齢を記入し、返信はがきの表に住所・氏名を明記のうえ下記宛にご応募ください。(但し、ご家族で応募の場合は複数名可、全員の氏名、年齢を記載。)
*応募者多数の場合は抽選。当否の結果ははがきでお知らせします。
大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20

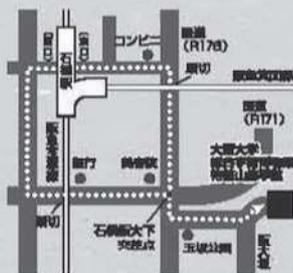


マチカネくん
Toyonaka City



会場・お問い合わせ

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20
Tel.06-6850-6284
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



交通のご案内

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分
※公共交通機関をご利用ください。

報 告

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 第 5 回企画展

「巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防—」

大阪大学総合学術博物館

助教 横田 洋

平成 24 年は大阪大学総合学術博物館創立 10 周年の記念すべき年であり、年間に記念講演会やシンポジウムなどさまざまな催しが開催されたが、10 周年記念企画の中心となったのが、豊中市・豊中市教育委員会・北海道大学総合博物館・大阪大学大学院理学研究科との共催で行われた第 5 回特別展「巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防—」である。

大阪大学総合学術博物館が所蔵するマチカネワニは 1964 年に日本で初めて発見されたワニ類の化石で、現代でも世界中の研究者から注目を集め続ける日本を代表する爬虫類化石標本である。マチカネワニは大阪大学、また大学の立地する豊中市のマスコットキャラクターのモデルになるほど地域を代表する天然の遺産として認識されている。当館では 2007 年の待兼山修学館リニューアルオープンに際して、常設展示において実物のマチカネワニ化石標本の展示を始め、通常の来館者の多くがマチカネワニを目当てにするほど、当館を代表する収蔵展示品となっている。

今回の第 5 回特別展はそのマチカネワニを起点とし、ワニ類の祖先を辿り、また同時代を生きた恐竜との関連をテーマに企画を行った。企画に関しては日本を代表する古脊椎動物研究者である小林快次氏（北海道大学総合博物館准教授・当館招へい准教授）から全面的な協力を得た。いわゆる恐竜展は例年全国で開催されているが、恐竜時代のワニにスポットを当てた展覧会は極めて珍しく、恐竜時代から現代まで年代順にワニの生態を紹介する展覧会は学術的にも教育的にも貴重な企画であった。

展示の構成は 6 章に分け、年代順にそれぞれの時代のワニと恐竜を紹介するという形で進めた。

1 章は「ワニと恐竜の誕生」と題し、2 億 3 千万年前の三畳紀の南米大陸、恐竜とワニの祖先が誕生した時期を対象とした。この時期、ワニの祖先は水辺に生息していたわけではなく、体長 10 メートル近いワニの仲間が陸上を闊歩していた。一方恐竜の祖先は体長 1 メートルあまりで、陸上ではワニ類やその仲間の方が恐竜よ



展示会場の様子。所狭しと配置された標本を来場者は間近から見る事ができる。

りも優勢であったと考えられている。このコーナーでは恐竜の祖先であるエオラプトル、恐竜でもワニ類でもないスカフォニクス、また広い意味で哺乳類の祖先に近いディキノドンなどの標本を展示した。

2章は「現代型ワニの誕生と恐竜の巨大化」と題して、1億5千万年前ジュラ紀の北米大陸におけるワニと恐竜を紹介した。この時期に恐竜は巨大化し、それ以前陸上を支配していたワニは水辺へと追いやられていく。この過程でワニは現代のワニとほぼ変わらない姿形を手に入れるようになった。このコーナーではカマラサウルスの幼体と同じ場所で発見されたワニ類ゴニオフォリスそれぞれの実物標本を展示した。

3章は「ワニの巨大化と恐竜の繁栄」と題し、約1億年前の白亜紀の Gondwana 大陸を紹介した。この時期、水辺の支配を達成したワニは恐竜と争うように巨大化した。その代表格である巨大ワニのサルコスクスの頭部骨格標本は日本初展示であったが、水辺をめぐる争っていた可能性もある魚食性恐竜スコミムスと並べて展示を行った。また巨大肉食恐竜カルカロドンサウルス、背中のトゲが特徴的な草食恐竜アマルガサウルスの全身骨格なども展示した。



内覧会の様子。来場者は間近に迫る標本を熱心に観察していた。

4章は「巨大ワニと巨大恐竜の戦い」と題して約7千万年前の恐竜が絶滅する直前のワニと恐竜を展示した。恐竜が最も繁栄した時代であるが、同時にワニも史上最強と呼ばれるほど巨大化した時代である。このコーナーでは最強の恐竜と呼ばれるティラノサウルスと最強のワニと呼ばれるデイノスクスを並べて展示し、ティラノサウルスとデイノスクスが水辺で獲物を取りあって争う映像を紹介した。またティ

ラノサウルスの近縁種であるタルボサウルスの全身骨格標本も展示した。

5章は「巨大ワニ、日本出現」と題し、マチカネワニに関するコーナーを設け、マチカネワニのルーツ、食性等に関する最新の研究成果を紹介した。この5章は常設展示のマチカネワニと連動する形で、特別展会場である多目的室を飛び出し、常設展である3階「待兼山に学ぶ」コーナーに特設パネル等を設けた展示を行った。

6章は「生き延びたワニと姿を変えた恐竜」と題し、現代のワニと恐竜の子孫について紹介した。現代のワニの代表としてマレーガビアル、インドガビアル、ナイルワニ、アメリカンアリゲーターなどの骨格標本を展示、さまざまな過酷な気候変動にも耐えて、生き延びてきたワニの生態について解説をした。

今回の特別展では、アマルガサウルスやタルボサウルスの全身骨格を始め巨大な展示物

が天井高 2.7 メートルの当館多目的室を埋め尽くす形となった。ただし、搬入路等の設備のない当館では搬入や展示作業が困難であり、搬入・搬出ともにクレーン車を用意し、クレーンで 3 階と地上の間を移動させるという手法をとり、展示作業にも当館のために特別に用意された器具を用いるなどの工夫がなされた。運搬・展示の作業は大変苦心したが、恐竜展等の会場としては非常に狭い展示室であったがゆえに、所狭しと並べられた巨大な標本の迫力がさらに強調される効果があった。また導線を S 字状に配置することによって、同じ標本でもさまざまな角度から観察でき、また前後左右を標本に取り囲まれる印象も生み、恐竜とワニの世界に迷い込むような演出をすることができた。

10 周年記念として当館の企画としては過去最大規模の展覧会として開催された本特別展であったが、期間中の来館者数は 11,823 名と過去最高を記録することができた。また企画の性格から小学生を中心とする低年齢層の来館者数が大幅に増加した。小学生とその同伴者といった従来の当館の来館者層とは異なる層に当館の存在をアピールするよい機会ともなった。

また本展では専用のアンケートを実施したが、アンケート結果も大変好評であった。一方で、恐竜時代のワニやマチカネワニなどワニにスポットを当てた展覧会であったが、本企画展では小学生を中心とする来館者の興味が恐竜に集中してしまうのではないかという危惧を抱いていた。しかし、アンケートや実際に接した来館者の反応から、特別展の趣旨を十分に理解していただけに感じていた。巨大ワニと恐竜が共存していたこと、大阪にもワニがいたことなどを通して、ワニの印象が変わったといった声を多く聞くことができ、展覧会としての成果は十分にあったと考えている。

本特別展の関連イベントとしては、ミュージアム・レクチャーを計 4 回次の通り開催した。4 月 14 日に真鍋真氏（国立科学博物館）による「最新恐竜学：ワニのまなざしから」、4 月 28 日に特別展の企画者である小林快次氏（北海道大学総合博物館）による「ワニと恐竜の共進化」、5 月 19 日に久保田克博氏（神流町恐竜センター）による「恐竜時代の日本：ワニと恐竜」、6 月 16 日に大橋智之氏（北九州市立いのちのたび博物館）による「現生ワニからわかる恐竜の顎の動き」。それぞれ日本を代表する古生物研究者の先生方であるが、演題からもわかるように 4 氏ともにワニに焦点を当てた講演をしていただくことができた。講師の先生方にはレクチャーが終わった後も展示物を前に解説をされるなどの協力をいただき、各回とも大変盛況であった。

また豊中市との共催企画としてワークショ



ミュージアム・レクチャー「ワニと恐竜の共進化」（北海道大学総合博物館 小林快次氏）の様子。会場となったセミナー室は満席となった。

ップを開催した。5月3日には漫画家の所十三氏による「恐竜の復元画」、5月26日には徳川広和氏（恐竜・古生物復元模型作家）・荻野慎太郎氏（古生物学者）による「マチカネワニ復元の話&ティラノサウルス復元に挑戦」とそれぞれ題したワークショップを午前・午後2回ずつ計4回開催した。どちらのワークショップも骨格を元に肉付けをし、復元画あるいは復元模型を作成するという学術的な復元方法を元に行われた。学術的な要素と参加者の想像力に委ねる要素のバランスがよく、展覧会のワークショップとしては最適であったと考えている。

本特別展では、展覧会の内容をまとめた全8ページのパンフレットを作成した。企画者の小林氏が解説を執筆し、標本の写真や復元画を多数掲載したパンフレットであった。これまでの特別展・企画展では、博物館叢書を展覧会に合わせて刊行した例もあったが、展覧会の期間中の配布を目的にしたパンフレットの作成は初めての試みであった。展覧会の構成に準拠したパンフレットであり、観覧者の理解の手助けになったと考えている。

冒頭で紹介したように今回の特別展は北海道大学総合博物館・豊中市・豊中市教育委員会・大阪大学大学院理学研究科との共催で行われた。当館には自然史の専門家がおらず、専門的な企画についてはすべて北海道大学総合博物館の小林氏に全面的に担当をお願いする形となった。豊中市にはワークショップの運営だけでなく、期間中マスコットキャラクターであるマチカネくんを当館に派遣いただくなど特に広報面でご協力をいただいた。また



作成されたパンフレット (page. 2-3)。展覧会をより詳しく解説している。



博物館を訪れた豊中市のマスコットキャラ「マチカネくん」。会場に来ていた子供や大人からも大人気だった。

専門業者のゴビサポートジャパンの高橋功氏には、巨大標本の運搬・展示という特殊な作業だけでなく、本展の企画についても多大なご協力をいただいた。その他、多くのみなさまのご協力を得て展覧会を開催することができた。ご協力をいただいたみなさまにはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

2. 展覧会報告Ⅱ

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 第 15 回企画展

ものづくり 上方“酒”ばなし
—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—

概 要

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 第 15 回企画展「ものづくり 上方“酒”ばなし —先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—」を 2012 年 10 月 27 日（土）から 2013 年 1 月 19 日（土）の間、大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館において開催した。

酒の歴史において上方および大阪大学が果たしてきた役割を、技術・経済・社会・文化など多方面から各種資料に基づき紹介した。伊丹・灘の清酒、吹田村のビール工場、山崎蒸溜所をつくった鳥井信治郎と竹鶴政孝（醸造科卒）など、その先駆性・革新性について改めて認識する展示とした。開催に当たっては、大阪高工醸造科の同窓会から発展し創立 90 周年を迎えた日本生物工学会をはじめ、関係機関・企業の協力を得ることができた。

期間中の待兼山修学館への来場者は 3,715 名と好評であった。

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 第 15 回企画展

テーマ：「ものづくり 上方“酒”ばなし —先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—」

期 間：2012 年 10 月 27 日（土）～ 2013 年 1 月 19 日（土）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3 階多目的ルーム

大阪大学会館 3 階歴史展示室

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：大阪大学大学院工学研究科・日本生物工学会

協 力：大阪大学 21 世紀懐徳堂・尚醸会

入館者数：3,715 人

ミュージアム・レクチャー

第 45 回 12 月 8 日（土）「日本における薬用酒」来場者数：40 人

森 隆治 氏（日東薬品工業・特別顧問）

第 46 回 12 月 15 日（土）「国酒を支えた近代の技師たち」来場者数：30 人

溝口 晴彦 氏（菊正宗酒造・総合研究所長）

第 47 回 2013 年 1 月 12 日（土）「ジャパニーズ・ウイスキー誕生「神話」

来場者数：70 人

竹内 恵行 氏（大阪大学大学院経済学研究科・准教授）

第 48 回 2013 年 1 月 19 日（土）「酔狂の室町時代」来場者数：71 人

松永 和浩（大阪大学総合学術博物館・助教）

ワークショップ

11 月 3 日（土）「酒のみりよく ～焼酎編～」(本坊酒造) 参加者数：計 29 人

11 月 10 日（土）「酒のみりよく ～ウイスキー編～」(サントリー) 参加者数：計 26 人

12 月 1 日（土）「酒のみりよく ～ビール編～」(アサヒビール) 参加者数：計 36 人

創立 10 周年記念特別企画「酒ヲ愛デ、文華ニ酔フ～絵に酔い、酒に酔い、音に酔い～」

11 月 24 日（土）会場：大阪大学会館 講堂・アセンブリーホール

特別講演「摂津の酒 —池田と呉春をめぐって—」来場者数：168 人

冷泉 為人 氏（冷泉時雨亭文庫・理事長）

演奏会 雅楽同好会 夕凧

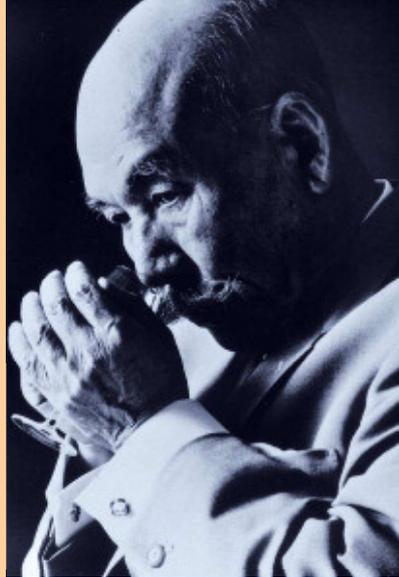
試飲会 参加者数：98 人

菊正宗酒造(灘)・秋鹿酒造(能勢)・新政酒造・小玉醸造(以上、秋田)

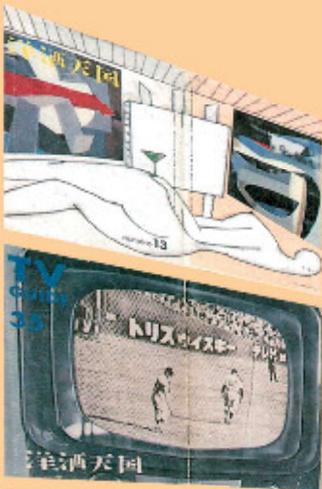
米鶴酒造(山形)・木戸泉酒造(千葉)・森喜酒造場(三重)



大阪高工醸造科の風景 人物は5代目佐藤卯兵衛（新政酒造）



テイストする竹鶴政孝（アサヒビール）



「洋酒天国」(サントリー)

入場無料
開館時間
10:30▶17:00

日曜・祝日・年末年始（12月29日～1月3日）は休館
ただし11月3日（祝）・4日目は開館

平成24年10月27日（土）～25年1月19日（土）

— 先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科 —

上方酒“ばなし”

ものづくり

大阪大学総合学術博物館
創立10周年記念 第15回企画展



「大日本物産図会」(ケンシヨク「食」資料室)



大阪吹田村醸造場の図（アサヒビール）

ミュージアム・レクチャー

12/8, 12/15, 平成25年1/12, 1/19

※いずれも14:00～15:30

定員60名 当日受付

ワークショップ

11/3, 11/10, 12/1

本坊酒造・サントリー・アサヒビール

※試飲あり。事前申込制（詳細は裏面のとおり）

いずれも17:00～

- 主催 大阪大学総合学術博物館
- 共催 大阪大学大学院工学研究科・日本生物工学会
- 協力 大阪大学21世紀懐徳堂・尚醸会



大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 Tel:06-6850-6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分 ※公共交通機関をご利用ください。

ものづくり

上方酒のばなし

—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—



豊臣秀吉朱印状 (天野山金剛寺所蔵)



渋谷ビールラベル (アサヒビール所蔵)

展示構成

- 序章 古代・中世の酒づくり—都の酒、寺の酒—
- 第1章 江戸を席卷する「下り酒」
- 第2章 洋酒製造・普及の最前線
 - ①大阪の麦酒工場
 - ②寿屋のワイン販売戦略
- 第3章 ジャパニーズ・ウイスキーの先駆者
 - ①最初の事業家・鳥井信治郎
 - ②最初の技術者・竹鶴政孝
- 第4章 大阪高工醸造科スピリッツ
- 終章 文化に酔う

ミュージアム・レクチャー

※いずれも14:00～15:30 3Fセミナー室にて

【第45回】12月8日(土) 「日本における薬用酒」

森 隆治 (日東薬品工業・特別顧問)

【第46回】12月15日(土) 「国酒を支えた近代の技師たち」

溝口 晴彦 (菊正宗酒造・総合研究所長)

【第47回】2013年1月12日(土) 「ジャパニーズ・ウイスキー誕生「神話」」

竹内 恵行 (大阪大学大学院経済学研究科・准教授)

【第48回】1月19日(土) 「酔狂の室町時代」

松永 和浩 (大阪大学総合学術博物館・助教)

※いずれも聴講自由、試飲会なし。30分前より受付開始【定員60名(事前申込不要・先着順)】

ワークショップ

※いずれも17:00から 3Fセミナー室にて

11月3日(土) 「酒のみりよく ～焼酎編～」 (本坊酒造)

◆申込期間 平成24年10月5日～平成24年10月22日(必着)

11月10日(土) 「酒のみりよく ～ウイスキー編～」 (サントリー)

◆申込期間 平成24年10月12日～平成24年10月23日(必着)

12月1日(土) 「酒のみりよく ～ビール編～」 (アサヒビール)

◆申込期間 平成24年11月2日～平成24年11月13日(必着)

※いずれも事前申込必要 試飲会あり【定員30名】

創立10周年記念特別企画 「酒ヲ愛デ、文華ニ酔フ～絵に酔い、酒に酔い、音に酔い～」

11月24日(土) 13:00～16:45

■特別講演 …… 13:15～14:15 「摂津の酒—池田と呉春をめぐって—」 冷泉 為人 (冷泉時雨亭文庫・理事長)

■演奏会 …… 13:00～13:15 / 15:15～15:45 雅楽同好会 夕風

■試飲会 …… 15:00～16:45

- 菊正宗酒造(灘) ●秋鹿酒造(能勢) ●新政酒造 ●小玉醸造(以上、秋田)
- 米鶴酒造(山形) ●木戸泉酒造(千葉)

■会場 … 大阪大学会館 講堂・アセンブリーホール (〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-13)

※特別講演は申込不要、試飲会は事前申込必要【講演会定員 200名 試飲会定員 100名】

※特別企画の試飲会への参加は、特別講演聴講者に限らせていただきます。(試飲会のみの参加は不可です。)

◆申込期間 平成24年10月22日～平成24年11月5日(必着)

各種催しの申込について

- ワークショップ、創立10周年記念特別企画の試飲会については、往復はがきでの事前申込が必要です。
- 1名につき1枚の往復はがきで催事名(ワークショップについてはタイトルごとに1枚)・住所・氏名・電話番号・年齢を記入し、返信はがきの表に住所・氏名を明記のうえ、下記「申込先」宛にご応募ください。(但し、ご家族での応募に限り複数名の応募が可能です。全員の氏名・年齢を記載願います。)後日、当否の結果をはがきでお知らせいたします。
- 試飲会については、20歳未満の方、お車でお越しの方はお断りさせていただきます。また、年齢確認をさせていただくこともございます。
- 申込先: 〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 (大阪大学会館4階) 大阪大学総合学術博物館

会場・お問い合わせ

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館
 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20
 Tel: 06-6850-6284
 http://www.museum.osaka-u.ac.jp/

交通のご案内

阪急宝塚線「石橋駅」下車 徒歩10分 ※公共交通機関をご利用ください。



上方は日本列島の酒の歴史をリードしてきました。しかもそれは生産・技術に止まらず、社会・文化にまで及びます。

江戸時代、清酒を大量生産した伊丹・池田、寒造りを確立した灘などの「下り酒」が江戸の市場を席卷し、経済的繁栄を背景に文人墨客を集めました。近代には巨大ビール工場が明治24年(1891)に吹田村に登場し(現アサヒビール吹田工場)、斬新な広告でワインをヒットさせた寿屋(現サントリー)が、大正13年(1924)に山崎で国産ウイスキーの製造を開始して、洋酒の製造・普及を牽引しました。

明治30年(1897)、国内初の醸造科が大阪高等工業学校(大阪大学工学研究科の前身)に誕生しました。焼酎白麹の発見者・河内源一郎(1883-1948)、秋田吟醸酒の父・花岡正庸(1883-1953)、ウイスキーの伝道師・竹鶴政孝(1894-1979)(ニッカウヰスキー創業などを輩出し、大阪帝国大学理学部卒の佐治敬三(1919-1999)(元サントリー会長も、日本に「洋酒のある生活」を定着させるなど、酒造業の近代化に貢献しました。

本展覧会では、上方および大阪大学の先駆的・革新的役割について、各種資料に基づき多方面から紹介いたします。当館創立10周年を記念した文理融合の展覧会をお楽しみ下さい。

報 告

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 第 15 回企画展

「ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—」

大阪大学総合学術博物館

助教 松永 和浩

第 15 回企画展「ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—」は、春季の第 5 回特別展に引き続き当館創立 10 周年記念として開催した。期間中、のべ 3,715 名の方に来館していただいた。

文理融合の展覧会を目指す当館にとって、産業・技術に止まらず、社会・文化といった幅広さを持つ酒は、10 周年を記念するに相応しいテーマである。また後述するように、上方が日本列島の酒をリードしてきた側面を照射することで、地域貢献を果たせると考えた。さらには本学工学研究科の前身・大阪高等工業学校に設置された日本初の醸造科から、いかに多彩な人材が輩出したかを明らかにすることで、大学史の充実化も図った。

上方と大阪大学の歴史を考える上で、酒は欠かせない重要な要素である。最近の大学では学内での飲酒を禁止するなど酒を規制する方向にあるなか、酒の歴史を正当に評価する意味でも、かような歴史を有する大阪大学の博物館が企画することに意義があると考えた。

酒をテーマとする展示は各酒造メーカーが行っているが、その内容は当然ながら製造する酒類・製品と自社の歴史に限定される。そこでこの企画展では、多数の酒類を“ちゃんぽん”する横断性と、時間軸という縦断性とで特徴づけた。よって、次のような展示構成をとった。

序 章 古代・中世の酒づくり—都の酒、寺の酒—

第 1 章 江戸を席卷する「下り酒」

第 2 章 洋酒製造・普及の最前線

① 大阪の麦酒工場 ② 寿屋のワイン販売戦略

第 3 章 ジャパニーズ・ウイスキーの先駆者

① 最初の事業家・鳥井信治郎 ② 最初の技術者・竹鶴政孝

第 4 章 大阪高工醸造科スピリッツ

終 章 文化に酔う

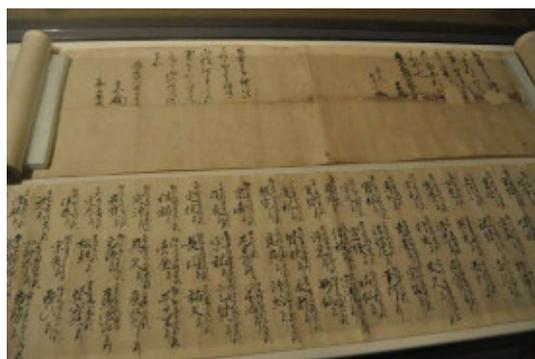
序章では、日本酒の基本的製法が確立する戦国期までを対象とした。古代・中世の酒造りは朝廷の造酒司、京都の酒屋、各地の寺社で主に行われており、それぞれ平城京造酒司址出土の「酒」と墨書された土器、室町期京都の「酒屋交名」（交名とはリストのこと）と酒仕込み甕、「天野酒」をつくる金剛寺（河内長野市）に宛てた豊臣秀吉の朱印状を展示し

た。天下人が「天野酒」を好んだ事実、親近感を抱く観覧者も多かった。「酒屋交名」は中世史研究者にとって著名だが実見する機会の少ない貴重史料である。

第1章では、江戸に送られる酒の9割以上を占めていた「下り酒」を取り上げた。伊丹・灘の銘柄がほぼ独占する幕末の番付「銘酒づくし」や、『童蒙酒造記』をはじめとする近世の主要な酒造技術書を網羅して、「下り酒」の名声がいかに高かったかを示した。これらは酒や鯨に関する資料を豊富に所蔵するケンシヨク「食」資料室から借用した。同資料室の吉積二三男氏による地道な資料蒐集活動の賜物であり、その一端を紹介できたことは博物館の役割としても重要なものだろう。

第2章では近代に流入した洋酒のうち、大阪におけるビール(①)とワイン(②)の製造・普及の足跡を追った。①ではまず、ビールを実験醸造した三田藩出身の川本幸民、堂島でビール事業を開始した渋谷庄三郎という、二つの日本人初の事績をパネルで紹介した。続いて明治24年(1891)に当時最新の設備を備えた近代的ビール工場・吹田村醸造所を開設した大阪麦酒会社の変遷をたどった。重要科学技術史資料に指定されている同工場の設計図「醸造所基本設計書」をはじめ、「ビールラベルコレクション」、内国勸業博覧会のパンフレット、ポスター、引札(チラシ)など、吹田村醸造所の後身・アサヒビール吹田工場に保管されている資料を展示した。②では寿屋(現サントリー)の創業者・鳥井信治郎が「赤玉ポートワイン」をヒットさせる大きな要因となった特色ある広報活動を、チラシやポスターを用いて再現した。子どもの落書のような新聞一面広告、日本初のヌードポスターは複製であったが、その魅力は十分に伝わったと思う。

第3章は、今では世界五大ウイスキーに名を連ねるジャパニーズ・ウイスキーの誕生に迫る。①では「赤玉ポートワイン」の次に鳥井が挑んだウイスキー事業について、操業当時の山崎蒸溜所の写真、国産初のウイスキーのポスター(複製)に始まり、古いボトル、ウイスキーを大衆化させた「トリスを飲んでハワイへ行こう」などのポスター(複製)、『洋酒天国』、寿屋のノベルティグッズを展示し、懐かしさと新鮮さが交錯する空間を演出した。また大阪帝大理学部卒の佐治敬三(サントリー2代目社長)が手がけた科学啓蒙雑誌『ホームサイエンス』



「酒屋請文」(上)・「酒屋交名」(下)。室町期京都の酒造業の実態を窺うことのできる貴重な資料。北野天満宮所蔵。



サントリー製品およびサントリーチェーンバーに置かれたノベルティグッズ。

を展示し、佐治と阪大・学問とのつながりを示した。②では単身スコットランドへ渡り、蒸留技術を持ち帰った竹鶴政孝の生涯をたどる。ジャパニーズ・ウイスキーの原典ともいべき「竹鶴ノート」(複製)や実習の記録、「竹鶴ノート」内の写真の数々を掲げた。竹鶴は山崎蒸溜所の初代工場長を務めたが、後に独立してニッカウキスキーを創業する。陳列したニッカの第1号ウイ



竹鶴政孝とニッカウキスキーの第1号ウイスキー(1940年)をカウンター越しにのぞむ。

スキーは、ウイスキーファンには垂涎のものだったであろう。なお竹鶴がスコットランドの蒸留所で実習に打ち込めた前提に、大阪高工醸造科で学んだ理論がある。竹鶴の自伝『ウイスキーと私』には、当初入学したグラスゴー大学の講義は「すでに日本で勉強したことの繰り返しであった」とある。大阪高工醸造科の教育レベルが窺える証言として、この部分を見開き展示した。②については、2011年11月に開催された大阪大学附属図書館企画展「国産ウイスキーの父 竹鶴政孝～はじまりの場所～」が大いに参考になった。

第4章では、大阪高工醸造科に在籍した教員・学生の業績を、パネルと関連資料をもとに紹介した。解説パネルでは兼任教員の原島俊教授(工学研究科)の仲介で、醸造科の流れを汲む工学部醸酵工学科出身の大嶋泰治・ト部格両名誉教授と溝口晴彦氏のご協力を仰いだ。解説パネルは16枚に上り、観覧者を辟易させたかも知れないが、彼らの業績の重みを物量的に示そうとした



大阪高工醸造科出身者の業績をパネルにて紹介。中央のレリーフは醸造科初代教授坪井仙太郎。

ものである。但し管見の限り醸造科を酒造史に位置づけた研究はなく、今後の課題であることが浮き彫りとなった。

終章では、池田の酒にその名を留める四条派の画家・呉春の「柳舟図屏風」などを展示した。ケースのサイズに制限があり、六曲一双の作品を一隻ずつしか展示できず、会期中で展示替えせざるを得なかった。

以上の内容を伝える上で、展示空間にもこだわった。修学館のエントランスには杉玉(酒林)をつり下げ、鮮やかな緑が日を追って枯れていく様子を展覧会の熟成に重ね、リピーターに楽しんでもらおうとした。会場内にはバーカウンターを設置し、章ごとの仕切りを開放的にすると同時に、休憩所を兼ねた。壁紙の色は、序章が当時の酒器であった土器(か

わらけ)、第1章が酒蔵の漆喰壁、第2章①がビールの原料の大麦、②が赤ワイン、第3章①がウイスキー樽、②がスコットランドの国旗、第4章が清澄な吟醸酒・焼酎をイメージした。展示会場出口には縄のれんと赤提灯を掲げ、観覧後に「さあ、飲もう」という気分を演出、会期中に限り関係酒蔵の製品を提供したカフェ「坂」や石橋商店街へといざなった。終章は別会場として、大阪大学会館の歴史展示室を利用する初の試みであった。本会場からの導線として待兼山の遊歩道を考えたが、山頂の大正天皇行幸碑と関連する『池田酒史』を第2章で展示し、行幸碑を眺めながらの移動を勧めることで間延びしないよう努めた。

今回の企画展では、関連企画も充実させた。ミュージアム・レクチャーでは、文理両面から酒に迫った。日東薬品工業の森隆治氏は薬用酒の効能などについて漢方の理論をもとに説明し、菊正宗酒造の溝口晴彦氏は醸造科の卒業生を中心に日本酒の製造技術の発展を同じ卒業生・技術者の立場で紹介した。経済学研究科の竹内恵行准教授はジャパニーズ・ウイスキーの二大メーカーであるサントリーとニッカウヰスキーそれぞれの「神話」間のズレに着目して企業イメージの広報戦略を読み解き、歴史学が専門の松永は室町幕府の財政構造と将軍の嗜好から室町幕府を“酒浸り”の政権として位置づけようと試みた。

ワークショップは「酒のみりよく」と題し、計3回の試飲会を開催した。焼酎編は本坊酒造（瀬崎俊広生物工芸研究所長ほか）に、ウイスキー編はサントリー（木村俊一ウイスキー部品質担当ジェネラルマネージャーほか）に、ビール編はアサヒビール（青木賢吉吹田工場長ほか）に全面協力を賜った。焼酎編では原料となる芋・麦や麴、蒸留方法・貯蔵方法の違い、ウイスキー編ではオーク・シェリーそして貴重なミズナラと貯蔵樽の違い、ビール編では上面発酵・下面発酵の違いから、「酒の魅力」を味わった。酒が入るに連れて舌が滑らかとなり、講師の話はそっちのけという場面もあったが、その場に居合わせたこれまで面識のなかった人同士が親しく会話する状況も生まれ、「酒飲み力」を見せつけられた。



ワークショップ「酒のみりよく～焼酎編～」では11もの銘柄を試飲した。

ワークショップ「酒のみりよく」と題し、計3回の試飲会を開催した。焼酎編は本坊酒造（瀬崎俊広生物工芸研究所長ほか）に、ウイスキー編はサントリー（木村俊一ウイスキー部品質担当ジェネラルマネージャーほか）に、ビール編はアサヒビール（青木賢吉吹田工場長ほか）に全面協力を賜った。焼酎編では原料となる芋・麦や麴、蒸留方法・貯蔵方法の違い、ウイスキー編ではオーク・シェリーそして貴重なミズナラと貯蔵樽の違い、ビール編では上面発酵・下面発酵の違いから、「酒の魅力」を味わった。酒が入るに連れて舌が滑らかとなり、講師の話はそっちのけという場面もあったが、その場に居合わせたこれまで面識のなかった人同士が親しく会話する状況も生まれ、「酒飲み力」を見せつけられた。

特筆すべきは、創立10周年記念特別企画である。美術史家で藤原定家を祖とする冷泉家当主・冷泉為人氏による講演、醸造科卒業生の酒蔵や近隣の日本酒メーカーによる試飲会、雅楽同好会 夕風による演奏と、非常に華やいだ会となった。試飲会では当館のロゴが入ったお猪口を片手に、老若男女100名がひしめき合いながら新酒や肴の晩菊（三奥屋提供）などを堪能した。新政酒造・小玉醸造の秋田酒や独特の古酒・濃厚多酸酒をつくる木戸泉



冷泉時雨亭文庫・理事長 冷泉為人氏による特別講演の様子。

酒造と、阪大ならではの珍しいラインナップだったと自負している。当日は大阪大学日本酒サークルのメンバーが会場設営から酒の説明までをこなし、多大な戦力となったばかりでなく、参加者・出品メーカー双方からも好評を得た。

また第 5 回特別展に引き続き、ミュージアム・トークを土曜日を中心に計 18 回開催した（11 月 3・4・10・17 日、12 月 1・8・22 日、

1 月 5・12・19 日）。特にミュージアム・レクチャー後に開催した際は多数の参加者があり、相乗効果が高かった。担当者は当館館員はもちろん、学芸員養成課程の「博物館学（学内実習）」受講生も務め、教育の機会にも活用した。

今回の企画展開催に合わせ、大阪大学総合学術博物館叢書 8 として『ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高等工業学校醸造科—』を刊行したことも付言しておきたい。当館の展覧会では必ずしも図録を用意して来なかったが、内容理解の大きな助けになることは疑いなく、今後も継続していくことが望まれる。

地域連携の具体的試みとしては、居酒屋が軒を連ねる石橋商店街の石橋下町倶楽部加盟店に、関連企画参加者へのサービス提供を依頼した。結局のところ、とり竹グループ一社だけの協賛となり、準備不足が露呈した形となった。テーマの特殊性から可能になった部分も大きいですが、入念に準備をしつつ取り組むべき課題であろう。

最後に、今回の企画展開催に当たっては、大阪高工を前身とする工学研究科および同醸造科の同窓会組織から発展した日本生物工学会より共催として資料と原島兼任教員をはじめとする協力者の提供、同窓会組織の尚醸会より協力として前記の大嶋・ト部・溝口三氏の協力を得た。アサヒグループ・サントリー・本坊酒造からは資料提供、ワークショップへの酒類提供と講師派遣、レセプション兼創立 10 周年記念祝賀会への酒類提供など、多岐にわたりご助力いただいた。その他にも数多くの機関・企業のご協力を得たが、紙幅の関係上、個別に列挙することは割愛し、謝意を表するに止めておく。

今回の企画展を通じ、上方・阪大と酒の関わりの深さを実感していただくことが出来た。多くの方は意外な印象を受けたようで、上方・阪大の魅力を引き出すことに成功した展覧会であったと総括したい。

3. 創立 10 周年記念事業報告

大阪大学総合学術博物館は 2012 年(平成 24 年)に創立 10 周年を迎えた。それを記念し、春季に第 5 回特別展「巨大ワニと恐竜の世界 ―巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防―」、秋季に第 15 回企画展「ものづくり 上方“酒”ばなし ―先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科―」を開催するとともに、著名な専門家を招き、講演会やシンポジウムを実施した。いずれのイベントでも 100 人を超える参加があり、好評であった。

概 要

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 特別講演会

テーマ：「伝統と革新 ―ユニバーシティ・ミュージアムが発信する学際研究―」

日 時：2012 年 6 月 22 日 (金)

会 場：大阪大学会館 講堂

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：豊中市

来場者数：142 人

講演 1 「大正時代の京大所蔵標本が導いたクニマス発見」

中坊 徹次 氏 (京都大学総合博物館、教授・前館長)

講演 2 「欧米大学附属美術館」

蓑 豊 氏 (兵庫県立美術館館長、金沢 21 世紀美術館特任館長、大阪市立美術館名誉館長)

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 文化財公開シンポジウム

テーマ：「奈良の大仏はなぜ“若くみえる”のか？

―美術史、化学、修復からみた金銅仏の最新研究―」

日 時：2012 年 9 月 8 日 (土)

会 場：大阪大学会館 講堂

主 催：大阪大学総合学術博物館

共 催：大阪大学大学院文学研究科

協 力：大阪大学 21 世紀懐徳堂

来場者数：135 人

講 演

講演 1 「美術史の眼―金銅仏研究の現在―」

藤岡 穰 氏 (大阪大学大学院文学研究科教授 [日本東洋美術史])

講演 2 「化学から大仏の謎を解く」

笠井 俊夫 氏 (大阪大学名誉教授)

講演 3 「私の修復した金銅仏たち―薬師寺、蟹満寺、東大寺八角燈籠―」

八坂 寿史 氏 (財団法人 美術院国宝修理所 主任技師)

対 談

藤岡 穰 氏・笠井 俊夫 氏・八坂 寿史 氏

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 シンポジウム

テーマ：「オオサカがとんがっていた時代 大阪のアヴァンギャルド芸術

—焼け跡から万博前夜まで—

日 時：2012 年 11 月 25 日（日）

会 場：大阪大学中之島センター10 階 佐治敬三メモリアルホール

主 催：大阪大学総合学術博物館

協 力：大阪大学大学院文学研究科、大阪大学 21 世紀懐徳堂

来場者数：156 人

第 1 部「戦後大阪の美術とグタイピナコテカ」

高橋 亨 氏（美術評論家、大阪芸術大学名誉教授）

向井 修二 氏（イメージプロデューサー、元具体美術協会会員）

加藤 瑞穂 氏（大阪大学総合学術博物館招へい准教授）

第 2 部「オオサカのアヴァンギャルド芸術とは何だったか

—美術・デザイン・舞台・音楽—

熊田 司 氏（和歌山県立近代美術館館長）

竹内 幸絵 氏（大阪市立大学非常勤講師、サントリーホールディングス）

永田 靖 氏（大阪大学大学院文学研究科長）

上野 正章 氏（大阪大学大学院文学研究科招へい研究員）

伝統と革新

—ユニバーシティ・ミュージアムが発信する学際研究—

プログラム

14:30	開会
14:30~14:40	挨拶
14:40~15:40	講演 1 「大正時代の京大所蔵標本が導いたクニマス発見」
15:40~16:00	休憩
16:00~17:00	講演 2 「欧米大学附属美術館」
17:00	閉会の挨拶

講演 1 中坊 徹次 「大正時代の京大所蔵標本が導いたクニマス発見」

絶滅していたと考えられていたクニマスを山梨県西湖で発見したのは、京都大学に 90 年間保管されていた秋田県田沢湖産の 9 個体のクニマス標本が発端だった。2003 年にこの魚の特異な生態を知り、所蔵標本から CG（コンピュータグラフィックス）で生きた姿の復元を考えたが実現せず、絵による復元となり、結果として本物の生存を確認するに至った。戦後生まれにとって誰も見たことが無い魚を、そうであると断定することの理詰めの研究過程、幻の魚クニマスの正体、大学で過去に研究された標本を保存することの重要性をお話したい。

講演 2 蓑 豊 「欧米大学附属美術館」

ハーバード大学大学院で中国・遼時代の陶磁研究をするなかで、美術作品はいうまでもなく、来館者と直接ふれあえる美術館の世界に興味をいだいた。シカゴ美術館東洋部長や、「フェルメール展」を開催した大阪市立美術館のほか、金沢 21 世紀美術館の初代館長、兵庫県立美術館の館長を歴任した体験を踏まえ、アメリカにおける主要な大学附属美術館、博物館がいかに魅力に満ちているかを検証するとともに、美術館が街を変え、文化が都市へ及ぼす経済波及効果についてお話したい。

講演者について

中坊 徹次（なかぼう てつじ）

京都大学総合博物館 教授・前館長

略歴：京都生まれ。京都大学大学院農学研究科博士課程修了。京都大学農学部助教授をへて京都大学総合博物館教授。平成 17・18 年度同総合博物館館長。農学博士。専攻は魚類学。



蓑 豊（みの ゆたか）

兵庫県立美術館館長・金沢 21 世紀美術館特任館長・大阪市立美術館名誉館長

略歴：金沢生まれ。米国ハーバード大学博士号取得。ロイヤルオンタリオ博物館、モントリオール美術館、インディアナポリス美術館、シカゴ美術館の東洋部学芸員・部長を歴任。平成 8 年から大阪市立美術館、金沢 21 世紀美術館をへて兵庫県立美術館館長。平成 17 年金沢市助役、19 年サザビーズ北米本社 副会長。文学博士。



報告 1

大阪大学総合学術博物館 創立 10 周年記念特別講演会 伝統と革新 ―ユニバーシティ・ミュージアムが発信する学際研究―

大阪大学総合学術博物館
准教授 高橋 京子

大阪大学総合学術博物館は、平成 14 年に発足以来、「地域に生き 世界に伸びる」大阪大学のモットーのもと、市街地に残る貴重な里山・待兼山の遊歩道が結ぶ二つの登録文化財の大阪大学会館（旧イ号館、昭和 3 年竣工）と待兼山修学館（昭和 6 年竣工）を拠点に、「ユニバーシティ・ミュージアム」ならではの特色ある視点で、多分野にわたる大阪大学の研究成果を発信してきた。大阪大学にしかできない企画・デザインにこだわり、学問の枠組に縛られることなく、ストーリー性を展示構成のよりどころとした特別展・企画展、併せて、30 回、2～5 回/年のペースで開催した。のべ来館者数は 11 万人を越える。

平成 24 年、当館は創立 10 周年を迎え、更なる飛躍を目指す新たな出発を祈念して、世界で活躍されている理系・文系の各専門家による大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念講演会を計画した。それは文理融合を象徴する講演とするため、ユニバーシティ・ミュージアムの重要なミッション：①大学の学術標本資料の価値を再発見し、教育・研究の現場で活用する、②ものが持つ迫力：バーチャルリアリティと現実の峻別、③リテラシーの向上に資する、④文化としての科学技術、の視点の下、実績に裏付けられた研究者哲学にふれることを志向した。最終的に、理系講演は京都大学総合博物館 教授・前館長 中坊徹次先生（農学博士）、文系講演は兵庫県立美術館館長・金沢 21 世紀美術館特任館長・大阪市立美術館名誉館長 蓑豊先生（文学博士）にお引受けいただき、平成 24 年 6 月 22 日（金）大阪大学会館・講堂において講演会を開催した。

I. 理系講演：「大正時代の京大所蔵標本が導いたクニマス発見」

中坊徹次先生（農学博士）は京都大学農学部ご出身で魚類学がご専門である。「秋田県田沢湖で絶滅した魚、クニマス（サケ科サケ属）が 2010 年山梨県西湖で京都大学の中坊研究チームによって生存が確認された。絶滅前にいくつかの湖に移植されたが、1935 年に田沢湖から西湖に送られた 10 万粒の発眼卵の末裔が見つかったのだ。」というニュースは記憶に新しい。このセンセーショナルな発見は大正時代の京大所蔵標本が大きな役割を演じ、まさに「①大学の学術標本資料の価値を再発見し、教育・研究の現場で活用する」を具現化した研究といえる。

淡水生物の生態を研究するには、それぞれの種について分類が確立され、学名がつけら

II. 文系講演：「欧米大学附属美術館」

蓑豊先生（文学博士）は、米国の3大美術館の一翼を担うシカゴ美術館の東洋部長など、26年間にわたって北米美術館の要職を歴任された。帰国後は米国流の集客術を持ち込み、従来の美術館の記録を塗り替えてきた。斬新な発想と行動力で、活動範囲は美術を核にした地域再生まで広がる。また、長く専門家として研究し



講演を行う蓑豊先生。

てきたのは、ハーバード大学・大学院で専攻した中国・遼時代の陶磁器で、大学と美術館が連携する研究環境で培われたセンスは、その活躍基盤となっている。美術作品はいうまでもなく、来館者と直接ふれあえる美術館の世界に興味をいだいたという。それは、①大学の学術標本資料の価値を再発見し、教育・研究の現場で活用することと、②ものが持つ迫力：バーチャルリアリティと現実の峻別の両者につながる。

美術館は「本物」をその目で鑑賞できる場、それは「最強のコンテンツ」を比較的安価で体験できる素晴らしい空間である。本物の美と日常的にふれてこそ、感性が磨かれることを強く話された。アメリカにおける主要な大学附属美術館や博物館がいかにも魅力に満ちているかを多くのスライドと共に検証し、美術館が街を変え、文化が都市へ及ぼす経済波及効果を提示された。1670年世界で最初にできた美術館・オックスフォード大・アシモレ（Ashmolean museum of Art and Archaeology University of Oxford）、ケンブリッジ大・フィッツウィリアム（The Fitzwilliam Museum University of Cambridge）、アメリカでのノーベル賞受賞者を多く輩出する大学の一つ、ハーバード大の自然史博物館（Harvard Museum Natural History）に収蔵されるガラスの花（The glass flowers）は849種類の植物をガラスで再現したもので、その精巧さは突出している。紹介された世界的規模の美術館は、いずれも長い伝統に彩られたトップブランドである。一方、日本の美術館/博物館の歴史は、博覧会が出発点で、教育とはかけ離れていた。当然、成り立ちが異なる日本の大学附属美術館はその格差のみを実感するばかりとなる。

では、どうすれば、市民が楽しみ、感性が磨かれるのか？ 数千年前に存在した実物への畏敬・驚き、本物に合う感動、喜びを経験することの大切さ、幼少期に博物館・美術館へ行った経験がない子は、成長後もあまりいけない。大学の美術館を楽しんで、将来、この大学で勉強したいという体験・印象を大事にする、すなわち、「子供に対して美術館の素晴らしさを教えたい」の思いが蓑先生の原動力となっている。子供が集うようになった美術館は、周囲の街をも変えるパワーを発揮しだすという²⁾。その事例に2000年に大阪市立美術館で開催した「フェルメール展」では子供をターゲットに据え、子供だけが入館でき

る日を設定する等、最終的に 60 万人を動員した。また、金沢 21 世紀美術館の場合は、金沢再生を担った美術館となった。開館 1 年で 157 万人の入館者数を達成したが、それには、子供だけでなく、美術館のルックスに苦心した。最も重要なのは建築、そして美術館ポスター、チラシ、オリジナルグッズ等々、デザインが観客に与える影響は大きいことを示された。

1 つのブランドを構築するためのデザインには、一貫した哲学が必要となる。蓑先生が理想とする美術館のコンセプトとして、①Simple (単純明快)、②Unexpected (意外性がある)、③Concrete (具体性がある)、④ Credible (信頼性)、⑤ Emotional (感情に訴える)、⑥ Story (物語性がある) とするスタンフォード大学教授が提唱するデザイン理論を引用された³⁾。

講演最後に、大阪大学総合学術博物館 創立 10 周年記念・第 5 回特別展『巨大ワニと恐竜の世界 ―巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防―』について、「自然史博物館でないのに、大学でこのような展覧会を開催する素晴らしさ」とのコメントは、子供を対象とした①Simple、②Unexpected、③Concrete、⑥ Story の一端を満たす評価と拝聴した。

創立 10 周年記念講演会「伝統と革新 ―ユニバーシティ・ミュージアムが発信する学際研究―」にご協力いただいた関係者各位に深謝申し上げます。

引用文献

- 1) Nakabo T. Nakayama K. Muto N. Miyazawa M, *Oncorhynchus kawamurae* “Kunimasu,” a deepwater trout, discovered in Lake Saiko, 70 years after extinction in the original habitat, Lake Tazawa, Japan, *Ichthyol Res.*,58: 180-183 (2011)
- 2) 蓑 豊、『「超集客力」で街を変える』、日経ビジネス 2012 年 5 月 21 日、86-89 頁
- 3) 蓑 豊著、『超〈集客力〉革命～人気美術館が知っているお客の呼び方』、角川書店、東京、(2012)

大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 文化財公開シンポジウム

奈良の大仏はなぜ “若くみえる”のか？

—美術史、化学、修復からみた金銅仏の最新研究—

入場
無料

2012年 9月8日 土 第1部 (講演) 13:30~
第2部 (対談) 15:15~

大阪大学会館講堂 (大阪府豊中市待兼山町 1-13)

【主催】大阪大学総合学術博物館 【共催】大阪大学大学院文学研究科 【協力】大阪大学 21 世紀懐徳堂
本シンポジウムに関する問い合わせ先 大阪大学総合学術博物館 Tel: 06-6850-6715
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>



概要

地球上で最も大きな金属の鋳造物としてユネスコ世界遺産に登録される東大寺の大仏像は、造立から1200年以上も経た現在でも像表面はもろくなっておらず、銅の酸化が深い層までそんなに進行していないという事実が驚かされます。これは、湿度の多い日本の気候のもとでの自然酸化の現代科学知識をしてもまったく不思議なことです。「大仏がなぜ若く見えるのか？」のなぞ解きは、大阪大学産業科学研究所へ短期来日した Rui Lobo 教授 (New University of Lisbon、ポルトガル) と笠井俊夫名誉教授との共同研究における議論に端を発し、SPRing-8 における銅合金の表面酸化反応に関する共同研究を基礎にしながら、美術史の専門家の助言も得て、イタリアアカデミー (Accademimia dei Lincei : アッカデーミア・デイ・リンチェイ : 山猫学会、17世紀創設) の会誌 Rendiconti Lincei - Scienze Fisiche e Naturali Vol. 24 (2012) (物理科学系の学術雑誌で、ガリレオ・ガリレイが彼の論文を投稿した会誌) の6月号に掲載されました。この大仏についての文化財科学の新知見をもとに、仏教美術を専攻する美術史の専門家と、美術院国宝修理所で数々の金銅仏を修復した仏師をむかえ、それぞれの立場から金銅仏研究の最先端を紹介し、金銅仏の魅力と謎についての文化財公開シンポジウムを開催します。

第1部 講演 13:30 ~

講演 1 ふじおか ゆたか 藤岡 穰 大阪大学大学院文学研究科教授 (日本東洋美術史)

「美術史の眼—金銅仏研究の現在—」

略歴

1962年生まれ。東京芸術大学大学院美術研究科修士課程修了 (日本・東洋美術史専攻)。大阪市立美術館学芸員、大阪大学文学研究科助教授を経て現職。研究分野は東アジアの仏教彫刻史。2009年より「科学的調査に基づく半跏思惟像の日韓共同研究」プロジェクトの研究代表者をつとめ、半跏思惟像を中心に東アジアの金銅仏の科学的調査 (蛍光 X 線分析、X 線透過撮影、3次元計測ほか) を実施している。



講演 2 かさい としお 笠井俊夫 大阪大学名誉教授

「化学から大仏の謎を解く」

略歴

1946年生まれ。1979年大阪大学理学博士。その後米国ワシントン大学 / ライス大学博士研究員、1982年大阪大学理学部助手。1995年大阪大学理学部教授、2010年大阪大学名誉教授 / 国立台湾大学客座教授。2012年放送大学客員教授。専門は反応物理化学とくに反応立体ダイナミクスの基礎研究。エネルギー、大気化学、地球環境、文化遺産の保全などのさまざまな問題を化学の力で解決することを研究目標にしている。2004年 Stereodynamics 国際学会を主催。



講演 3 やさか ひさし 八坂寿史 財団法人 美術院国宝修理所 主任技師

「私の修復した金銅仏たち—薬師寺、蟹満寺、東大寺八角燈籠—」

略歴

1955年生まれ、滋賀県出身。昭和55年に、岡倉天心創設の美術院国宝修理所に入所し、仏像を中心に古文化財の保存修理に携わって現在三十三年目。東大寺南大門仁王像や唐招提寺金堂諸仏などの木彫仏の修復に携わったほか、平成7年より今日まで、薬師寺講堂安置重文薬師三尊像 (現、弥勒三尊)、東大寺大仏殿前国宝八角燈籠、京都府蟹満寺国宝釈迦如来坐像など、奈良時代の大型銅製文化財の保存修理を連続して担当した。



第2部 対談 15:15 ~

藤岡 穰・笠井俊夫・八坂寿史

参加方法

1) お名前 2) ご職業 3) E-mail アドレスまたは FAX 番号を明記の上、件名【10周年記念 シンポジウム参加希望】として、**8月31日まで**に、oubo@museum.osaka-u.ac.jp または FAX(06-6850-6049) でお申込み下さい。定員になれば締め切ります。



蟹満寺釈迦如来座像
(株) アコード

報告 2

大阪大学総合学術博物館 創立 10 周年記念 文化財公開シンポジウム

奈良の大仏はなぜ“若くみえる”のか？

—美術史、化学、修復からみた金銅仏の最新研究—

大阪大学総合学術博物館

准教授 豊田 二郎

総合学術博物館は、平成 14 年に発足以来、“地域に生き世界に伸びる”大阪大学のモットーのもと、市街地に残る貴重な里山・待兼山の遊歩道が結ぶ二つの登録文化財の大阪大学会館（旧イ号館、昭和 3 年竣工）と待兼山修学館（昭和 6 年竣工）を拠点に、“ユニバーシティ・ミュージアム”ならではの特色ある視点で、多分野にわたる大阪大学の研究成果を発信してきた。平成 24 年、当館は創立 10 周年を迎え、更なる飛躍を目指す新たな出発を祈念して、シンポジウムを開催した。

シンポジウムは次のように 2 部構成で行い、第 1 部では美術史、化学、修復の専門家を招き、ご講演いただいた。第 2 部は、第 1 部でご登壇頂いた御三方の鼎談の場とした。

【日時】2012 年 9 月 8 日（土） 【会場】大阪大学会館 講堂

【内容】第 1 部 講演（13 時 30 分～）

1. 藤岡 穰 大阪大学大学院教授（日本東洋美術史）

「美術史の眼—金銅仏研究の現在—」

2. 笠井俊夫 大阪大学名誉教授

「化学から大仏の謎を解く」

3. 八坂寿史 財団法人 美術院国宝修理所 主任技師

「私の修復した金銅仏たち—薬師寺、蟹満寺、東大寺八角燈籠—」

第 2 部 対談（15 時 15 分～）

藤岡 穰・笠井俊夫・八坂寿史

地球上で最も大きな金属の鑄造物としてユネスコ世界遺産に登録される東大寺の大仏は、天平 17 年(745)に造立がはじまり、天平勝宝 4 年(752)に開眼供養された。何度かの火災にあって大仏は焼け落ち、その後再建されたが、現存の大仏像台座部分は建造時のものと考えられている。記録によると、大仏建造に 500 トンの銅が使われ、260 万人が労役に服し、開眼供



文化財公開シンポジウムの様子。会場には多くの人々が訪れた。

養会には1万数千人が参列したと伝わっている。大仏像の表面は金と水銀とのアマルガムを使い炭火で水銀を気化させる鍍金（金メッキ）法で440キログラムの金が使われた。

大仏像は酸化銅特有の褐色であるが1200年以上も経た現在でも像表面はもろくならず、銅の酸化が深い層までそんなに進行していないという事実には驚かされる。湿度の多い日本の気候のもとでの自然酸化の現代科学知識をしてもまったく不思議なことである。

「大仏がなぜ若く見えるのか？」のなぞ解きは、大阪大学産業科学研究所へ短期来日した Rui Lobo 教授と笠井俊夫名誉教授との共同研究における議論に端を発し、スプリング8における銅金合金の表面酸化反応に関する共同研究を基礎にしながら、美術史の専門家の助言も得て、今回、イタリアアカデミー（Accademimia dei Lincei）の会誌 Rendiconti Lincei - Scienze Fisiche e Naturali Vol. 24 (2012) の6月号に掲載された。

文理融合による新しい研究領域の開拓をめざす大阪大学総合学術博物館では、この大仏についての文化財科学の新知見をもとに、仏教美術を専攻する美術史の専門家と、美術院国宝修理所で数々の金銅仏を修復した仏師をむかえ、それぞれの立場から金銅仏研究の最先端を紹介し、金銅仏の魅力と謎について議論を深める場とした。



第1部[講演1]「美術史の眼—金銅仏研究の現在—」（藤岡穰氏）の様子。



第1部[講演2]「化学から大仏の謎を解く」（笠井俊夫氏）の様子。



第1部[講演3]「私の修復した金銅仏たち—薬師寺、蟹満寺、東大寺八角燈籠—」（八坂寿史氏）の様子。



第2部[対談]の様子。藤岡氏、笠井氏、八坂氏の活発な議論や意見交換がなされた。

【プログラム】

13:30

趣旨説明 橋爪節也 大阪大学総合学術博物館館長、同大学院文学研究科教授兼任

13:40-15:00

第1部 「戦後大阪の美術とグタイピナコテカ」

高橋 亨 美術評論家、大阪芸術大学名誉教授

向井修二 イメージプロデューサー、元具休美術協会会員

加藤瑞穂 大阪大学総合学術博物館招へい准教授

15:15-17:00

第2部 「大阪のアヴァンギャルド芸術とは何だったか
—美術・デザイン・舞台・音楽—」

熊田 司 和歌山県立近代美術館館長

竹内幸絵 大阪市立大学非常勤講師/サントリーホールディングス

永田 靖 大阪大学大学院文学研究科長

上野正章 大阪大学大学院文学研究科招へい研究員

司会=橋爪節也

グタイピナコテカ(中之島・大阪)と具休美術協会会員たち 1962年
©The former members of the Gutai Art Association

大阪大学総合学術博物館創立10周年記念シンポジウム

AVANT-GARDE
Art in
GUTAI
PINACOTHECA

とんがってオオサカが
いた時代



大阪の アヴァンギャルド芸術

— 焼け跡から万博前夜まで —

2012年11月25日【日】 13:30-17:00

大阪大学中之島センター10階 佐治敬三メモリアルホール

定員=150名 聴講無料、事前申込み不要、当日先着順(開場は13:00より)

主催=大阪大学総合学術博物館

協力=大阪大学大学院文学研究科、大阪大学21世紀懐徳堂

向井修二による記号によって埋め尽されたジャズ喫茶「チェック」(梅田・大阪)1966年
© Shuji Mukai



大阪の アヴァンギャルド芸術

大阪大学総合学術博物館創立10周年記念シンポジウム

—— 焼け跡から万博前夜まで ——

吉原通雄(ロック・アラウンド・ザ・クロック) 1962年
© Naomi Yoshihara and the former members of the Gutai Art Association

パネリスト略歴

戦後焼け野原から再出発した大阪は、わずか20数年後には近未来都市のヴィジョンの実現とも言える大阪万博を開催しました。本シンポジウムでは、大阪が戦後の混乱から復興し、ヴァイタリティに富んでいた時代、すなわち1950年代から60年代に、芸術ではどのような実験の試みが成されていたのか、その全体像を明らかにしようとするものです。第1部では、特に美術のアヴァンギャルドで重要な位置を占めた具体美術協会(具体、1954-1972年)の拠点「グタイピナコテカ」に焦点をしばって、当時その活動に直接関わった作家、批評家の証言をもとに、「グタイピナコテカ」が美術の分野で果たした役割を再検討します。第2部では、美術のほかに、デザイン、舞台、音楽各分野での前衛的活動を、それぞれの専門家による報告を通して振り返り、大阪のアヴァンギャルド芸術とは何であったのかを討議します。それは、大きく変貌する現代大阪にあって、文化芸術の将来像を考える上でもきわめて有効にちがひありません。

問い合わせ先

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 豊中市待兼山町 1-13
tel. 06-6850-6715(平日 9:00-17:00)
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

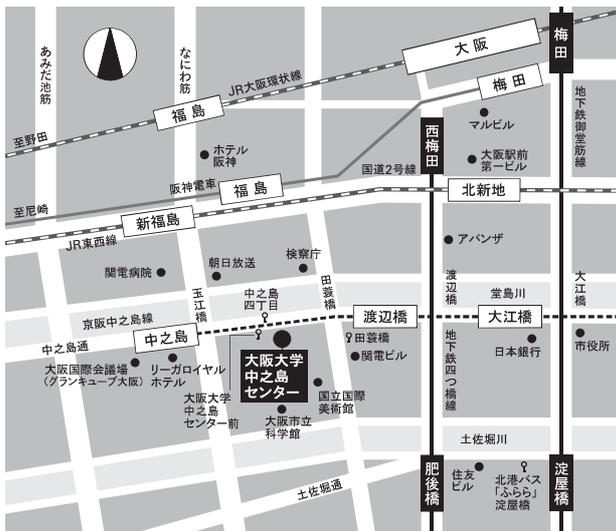


シンポジウム会場・交通案内

大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール

〒530-0005 大阪市北区中之島 4-3-53

- ◎京阪中之島線・中之島駅(6番出口)より徒歩約5分
- ◎京阪中之島線・渡辺橋駅(2・3番出口)より徒歩約5分
- ◎阪神電車・福島駅より徒歩約9分
- ◎JR 東西線・新福島駅より徒歩約9分
- ◎JR 大阪環状線・福島駅より徒歩約12分
- ◎地下鉄四つ橋線・肥後橋駅(4番出口)より徒歩約10分



高橋 亨 Takahashi Toru

1927年神戸市生まれ。美術評論家、大阪芸術大学名誉教授。東京大学文学部を卒業後、1952年に産経新聞大阪本社に入り、文化部記者として主に展覧会評など美術関係を担当して11年後に退社。具体美術協会の活動は結成直後から突進し、数多くの批評を発表。美術評論活動を続けながら1971年より26年間、大阪芸術大学教授を務める。兼務として大阪府民ギャラリー館長(1976-79)、大阪府立現代美術センター館長(1979-87)。大阪府民ギャラリーでは、具体解散後初の本格的な回顧展『具体美術の18年』(1976)開催と、詳細な記録集『具体美術の18年』の発行に尽力。その他、徳島県文化の森建設顧問として徳島県立近代美術館設立に参画し同館館長(1990-91)、滋賀県立近代美術館館長(2003-06)を歴任。

向井修二 Mukai Shuji

1940年神戸市生まれ。イメージプロデューサー、元具体美術協会会員。19歳から吉原治良に師事し第8回具体美術展より連続出品。1961年に記号の集積による絵画がミシェル・タビエに高く評価され、同年、部屋一面と自身を記号で覆った《記号の部屋》、1962年に舞台で、並んだ顔に記号を殴り書きする《顔と記号》を発表。翌年グタイピナコテカで初個展、以後国内外の大規模展に出品。1966年には梅田のジャズ喫茶「チェック」店内すべてを記号で埋め尽す。1969年に「創作行為は排泄行為」と見なし手元の全作品を焼却、無価値化し、吉原から学んだ「美術概念に当てはまらない」を元に起業。衣食住や医療分野での企画・プロデュースに没頭し、50歳で定年に至るまで六社余りを運営する。1993年に「ピラミッド相転移記号化計画」を立てるがCGの出現により中断。

加藤瑞穂 Kato Mizuho

1967年神戸市生まれ。大阪大学総合学術博物館招へい准教授。1993年より18年間、芦屋市立美術館学芸員。同館での具体関連企画展「菅野聖子展—詩と絵画と音楽と」(1997)、「草月とその時代 1945-1970」(1998)、「田中敦子—未知の美の探求 1954-2000」(2001)、「吉原通雄展」(2003)など。カナダの研究者との共同企画 *Electrifying Art: Atsuko Tanaka 1954-1968* (New York, 2004; Vancouver, 2005) で 2004-2005 AICA USA アワード「ニューヨーク市内で開かれた美術館での企画部門」第二席。第19回鹿島美術財団賞優秀者(2012)。最近の共著に『復刻版具体』別冊(藝華書院、2010)。Atsuko Tanaka. *The Art of Connecting* (国際交流基金主催、2011-12) コ・キュレーター。

熊田 司 Kumada Tsukasa

1949年神戸市生まれ。和歌山県立近代美術館館長。1977年、関西学院大学大学院文学研究科(美学専攻)博士課程修了。財団法人香雪美術館、財団法人西宮市大谷記念美術館学芸員、ふくやま美術館学芸課長、大阪市立近代美術館建設準備室研究主幹を経て現職。この間、「生誕90年小出楯重展」(1977)、「日本近代銅版画展」(1982)、「生誕100年記念佐伯祐三展」(1998)、「生誕100年記念吉原治良展」(2005)などの展覧会を企画実施。編著書に『復刻版「車上」』(京都書院、1990)、『小出楯重画集』(共著、同刊行委員会、2002)、『森琴石と歩く大阪』(共著、東方出版、2009)、『森琴石作品集』(共著、東方出版、2010)など。専門は近代美術史。とりわけ日本近代絵画、版画などを主な研究テーマとしている。

竹内幸絵 Takeuchi Yukie

1963年大阪府生まれ。サントリーホールディングス株式会社勤務。大阪市立大学文学部、関西学院大学社会学部非常勤講師。博士(学術)。専門は歴史社会学、広告史、デザイン史。サントリーミュージアム(天保山)学芸員時代に20世紀初頭の興隆期欧州ポスターを調査。その後、日本の同時代の広告業界人らがそれらに触発された社会史を研究。著書に『近代広告の誕生—ポスターがニューメディアだった頃』(青土社、2011)、共著に『幻の東京オリンピックとその時代』(青弓社、2009)。第17回鹿島美術財団賞優秀者(2010)、第9回木村重信民族芸術学会賞(2012)。最近の研究は、GHQ押収雑誌資料による占領期の広告研究、テレビ黎明期のCMデータベース構築と表現研究、広告代理店「萬年社」と大阪の広告史。

永田 靖 Nagata Yasushi

1957年三重県生まれ。大阪大学大学院文学研究科長。専門は近代演劇史、演劇理論。学生時代に、20世紀前衛演劇の極北の一つオディン劇場の日本ツアーに通訳として随行、ヨーロッパ演劇とアジア演劇の接触融合の無限の可能性に触発される。日本演劇学会事務局長。国際演劇学会(IFTR)理事。IFTR Asian Theatre WG主宰者。アジア諸都市で研究集会を開催し、アジアにおける共同研究とそのネットワーク構築を推進中。最近の共著に *Theatre and Democracy* (Rawat, 2008)、*The Local meets the Global in Performance* (Cambridge, 2010)、*Re-writing Chekhov: the Text and its Mutations* (Routledge, 2012) など。

上野正章 Ueno Masaaki

1966年滋賀県生まれ。大阪大学大学院文学研究科招へい研究員、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター非常勤講師。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。専門は音楽学、音楽史(近現代)。日本におけるジョン・ケージの受容、近代日本の地方都市における西洋音楽の受容、近代日本における西洋音楽の独学の研究に取り組んでいる。日本サウンドスケープ協会理事。共編著に『歌と語りの言葉とふし』(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、2012)、論文に「大正期の日本における通信教育による西洋音楽の普及について—大日本家庭音楽会の活動を中心に」(『音楽学』、2011) など。

橋爪節也 Hashizume Setsuya

1958年大阪市生まれ。大阪大学総合学術博物館館長、同大学院文学研究科教授兼任。東京芸術大学美術学部助手、大阪市立近代美術館建設準備室を経て現職。専門は日本東洋美術史。「木村兼葎堂—なにわの巨人」(2003)、「没後80年記念 佐伯祐三展」(2008)などの展覧会に携わる。編著書に『モダン心齋橋コレクション—メトロポリスの時代と記憶』(国書刊行会、2005)、『大阪イメージ—増殖するマンモス/モダン都市の幻像』(創元社、2007)、『映画「大阪観光」の世界—昭和12年のモダン都市』(大阪大学出版会、2009) など。

報告 3

大阪大学総合学術博物館 創立 10 周年記念シンポジウム
オオサカがとんがっていた時代
大阪のアヴァンギャルド芸術 — 焼け跡から万博前夜まで —

大阪大学総合学術博物館
教授 橋爪 節也

戦後、焼け野原から再出発した大阪は、復興期を経て高度成長期を迎え、僅か 20 数年後の 1970 年（昭和 45 年）には、戦後復興の象徴であり、近未来都市のヴィジョンの実現とも言える EXPO'70 大阪万国博覧会を開催する。この時期は、経済復興のみならず、安保をはじめとする政治の季節であり、美術をはじめデザイン、舞台、音楽など芸術分野の各領域においても、戦時中の人間性の抑圧から再帰して様々なアヴァンギャルド芸術—前衛的な活動が試みられた。

大阪大学総合学術博物館では、戦前のモダニズムの時代に関して、2009 年に第 4 回特別展「昭和 12 年のモダン都市へ 観光映画「大大阪観光」の世界」を開催し、その研究成果を同年の大阪大学総合学術博物館叢書 4『映画「大大阪観光」の世界 — 昭和 12 年のモダン都市 —』にまとめたほか、大阪の前衛芸術については、第 9 回企画展「維新派という現象「ろじ式」、第 12 回企画展「線の表現力 — アートの諸形態、須田国太郎《能・狂言デッサン》から広がって」などでもとりあげた。さらに、戦後の大阪美術に関する膨大な点数のパンフレットほか資料の寄託を受け、加藤瑞穂（大阪大学総合学術博物館招へい准教授）を中心に調査研究活動を進めてきた。

本シンポジウムは、以上の過去の展覧会の実績と寄託資料の調査研究成果を踏まえつつ、戦後の大阪の美術界に当事者として直接携わった関係者を招き、大阪が戦後の混乱から復興し、ヴァイタリティに富んでいた時代、すなわち 1950 年代から 60 年代に、芸術ではどのような実験的試みが成されていたのか、その全体像を明らかにしようとする意図で企画された。



第 1 部「戦後大阪の美術とグタイピナコテカ」の様子。

第 1 部では、「戦後大阪の美術とグタイピナコテカ」と題して、特に美術のアヴァンギャルドで重要な位置を占め、近年、グッゲンハイム美術館など、海外の有力美術館でも回顧展が開催されている具体美術協会（1954～1972 年）の拠点「グタイピナコテカ」に焦点を

しぼって、当時、活動に直接関わった元具体美術協会会員の向井修二（現イメージプロデューサー）、美術評論家の高橋亨大阪芸術大学名誉教授の証言をもとに、「グタイピナコテカ」が美術の分野で果たした役割を、加藤招へい准教授の司会で再検討した。



第2部「オオサカのアヴァンギャルド芸術とは何だったか —美術・デザイン・舞台・音楽—」の様子。会場には多くの方が集まり、活発な議論がなされた。

第2部は「大阪のアヴァンギャルド芸術とは何だったか —美術・デザイン・舞台・音楽—」と題して、美術、デザイン、舞台、音楽各分野での前衛的活動を、それぞれの専門家による報告を通して振り返った。

美術では、熊田司和歌山県立近代美術館館長が、具体美術協会以外にも大阪と関係の深い、デモクラート美術家協会、パンリアル美術協会などをとりあげ、特に行動美術協会の重要性の再認識を示唆した。行動美術協会の彫刻部には、

後に中之島のフェスティバルホールの外壁レリーフを制作する建畠覚造らも所属する。

デザインでは、竹内幸絵大阪市立大学非常勤講師（サントリーホールディングス）が、アヴァンギャルドという言葉自体、商業美術において意味をなすかを問題提起しながらも、戦前のモダニズムにおけるポスターや前衛傾向の写真作品を取り上げ、その流れを意識しながらも全般的な視覚芸術における大阪らしいアヴァンギャルドの一つの到達点を大阪万博周辺に求める考えを提示した。

舞台芸術では、永田靖大阪大学大学院文学研究科長（演劇学）が、大阪市出身で、『一谷嫩軍記』『新版歌祭文』を大阪文楽座で上演するなどして、「武智歌舞伎」を確立した演出家・武智鉄二の活動を紹介した。

音楽では、上野正章大阪大学大学院文学研究科招へい研究員が、「大阪の秋—現代音楽祭」や、数学者であると共に前衛的な作風で知られた作曲家・松下眞一に触れて、戦後の大阪の音楽会を語った。

以上の各分野の専門家の発表に続いて、本館の橋爪が司会を担当して大阪のアヴァンギャルド芸術とは何であったのかを討議した。各発表の内容が濃密で、全体に時間を超過したこともあり、十分な討議は出来なかったが、大阪万博と各分野におけるアーティストたちの行動への批判などもまじえ、本シンポジウムの成果は、次年度の大阪大学総合学術博物館 第16回企画展「オオサカがとんがっていた時代 —戦後大阪の前衛美術 焼け跡から万博前夜まで—」の企画・開催に引き続き活かされることになる。（文中敬称略）

本シンポジウムの実施にあたりご協力いただいた関係の皆様へ深く感謝を申し上げます。

4. サイエンスカフェ@待兼山 “土曜の午後はミュージアム”

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：豊中市立中央公民館

協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂・とよなかサイエンスネット実行委員会

前期：2012 年 7 月 21 日（土）～ 2012 年 10 月 13 日（土） カフェ No. 89 ～ 99

後期：2012 年 12 月 22 日（土）～ 2013 年 3 月 30 日（土） カフェ No.100 ～ 107

大阪大学で行われている最新の研究を広く人々に紹介するとともに、普段の中で接する機会が少ない専門家と一般の方々間のコミュニケーションの場となることを目指して「サイエンスカフェ@待兼山」を開催した。「サイエンスカフェ@待兼山」は 2008 年度から豊中市と連携して開催し、文系、理系を問わず様々な分野のテーマを扱ってきた。現在では総合学術博物館のイベントとして定着し、幅広い年代に参加していただいている。家族や友人と一緒に参加される方もおり、実施当日には会場が大いに盛り上がっている様も見られる。

サイエンスカフェの実施状況：

2008 年度	前期	カフェ No. 1 ～ 13	実施 13 回
	後期	カフェ No. 14 ～ 27	実施 14 回
2009 年度	前期	カフェ No. 28 ～ 37	実施 10 回
	後期	カフェ No. 38 ～ 46	実施 9 回
2010 年度	前期	カフェ No. 47 ～ 55	実施 9 回
	後期	カフェ No. 56 ～ 65	実施 10 回
2011 年度	前期	カフェ No. 66 ～ 80	実施 15 回
	後期	カフェ No. 81 ～ 88	実施 8 回
2012 年度	前期	カフェ No. 89 ～ 99	実施 11 回
	後期	カフェ No.100 ～ 107	実施 8 回

Science Café at Machikaneyama

大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。コーヒーを片手にゆったりとした雰囲気、「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。それを通して専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

No. 89

7月21日(土)

『論語』を読む

湯浅 邦弘(文学研究科)

対象:制限なし

No. 93

8月18日(土)

「音声」「音声信号処理」を身近に感じよう!

川村 新(基礎工学研究科)

早坂 昇(基礎工学研究科)

対象:制限なし

No. 97

9月29日(土)

分子の右手と左手を作り分ける

真島 和志(基礎工学研究科)

対象:高校生以上

No. 90

7月28日(土)

最新の航空機技術

宮本 洋(JAL-日本航空株式会社)

辻本 良信(基礎工学研究科)

対象:高校生以上

No. 94

8月25日(土)

日本中世ぼちたま物語

芳澤 元(文学研究科)

対象:制限なし

No. 98

10月6日(土)

平清盛とその時代

川合 康(文学研究科)

対象:中学生以上

No. 91

8月4日(土)

古い時代の英語の文字について
—古英語を中心に—

加藤 正治(文学研究科)

対象:高校生以上

No. 95

9月1日(土)

放射能とは一身の回りの放射能を調べてみよう—

篠原 厚(理学研究科)

対象:中学生程度以上、親子連れも可

No. 99

10月13日(土)

女性アーティストの作品から見える「ニッポン」

北原 恵(文学研究科)

対象:制限なし

No. 92

8月11日(土)

はじめての漢方

島田 佳代子(薬学研究科)

対象:中学生以上

学生・家族連れ歓迎

No. 96

9月8日(土)

東日本大震災で起こった巨大津波の原因を探る

廣野 哲朗(理学研究科)

対象:中学生以上

サイエンスカフェ@待兼山

開催場所: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室

開催時間: 14:00~15:30

定員: 20~30名程度

参加費用: 飲み物代(200円)が必要

共催: 豊中市立中央公民館

協力: 大阪大学21世紀懐徳堂・とよなかサイエンスネット実行委員会

申込方法

Webフォームあるいは往復ハガキにてお申し込みください。

Webフォーム

申込受付期間確認ページ内のリンクをクリック。

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

往復ハガキ

カフェ1タイトル、住所、氏名、電話番号、年齢を明記。ご家族でお申込の場合、同伴者のお名前、年齢をご記入の上、下記宛に送付。

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 大阪大学総合学術博物館

申込期間

各カフェ開催日の2ヶ月前から1ヶ月前。各カフェのタイトルごとに確認願います。締め切り日必着。

※応募期間外の申込は無効とさせていただきます。

※応募多数の場合、原則として抽選で決定。抽選結果はメールもしくはハガキでお知らせします。

※「制限なし」のカフェの参加可能年齢は「小学生以上」とさせていただきます。

大阪大学総合学術博物館

〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 URL: <http://www.museum.osaka-u.ac.jp>



サイエンスカフェ@待兼山（前期：2012年7月21日～10月13日 カフェNo.89～99）

カフェNo.	実施日	タイトル	要 旨
		コーディネーター	
89	2012年 7/21(土)	『論語』を読む	『論語』の研究は近年大きな転換期を迎えています。竹簡資料が大量に古墓から発見され、成立や伝播について新たな解明が進んでいるのです。そこでまず、竹簡とは何か、またどうしてそれが二千年以上前のものと科学的に鑑定できるのか、について解説してみましょう。そして、著名な『論語』の言葉を取り上げながら、孔子やその弟子たちが目指したものは何だったのか、一緒に考えてみましょう。
		湯浅 邦弘 氏	
90	7/28(土)	最新の航空機技術	JALにおいて長年航空機整備に携わった経験をもとに、主力航空機ボーイング777や最近導入が進んでいる787を例に、最新の航空技術に関し解説する。具体的には騒音・燃費向上を目指したエンジン技術、軽量化を目指した新素材の適用、軽量化・燃費向上を目指した制御技術などについて解説する。
		宮本 洋 氏 辻本 良信 氏	
91	8/4(土)	古い時代の英語の文字について ——古英語を中心に	どの言語も時代とともに変化しますが、文字も同じように変化します。英語の文字も現代と古代ではかなり異なっています。今回は古英語（1100年までの英語）の文字、字体などに関するエピソードを中心に話したいと思います。
		加藤 正治 氏	
92	8/11(土)	はじめての漢方	最近テレビでもよく耳にする『漢方』。どんなかたち？ どんな味？ どんなにおい？ どんなふうに使われているの？ お医者さんでもらうカプセルや錠剤とは何が違うの？ ——など、様々な疑問をお持ちかと思います。夏休みを利用して、漢方の世界を少しだけ覗いてみませんか。見て、触って、味わって、五感をフルに使って漢方の世界を体験しましょう。
		島田 佳代子 氏	
93	8/18(土)	「音声」「音声信号処理」を身近に感じよう！	皆さん、人と会話するときに使っている「音声」についてもっと詳しく学んでみませんか？ その「音声」を使いやすく処理する「音声信号処理」がスマートフォンなど身近な製品に入っているのを知っていますか？ 実は「音声」にはその他の音とは違ういろんな特徴を持っています。その特徴をうまく使った処理の中で、雑音に埋もれた「音声」の「復元」、2人の会話が混ざった「音声」の「分離」、話した「音声」の「認識」について紹介し、実演、体験から「音声信号処理」を身近に感じてもらいます。
		川村 新 氏 早坂 昇 氏	
94	8/25(土)	日本中世ぼちたま物語	現代社会は空前のペット・ブームですが、人類はむかしから、多くの動物たちと長い歳月を共に生きてきました。近年では日本史学の中でも、人と動物の関係について、さまざまな事実や問題が解明されています。そうした成果に学びながら、われわれにも身近な存在である犬や猫との関係をめぐって、過去の人々が築いてきた社会生活について、ご一緒に考えてみたいと思います。
		芳澤 元 氏	
95	9/1(土)	放射能とは —身の回りの放射能を調べてみよう—	放射能、放射線とは何かを、できるだけ簡単に基本的概念を説明する。また、グループ実験として身の回りの放射線やデモ用の試料などを、実際にサーベイメータを使って測ってみることで、より理解を深めたい。また、時間があれば放射線の人体への影響や社会との関わりについて話し合う。
		篠原 厚 氏	
96	9/8(土)	東日本大震災で起こった巨大津波の原因を探る	2011年東日本大震災では、10mを遙かに超える巨大津波が発生しました。これほどまでに大きな津波の発生には、海底の断層のズレが関係しているでしょう。では、このズレはなぜ生じたのでしょうか。この原因を解くカギは「摩擦係数」です。地震と津波という現象を物理と化学という視点で解説していきます。
		廣野 哲朗 氏	
97	9/29(土)	分子の右手と左手を作り分ける	分子の炭素にある対称性を紹介し、これを作り分けることが薬を作る上で大事であることを説明します。
		真島 和志 氏	
98	10/6(土)	平清盛とその時代	鎌倉幕府成立後に成立した『平家物語』は、「おごれる人」の代表的人物として平清盛をとりあげ、「盛者必衰のことはり」の観点から平氏一門の滅亡を必然視しています。しかし、はたしてそれは史実だったのでしょうか。貴族の日記など、同時代の人々が残した一次史料と、歴史学の最新成果に基づいて、平清盛の実像と当時の武士社会の特質に迫りたいと思います。
		川合 康 氏	
99	10/13(土)	女性アーティストの作品から見える「ニッポン」	あなたは、どんなアーティストが好きでしょうか？ 今回のカフェは、現在活躍している女性アーティストの作品をスライドで紹介しながら、そこから見える「ニッポン」の姿をいっしょに考えます。彼女たちは自らの生や社会の問題をどのように表現しているのか、ジェンダーの視点から検討することによって、どんな「ニッポン」が見えてくるのでしょうか。難解だと言われる現代美術も楽しく身近なものに感じられるようになると思います。
		北原 恵 氏	

Science Café at Machikaneyama

大阪大学総合学術博物館で、サイエンスカフェを楽しみませんか。コーヒーを片手にゆったりとした雰囲気、「科学する」とはどういうことか、研究者とともに考えていきます。それを通して専門家と一般の方々の間のコミュニケーション不全を少しでも改善したいと思っています。お気軽にご参加ください。

No. 100

2012年12月22日(土)

漢方ことはじめ

東 由子(薬学研究科)

対象:高校生以上

No. 104

2013年2月16日(土)

近代の芸能

横田 洋(総合学術博物館)

対象:中学生以上

No. 101

2013年1月26日(土)

誰もが使える未来のコンピュータ

伊藤 雄一(クリエイティブユニット)

対象:小学校高学年以上が望ましい

No. 105

2013年3月16日(土)

頼りになる薬剤師

——「賢い薬の使い方」教えます

須磨 一夫(薬学研究科)

対象:制限なし

No. 102

2013年2月2日(土)

細菌の中ではたらく超精密機械

今田 勝巳(理学研究科)

対象:中学生以上

No. 106

2013年3月23日(土)

生活と元素

桜井 弘(京都薬科大学名誉教授)

鈴木晋一郎(大阪大学名誉教授・理学研究科)

対象:中学生以上

No. 103

2013年2月9日(土)

ホテルの光のひみつ

豊田 二郎(総合学術博物館)

対象:制限なし

No. 107

2013年3月30日(土)

くすりの不思議

——くすりができるまで

森崎 智子(薬学研究科)

対象:制限なし

サイエンスカフェ@待兼山

開催場所: 大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館3階セミナー室

開催時間: 14:00~15:30

定員: 20~30名程度

参加費用: 飲み物代(200円)が必要

共催: 豊中市立中央公民館

協力: 大阪大学21世紀懐徳堂・とよなかサイエンスネット実行委員会

申込方法

Webフォームまたは往復ハガキにてお申し込みください。

Webフォーム

申込受付期間確認ページ内のリンクをクリック。
<http://www.museum.osaka-u.ac.jp/>

往復ハガキ

カフェ1タイトル、住所、氏名、電話番号、年齢を明記。ご家族でお申込の場合、同伴者のお名前、年齢をご記入の上、下記宛に送付。
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13 大阪大学総合学術博物館

申込期間

各カフェ開催日の2ヶ月前から1ヶ月前。各カフェのタイトルごとに確認願います。締め切り日必着。

※応募期間外の申込は無効とさせていただきます。

※応募多数の場合、原則として抽選で決定。抽選結果はメールもしくはハガキでお知らせします。

※「制限なし」のカフェの参加可能年齢は「小学生以上」とさせていただきます。

※No.101及びNo.102の当否連絡は、年末年始の關係で遅れる旨ご了承ください。

サイエンスカフェ@待兼山（後期：2012年12月22日～2013年3月30日 カフェ No.100～107）

カフェ No.	実施日	タイトル	要 旨
		コーディネーター	
100	2012年12/22(土)	漢方ことはじめ 東 由子 氏	現在はエキス製剤として顆粒や細粒で処方される漢方薬ですが、もともとは複数の刻み生薬を混合したものを煎じて飲む煎じ薬です。漢方薬とは何なのか、西洋薬とどう違うのか、漢方薬に配合されている生薬を実際に触っていただきながら、漢方薬の基礎について楽しく学んでいただけたらと思います。
101	2013年1/26(土)	誰もが使える未来のコンピュータ 伊藤 雄一 氏	コンピュータを使うのにマウスやキーボードはもう古い。じゃあ未来のコンピュータはどのように使われるのだろうか？ iPadやiPhoneなどのようにタッチパネルを使ったものになるのか、それとも・・・コンピュータを使うためのデバイスに焦点を当て、その最新の研究を紹介し解説します。そして、もっともっとコンピュータを便利に使うにはどうしたらよいか、その未来と一緒に考えてみましょう。
102	2/2(土)	細菌の中ではたらく超精密機械 今田 勝巳 氏	ときに深刻な食中毒を引き起こす大腸菌やサルモネラ菌などの細菌。その多くが泳ぐことを知っていますか？ しかも単に泳ぐだけでなく、栄養の周りに集まったり、毒を感知して逃げたりします。このとき働くのが、直径2万分の1ミリに満たないタンパク質でできた小さなモーター。まるで「機械」のような形のこのモーターは毎分1万回転以上のスピードで回ります。バイキンといえども侮るなかれ。細菌の持つ驚くほど精密でふしぎな「機械」のしくみを紹介します。
103	2/9(土)	ホタルの光のひみつ 豊田 二郎	ホタルを素手でとったことがありますか？ 熱かったでしょうか？ いまでは、アニメ映画「火垂るの墓」でしかホタルを知らない人も多いかもしれません。ホタルが光るしくみとまったく同じことを試験管の中で行い、電灯とは違う光（化学発光）の性質と酵素反応について、参加者全員に体験していただきます。
104	2/16(土)	近代の芸能 横田 洋	明治時代「芝居」といえば、それはほぼ歌舞伎のことを指していました。しかし、昭和になるころには、さまざまな新しい芸能が生まれ、「芝居」という言葉の指す対象も大きく変化しました。近代には様々な芸能が生まれると同時に、それ以前から存在した歌舞伎などの芸能も大きく変化していきました。近代の流れの中で歌舞伎のような芸能がどのように変化したのか。どのようにして新たな芸能が生み出されたのか。近代の芸能の問題点について考えます。
105	3/16(土)	頼りになる薬剤師——「賢い薬の使い方」教えます 須磨 一夫 氏	お薬とは、一体、何なのでしょう？ 口から飲んだり食べたりするのは食べ物と同じです。食品とお薬の違いや、それぞれの役目をいっしょに考えてみましょう。現在、お薬は用途によって多くの種類があります。医療用や一般用にも別れています。どれぐらいの数があると思いますか？ 身近な疑問に、頼りになる薬剤師がお答えします。さらに現代社会で活躍する薬剤師の多様な仕事をご紹介します。
106	3/23(土)	生活と元素 桜井 弘 氏 鈴木 晋一郎 氏	この2年ほど、レアアース元素の国際的問題、原子力発電所事故による放射性元素の環境への放出と健康への影響、あるいは新元素の名前が二つ決まったなどが報道され、人々の元素への関心は急速に高くなっています。そこで、元素とは一体なにか？ を元素周期表との関係で考え、さらに体の中の元素にはどのようなものがあり、それぞれはどのように働いているか？ について易しく紹介します。
107	3/30(土)	くすりの不思議——くすりができるまで 森崎 智子 氏	「一つの新しい薬が見つかったから患者さんの手元へ届くまでに、どんなプロセスがあるの？」「薬には錠剤やカプセル、注射剤等、様々な形があるのはなぜ？」「副作用のない薬はあるの？」「薬によって服用タイミングが違うのはなぜ？」「病院でもらって余った薬はまた使ってもいい？」等、薬に関する疑問を分かりやすくご紹介します。身近にあるのに、実はよく知らない薬のことを一緒に謎解いてみませんか？

5. 夏の小学生科学体験教室

時 期：2012年8月21日（火）～23日（木）

会 場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 3階セミナー室

主 催：大阪大学総合学術博物館

豊中市立中央公民館（とよなかサイエンスネット実行委員会）

文系、理系を問わず様々な分野に対する興味や関心を、子どもたちに持ってもらうことを目指して「夏の小学生科学体験教室」を開催した。昨年度と同じく自由応募制（小学校5・6年生対象）という形をとり、大阪大学総合学術博物館と豊中市とで連携して開催した。当館及び大阪大学適塾記念センター所属の講師3人が実験・実演を交えた体験型理科授業を行い、当日は子どもたちの元気な声がとびかった。（当日の参加者数はのべ49名、保護者含まず）。



「目に見えない空気を感じよう」



「ホタルの光のひみつ」



「江戸時代にもどって

「蘭学」を学んでみよう」

授業内容

8月21日（火）

タイトル：「目に見えない空気の力を感じよう」

講師：宮久保 圭祐（総合学術博物館）

参加人数：20人

概要：身の回りの空気は大気圧と呼ばれる力をいたるところに働かせています。空気の無い空間「真空」を作り出してそのなかで起こることを観察し、大気圧を感じてみましょう。

8月22日（水）

タイトル：「ホタルの光のひみつ」

講師：豊田 二郎（総合学術博物館）

参加人数：19人

概要：ホタルを素手でとったことがありますか？ 熱かったでしょうか？ いまでは、アニメ映画「火垂るの墓」でしかホタルを知らない人も多いかもしれません。ホタルが光るしくみとまったく同じことを試験管の中で行い、電灯とは違う光（化学発光）の性質と酵素反応について、参加者全員に体験していただきます。

8月23日（木）

タイトル：「江戸時代にもどって「蘭学」を学んでみよう」

講師：福田 舞子 氏（適塾記念センター）

参加人数：10人

概要：江戸時代、オランダの学問は「蘭学」と呼ばれ、それを学ぶ人たちは「蘭学者」と呼ばれました。どんなことを学んだのでしょうか？ 蘭学者たちが使った教科書や実験道具などから、当時の学習風景に触れてみましょう。

※ 各日の参加者数は保護者の数を含まない

6. 専任教員活動報告

2012 年度 教員実績表

(2012 年 4 月 1 日～ 2013 年 3 月 31 日)

研究・教育部	資料基礎研究系
	・准教授 高橋 京子
	資料先端研究系
	・教授 上田 貴洋
	・准教授 豊田 二郎
	・准教授 宮久保圭祐
	資料情報研究系
	・教授 橋爪 節也 (館長)
	・助教 横田 洋
	資料部
・助教 松永 和浩	

准教授 高橋 京子

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・薬学部	漢方薬学 [共担]
1 学期・共通教育科目 [全学部]	博物館体験コース [共担]
1 学期・薬学研究科修士課程	伝統医薬解析学特別講義

学生指導

学生数 (留学生含む)	留 学 生 数	共同・分担した指導教官人数
6 名	0 名	0 名

学位論文審査等

学 位 申 請 者 お よ び 論 文 名	主 査 / 副 査
[博士論文] 島田 佳代子 薬用資源の文化財分析法を用いた新規標準化インデックスの探索	主査
[博士論文] 森崎 智子 総合医療における生薬製剤の意義：エビデンス構築へ向けた基盤研究	主査

【研究活動】

学術論文

論 文 名	著 者 名	雑 誌	巻・号・頁	発行年月
Taurine as a marker for the identification of natural Calculus Bovis and its substitutes.	K. Shimada Y. Azuma M. Kawase T. Takahashi SW. Schaffer K. Takahashi	Adv Exp Med Biol	巻：776 頁：141-149	2013 年
Evidence-based medicine in herbal treatment: Benefit to assess quality of life (QOL)	T. Morisaki K. Takahashi	J Tradit Med	巻：30 号：1 頁：1-8	2013 年 2 月
Andrographolide inhibits the expression and metabolic activity of cytochrome P450 3A4 in the modified Caco-2 cells	F. Qiu L. Chen X. Hou J. Azuma K. Takahashi	J Ethnopharmacol	巻：141 号：2 頁：709-713	2012 年
Approach to evidence-based aromatherapy: Pharmacological effects of inhaled aromatic natural medicines	K. Ito M. Ito K. Takahashi	Folia Pharmacologica Japonica.	巻：140 号：2 頁：71-75	2012 年

学術講演会など

講演タイトル	場 所	年月日	備 考
第 272 回 遊漢方臨床談話会 特別講演 「国産生薬の有用性と安定供給(サステナビリティ)」	新石原ビル〔大阪〕	2012 年 12 月 8 日	主催：株式会社 ツムラ
第 22 回 漢方錬成講座 特別講演 「薬草のタイムカプセル」	京都薬科大学 愛学館	2013 年 3 月 10 日	

研究 (学会) 発表など

タ イ ト ル	場 所	年月日	備 考
The ability of taurine as a marker for the identification of natural Calculus Bovis and its substitutes	The 18 th International Taurine Meeting [マラケシュ モロッコ]	2012 年 4 月 7-13 日	口頭発表
医療文化財研究を可能にする非侵襲的分析法の構築： 動物性生薬「牛黄」における検討	第 7 回博物科学会 〔京都〕	2012 年 6 月 21-22 日	口頭発表
『緒方洪庵の薬箱(大阪大所蔵)』に収納された生薬資料研究：現況の可視化	第 7 回博物科学会 〔京都〕	2012 年 6 月 21-22 日	口頭発表
薬学講座 2 『漢方臨床を支える生薬材料学(マテリアルサイエンス)』	第 63 回日本東洋医学会 会〔京都〕	2012 年 6 月 29 日- 7 月 1 日	シンポジウム
Calculus Bovis: Traditional Knowledge and Quality Standardization	APRU Research Symposium on University Museums 〔京都〕	2012 年 9 月 11-14 日	口頭発表
Visualization for Crude Drugs Inherited in Koan Ogata's Medicine Chest	APRU Research Symposium on University Museums 〔京都〕	2012 年 9 月 11-14 日	口頭発表
Fossilia Ossis Mastodi: Pharmaceutical Significance and Historical Origin	APRU Research Symposium on University Museums 〔京都〕	2012 年 9 月 11-14 日	口頭発表
Education and Social Responsibility: the collections in the Museum of Osaka University (MOU)	APRU Research Symposium on University Museums 〔京都〕	2012 年 9 月 11-14 日	口頭発表
『緒方洪庵の薬箱(大阪大所蔵)』に収納された生薬資料研究：冬葵の基原	第 59 回日本生薬学会 〔千葉〕	2012 年 9 月 17-18 日	口頭発表
化石由来生薬『竜骨』の資源保全に関する検討： 博物資料や漢薬にみる基原と背景	第 59 回日本生薬学会 〔千葉〕	2012 年 9 月 17-18 日	口頭発表
鉱物性生薬の時系列的実証に基づく国内資源探査： 森野旧薬園古石薬資料にみる基原と背景	第 59 回日本生薬学会 〔千葉〕	2012 年 9 月 17-18 日	口頭発表
Terahertz Absorption Spectra of Bile Acids	International Symposium on Frontiers in THz Technology [奈良]	2012 年 11 月 27-29 日	口頭発表
『緒方洪庵の薬箱(大阪大所蔵)』に収納された生薬資料研究：『撒尔』の基原	第 133 回日本薬学会 〔神奈川〕	2013 年 3 月 28-30 日	ポスター発表
化石由来生薬『竜骨』の基原と漢方処方中の存在意義： GC フィンガープリントを用いた検証	第 133 回日本薬学会 〔神奈川〕	2013 年 3 月 28-30 日	口頭発表

報 道

タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
第 85 回日本薬理学会 漢方薬の薬理的根拠を提示	Medical Tribune	2012 年 5 月 24 日	発行：株式会社 メディカルト レビューン
阪大の先生⑨ 高橋京子さん 「漢方薬があぶない」	マチゴト 豊中・池田 Vol. 40	2012 年 6 月 14 日	発行：毎日新聞 社
必殺仕事人 2013	ABC・テレビ朝日・松 竹	2013 年 2 月 17 日	取材協力

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続 / 新規
科学研究費補助金：基盤研究(B) 薬用資源の文化財分析法を用いた新規標準化インデック スの探索	高橋 京子	2010— 2012 年度	継続
科学研究費補助金：基盤研究(B) [分担金] 食品産業とバイオ産業の融合による栄養健康産業クラス ターの構築に関する国際比較研究	後藤 一寿	2011— 2013 年度	継続

寄 付

科 目	受 入 年 月
高橋京子薬用資源研究助成金	2013 年 3 月 25 日
高橋京子薬用資源研究助成金	2013 年 3 月 28 日

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講 演 名 ・ 題 目	場 所	主催者名	年 月 日
サイエンスカフェ@待兼山 No. 92：島田 佳代子 はじめての漢方	大阪大学総合学術博 物館 待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館	2012 年 8 月 11 日
サイエンスカフェ@待兼山 No. 100：東 由子 漢方ことはじめ	大阪大学総合学術博 物館 待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館	2012 年 12 月 22 日
サイエンスカフェ@待兼山 No. 105：須磨 一夫 頼りになる薬剤師 ——「賢い薬の使い方」教えます	大阪大学総合学術博 物館 待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館	2013 年 3 月 16 日
サイエンスカフェ@待兼山 No. 107：森崎 智子 くすりの不思議 ——くすりができるまで	大阪大学総合学術博 物館 待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館	2013 年 3 月 30 日

教授 上田 貴洋

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・共通教育科目 [全学部]	博物館体験コース [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学(I) [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]
通年・理学部 (化)	化学特別研究
通年・理学部 (化)	化学文献調査
通年・理学研究科博士後期課程 (化)	核磁気共鳴分光学特別セミナー

学生指導

学生数 (留学生含む)	留 学 生 数	共同・分担した指導教官人数
2 名	0 名	2 名

学位論文審査等

学位申請者および論文名	主査 / 副査
[修士論文] 多孔性高分子亜鉛錯体に物理吸着したテトラメチルシランの熱異常と分子運動	主査
[修士論文] 多孔性配位高分子亜鉛錯体に物理吸着したベンゼン分子集団が示す熱異常の細孔構造依存性	主査
[博士論文] 茂本 勇 Theoretical studies on Polyester Polycondensation Catalyst	副査

学外での教育活動 (集中講義等)

授 業 科 目 名	機 関 名	期 間
先端分析化学特論	東洋大学	2012年4-9月

【研究活動】

学術論文

論 文 名	著 者 名	雑 誌	巻・号・頁	発行年月
Local structure and dynamics of benzene confined in the IRMOF-1 nanocavity as studied by molecular dynamics simulation	K. Takakura T. Ueda K. Miyakubo T. Eguchi	Physical Chemistry Chemical Physics	巻 : 15 号 : 1 頁 : 279-290	2013年1月

研究（学会）発表など

タ イ ト ル	場 所	年月日	備 考
IRMOF-1 に吸着したテトラメチルシランが示す熱異常	第 26 回日本吸着学会 研究発表会〔茨城〕	2012 年 11 月 14-15 日	ポスター発表 連名
2,5-ジメチルテレフタル酸をリンカーにもつ IRMOF-1 に吸着したベンゼン分子集団が示す熱異常	第 26 回日本吸着学会 研究発表会〔茨城〕	2012 年 11 月 14-15 日	ポスター発表 連名
配位高分子亜鉛錯体 IRMOF-1 に吸着したテトラメチルシ ランの熱異常	日本化学会第 93 春季 年会〔滋賀〕	2013 年 3 月 22-25 日	口頭発表 連名
2,5-ジメチルテレフタル酸をリンカーにもつ多孔性高分 子亜鉛錯体に吸着したベンゼン分子集団の熱的性質	日本化学会第 93 春季 年会〔滋賀〕	2013 年 3 月 22-25 日	口頭発表 連名

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講 演 名 ・ 題 目	場 所	主催者名	年月日
第 58 回 豊中市立小・中学校理科展表彰式 講演会 「科学研究の事始め ～題材探しからまとめ方まで～」	豊中市教育センター	豊中市教育セ ンター	2012 年 12 月 8 日

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・共通教育科目 [工(電)]	化学概論
1 学期・共通教育科目 [全学部]	博物館体験コース [共担]
1 学期・共通教育科目 [医(医), 薬(薬, 薬科学)]	化学実験 [共担]
1 学期・共通教育科目 [理]	自然科学実験 2 化学 [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学(I) [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講 演 名 ・ 題 目	場 所	主催者名	年月日
サイエンスカフェ@待兼山 No. 103 ホテルの光のひみつ	大阪大学総合学術博 物館 待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館	2013 年 2 月 9 日

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・共通教育科目 [医(医)]	化学概論
1 学期・共通教育科目 [工(理)]	化学実験 [共担]
1 学期・共通教育科目 [全学部]	博物館体験コース [共担]
1 学期・共通教育科目 [歯, 基(電, 化)]	化学実験 [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]
1 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学(I) [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーI [共担]
2 学期・理学研究科博士前期課程 (化)	核磁気共鳴分光学半期セミナーII [共担]
集中・理学研究科博士前期課程 (化)	化学アドバンスト実験 [共担]
年度跨り・理学研究科博士前期課程(秋入学者) (化)	化学アドバンスト実験 [共担]

【研究活動】

学術論文

論 文 名	著 者 名	雑 誌	巻・号・頁	発行年月
Dispersions of image potential states on surfaces of clean graphite and lead phthalocyanine film	R. Yamamoto T. Yamada M. Taguchi K. Miyakubo H. S. Kato T. Munakata	Physical Chemistry Chemical Physics	巻 : 14 号 : 27 頁 : 9601-9605	2012 年 7 月
Growth and adsorption geometry of naphthalene overlayers on HOPG studied by low-temperature scanning tunneling microscopy	T. Yamada Y. Takano M. Isobe K. Miyakubo T. Munakata	Chemical Physics Letters	巻 : 546 頁 : 136-140	2012 年 9 月
Local structure and dynamics of benzene confined in the IRMOF-1 nanocavity as studied by molecular dynamics simulation	K. Takakura T. Ueda K. Miyakubo T. Eguchi	Physical Chemistry Chemical Physics	巻 : 15 号 : 1 頁 : 279-290	2013 年 1 月

報 道

タ イ ト ル	場 所	年月日	備 考
IRMOF-1 に吸着したテトラメチルシランが示す熱異常	第 26 回日本吸着学会 研究発表会 [茨城]	2012 年 11 月 14-15 日	ポスター発表 連名
2,5-ジメチルテレフタル酸をリンカーにもつ IRMOF-1 に吸着したベンゼン分子集団が示す熱異常	第 26 回日本吸着学会 研究発表会 [茨城]	2012 年 11 月 14-15 日	ポスター発表 連名
配位高分子亜鉛錯体 IRMOF-1 に吸着したテトラメチルシランの熱異常	日本化学会第 93 春季 年会 [滋賀]	2013 年 3 月 22-25 日	口頭発表 連名
2,5-ジメチルテレフタル酸をリンカーにもつ多孔性高分子亜鉛錯体に吸着したベンゼン分子集団の熱的性質	日本化学会第 93 春季 年会 [滋賀]	2013 年 3 月 22-25 日	口頭発表 連名

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講演名・題目	場 所	主催者名	年月日
夏の小学生科学体験教室 目に見えない空気の力を感じよう	大阪大学総合学術博 物館 待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館・豊 中市立中央公 民館(とよなか サイエンスネ ット実行委員 会)	2012年 8月21日
移動科学実験教室 核磁気共鳴装置<超電導磁石> 見学 体験実験「色の仕組みを科学で調べる」	大阪大学全学教育実 験棟 I	豊中市教育セ ンター	2012年 8月24日

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・文学部	東洋美術史演習 [共担]
1 学期・文学部	日本美術史演習 [共担]
1 学期・共通教育科目	博物館体験コース [共担]
1 学期・文学研究科博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習 [共担]
1 学期・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習 [共担]
1 学期・文学研究科博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習 [共担]
1 学期・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習 [共担]
2 学期・文学部	東洋美術史演習 [共担]
2 学期・文学部	日本美術史講義
2 学期・文学部	日本美術史演習
2 学期・文学研究科博士前期課程	東洋美術史修士論文作成演習 [共担]
2 学期・文学研究科博士前期課程	日本美術史講義
2 学期・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習
2 学期・文学研究科博士後期課程	東洋美術史博士論文作成演習 [共担]
2 学期・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊講義
2 学期・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習
通年・文学部	日本美術史演習(見学演習 1) [共担]
通年・文学部	日本美術史演習(見学演習 2) [共担]
通年・文学部	博物館学(学内実習) [共担]
通年・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習(見学演習 1) [共担]
通年・文学研究科博士前期課程	日本美術史演習(見学演習 2) [共担]
通年・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習(見学演習 1) [共担]
通年・文学研究科博士後期課程	日本美術史特殊演習(見学演習 2) [共担]

学生指導

学生数 (留学生含む)	留 学 生 数	共同・分担した指導教官人数
23 名	2 名	4 名

学位論文審査等

学 位 申 請 者 お よ び 論 文 名	主 査 / 副 査
[修士論文] 障壁画の空間性 -妙心寺天球院を中心に-	副査
[修士論文] 法輪寺の薬師如来像と伝虚空蔵菩薩像について	副査
[修士論文] 高階隆兼の研究	副査
[修士論文] 明治期の日本画家・谷口香嶠の歴史画と工芸 ―近代の留守模様を中心に	主査
[博士論文] 森實 久美子 明恵上人と華嚴経絵画	副査

学外での教育活動（集中講義等）

授 業 科 目 名	機 関 名	期 間
日本美術史特講Ⅲ	愛知県立芸術大学	2012年4月－ 2013年3月
古美術研究	愛知県立芸術大学	2012年4月－ 2013年3月

【研究活動】

学術論文

論 文 名	著 者 名	雑 誌	巻・号・頁	発行年月
小出檜重の石濱純太郎宛書翰 —大正十年、十一年の渡米を中心に—	橋爪 節也	小出檜重の手紙—石濱純太郎宛書翰集— 大阪市史料	第78輯	2012年12月
木村兼葭堂のイメージについての三つのメモ —知の巨人・視覚人間・若冲—	橋爪 節也	民族藝術	号：29 頁：54-59	2013年3月

著 書

著 書 名	著 者 名	出版社	頁 数	発行年月
『大日本物産図会』	橋爪 節也	雄松堂書店 (大日本物産図会)	解題	2013年1月

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タ イ ト ル 等	報 道 機 関 名	報 道 年 月
南北久宝寺町の文化史スケッチ —書肆、音楽、美術に触れて—	協同組合 大阪久宝寺町卸連盟 (設立五十周年記念誌 頁： 83-104)	2012年4月
幕末大坂の大ヒット錦絵！ 名所のことなら『浪花百景』に聞け。	(財)大阪市都市工学情報センター (大阪人 号：66 頁：22-41)	2012年5月
町田久美 山 2011年 推薦文	日本経済新聞社 (第5回 東山魁夷記念 日経日本 画大賞展 図録 頁：58)	2012年5月
<書評> 宗像健一編著『田能村竹田基本画譜』	美術フォーラム21刊行会 (美術フォーラム21 号：25)	2012年5月
特集 文楽を守れ！ 肩代わりしましょか	上方芸能 編集部 (季刊 上方芸能 号：184 頁： 57)	2012年6月
今昔探訪中之島3 “知の聖堂”中之島にあり —そこにも浪華大阪の個性が—	大阪国際フォーラム (大阪 中之島 今昔案内 号：3)	2012年10月
近代大阪と女性画家の時代 —第二回 木谷千種—	財団法人 上方文化芸能協会 (やそしま 号：6 頁：4-41)	2012年10月
熱い時代の遊子ふたたび	財団法人 天門美術館 (「思索する彫刻家 YUSHI」 頁：5-8)	2012年10月
語りだす表紙（資料提供）	リーガロイヤルホテル (The ROYAL 頁：6)	2013年2月

タイトル等	報道機関名	報道年月
アートなミナミを回遊する 心齋橋筋から法善寺界限を経て日本橋まで	株式会社 創元社 (カリスマ案内人と行く 大阪まち歩き 頁：10-45)	2013年2月
本のなかのモダン・オオサカ漂流 ―文芸・アート編―	日本古書通信社 (日本古書通信 号：1004 頁：4-6)	2013年3月
「大阪市史史料」第78輯 ―石濱純太郎宛小出檜重書翰の調査研究と資料集刊行―	大阪大学大学院文学研究科・共生文明論講座 (平成24年度 大阪大学文学研究科共同研究 研究成果報告書「東洋学者・石濱純太郎をめぐる学術ネットワークの研究」 頁：21-22)	2013年3月
おおさかKEYワード 第23回 春風や堤長うして家遠し 与謝蕪村「春風馬堤曲」	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：356 頁：3)	2012年4月
おおさかKEYワード 第24回 美しき“都市美” モダニズムの中之島	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：357 頁：3)	2012年5月
おおさかKEYワード 第25回 さても典雅な時代絵巻 住吉大社の御田植神事	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：358 頁：3)	2012年6月
おおさかKEYワード 第26回 いとさん こいさん 船場の姉妹、美人画になる	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：359 頁：3)	2012年7月
おおさかKEYワード 第27回 八月の風物詩 四天王寺の《万灯供養法要》	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：360 頁：3)	2012年8月
おおさかKEYワード 第28回 “秋立つや何におどろく陰陽師” 蕪村から安倍晴明、文楽、落語にいたる旅	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：361 頁：3)	2012年9月
おおさかKEYワード 第29回 “大阪の夢二”と呼ばれた画家 ―宇崎スミカズ 忘れられた大阪の大正ロマン―	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：362 頁：3)	2012年10月
おおさかKEYワード 第30回 “うどん屋の釜”ではあきまへんで ―浪花のしゃれ言葉は商都の潤滑油―	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：363 頁：3)	2012年11月
おおさかKEYワード 第31回 元禄時代の三文豪で年末年始 ―井原西鶴、松尾芭蕉、近松門左衛門―	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：364 頁：3)	2012年12月
おおさかKEYワード 第32回 “道頓堀ジャズ”の時代 ―街にみなぎる音楽の活気ふたたび―	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：365 頁：3)	2013年2月
おおさかKEYワード 第33回 大阪名物つりがね物語 どこまで届くか、鐘にこめたメッセージ	大阪市教育委員会 (生涯学習情報誌「いちょう並木」 号：366 頁：3)	2013年3月
シュールな中之島	株式会社 産経新聞社 (産経新聞 浪花おもしろ図鑑)	2012年5月
国民1日禁酒で爆撃機20台に	株式会社 産経新聞社 (産経新聞 浪花おもしろ図鑑)	2012年6月

タイトル等	報道機関名	報道年月
お奉行ごともイチビって	株式会社 産経新聞社 (産経新聞 浪花おもしろ図鑑)	2012年8月
なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く1	新風書房 (大阪春秋 号:146)	2012年4月
なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く2 (特別編) スミカズの絵って、どない思います？	新風書房 (大阪春秋 号:148)	2012年10月
“大阪の夢二”こと、宇崎スミカズは 大阪画壇のどこに立っていたのか	新風書房 (大阪春秋 号:148)	2012年10月
なにわの画伯 成瀬國晴氏に聞く3 芸能・芸人あれこれ	新風書房 (大阪春秋 号:149)	2013年1月

学術講演会など

講演タイトル	場所	年月日	備考
大阪大学総合学術博物館創立10周年記念シンポジウム オオサカがとんがっていた時代 大阪のヴァンギャルド芸術 一焼け跡から万博前夜まで一	大阪大学中之島センター	2012年 11月25日	趣旨説明、 司会
シンポジウム 「大正ロマンのイメージ」	大正イマジユリイ学会 第27回研究会 〔高知〕	2012年 12月8日	パネリスト

報道

タイトル	場所	年月日	備考
ナニワ文化の遺伝子 ——消滅か存続か 中	産経新聞	2012年 6月26日	コメント
ごきげんライフスタイル よ〜いドン! となりの人間国宝さん	関西テレビ	2012年 7月13日	
対談 落語家 桂米団治×大阪大教授 橋爪節也 上方芸能は大阪の原点	読売新聞	2012年 9月11日	
大阪100年まち物語	毎日放送	2013年 2月11日	
明治の気風 香る天井画	読売新聞	2013年 3月25日	コメント

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講演名・題目	場所	主催者名	年月日
大阪久宝寺町卸連盟50周年記念式典 特別講演	大阪久宝寺町卸連盟 会館	協同組合大阪 久宝寺町卸連 盟	2012年 4月26日
公開討論！ 「市政改革プランと住まい情報センター &住まいのミュージアム」(論者)	大阪市立住まい情報 センター	都市住宅学会 関西支部、日本 建築学会近畿 支部住宅部会	2012年 7月9日
文化講座 描かれたモダン都市 —小出檜重・佐伯祐三・池田遙邨が見た大大阪	颯川美術館	公益財団法人 颯川美術館	2012年 7月

講演名・題目	場 所	主催者名	年月日
大阪文化の深読み講座《第4回》 「美術都市・大阪」	追手門学院 大阪城スクエア	学校法人 追手門学院 大阪城スクエア	2012年 7月27日
大阪商業大学商業史博物館 平成24年秋季企画 展覧会 連続講座5「大阪と文人画」	大阪商業大学	大阪商業大学 商業史博物館	2012年 10月12日
第1回 高津宮 とこしえ秋まつり アートトーク（司会）	高津宮	高津宮	2012年 10月28日
第1回聖光文庫文化講座 第1講 「大阪の文人画とは？ —兼葭堂・米山人から琴石・鉄斎まで—」	宝塚市立中央図書館	鉄斎美術館、 宝塚市立中央 図書館（聖光文庫）	2012年 12月2日
平成24年度史料でたどる「おおさか」講演会 大阪の洋画家 小出楢重 —その人生と画業—	大阪市立中央図書館	大阪市立中央 図書館	2012年 12月9日
摂南大学国際教養セミナー 『浪花百景』の絵に遊ぶ	大阪市立住まい情報 センター	摂南大学外国 語学部、大阪市 立住まい情報 センター	2012年 12月15日
第50回 なにわ芸術祭新人賞選出 新進落語家競演会（審査員）	天満天神繁昌亭	上方落語協会、 産経新聞社	2013年 1月16日
男女共同参画学習グループ講座 「近代大阪の女性画家」	サンスクエア堺	堺市	2013年 1月20日
「住吉の人とまち」展（資料提供）	大阪市立住まいのミ ュージウム 大阪くら しの今昔館	住吉区役所、 住吉文化事業 実行委員会	2013年 2月21-24日
大阪大学 21世紀懐徳堂塾 OSAKAN CAFÉ 座談会「大阪テレビは凄かった」	アートエリア B1	アートエリア B1[大阪大学 +NPO 法人ダン スボックス+京 阪電気鉄道 (株)]、 大阪大学 21世 紀懐徳堂	2013年 3月3日
【Wao!Yao! 八尾の入り口】140B 発刊記念イベント	隆祥館書店	隆祥館書店	2013年 3月15日
平成25年 住吉大社 セミナー 「映像で見るモダン都市 —映画「大大阪観光」と中之島、住吉、大阪の街—」	住吉大社	住吉大社	2013年 3月25日
コミュニケーションカフェ 明治21年、幻の天井画再発見！ ～大阪博物場と大阪画壇の画家たち～	関西医科大学	枚方市	2013年 3月30日

助教 横田 洋

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・共通教育科目	博物館体験コース [共担]
通年・文学部	博物館学(学内実習) [共担]

学外での教育活動（集中講義等）

授 業 科 目 名	機 関 名	期 間
視覚文化の世界	大阪市立大学	2012 年 4—9 月
映画の歴史	大手前大学	2012 年 10 月— 2013 年 3 月
国際社会と日本文化Ⅲ（伝統芸能）	大阪国際大学	2012 年 10 月— 2013 年 3 月

【研究活動】

研究（学会）発表など

タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
「映画と演劇と見世物の間 —浅草公園六区の芸能史の一側面—」	国際基督教大学	2012 年 7 月 7 日	東洋音楽学会

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続 / 新規
科学研究費補助金：若手研究(B) 日本の初期映画の制度的環境に関する研究	横田 洋	2012— 2014 年度	新規

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講 演 名 ・ 題 目	場 所	主催者名	年 月 日
サイエンスカフェ@待兼山 No. 104 近代の芸能	大阪大学総合学術博 物館 待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館	2013 年 2 月 16 日

【教育活動】

担当授業

学 期 ・ 学 部	科 目 名
1 学期・共通教育科目	博物館体験コース [共担]
通年・文学部	博物館学(学内実習) [共担]

学外での教育活動（集中講義等）

授 業 科 目 名	機 関 名	期 間
人間と文化 C (国際関係史 A)	帝塚山大学	2012 年 4-8 月
人間と文化 D (国際関係史 B)	帝塚山大学	2012 年 9 月- 2013 年 3 月

【研究活動】

著 書

著 書 名	著 者 名	出版社	頁 数	発行年月
[大阪大学総合学術博物館叢書 8] ものづくり上方“酒”ばなし —先駆・革新の系譜と大阪高等工業学校 醸造科—	編著：松永和浩	大阪大学出版 会	96 頁	2012 年 10 月
室町期公武関係と南北朝内乱	松永和浩	株式会社 吉川 弘文館	364 頁	2013 年 2 月

その他の執筆活動（総説、評論、辞典項目、各種記事など）

タ イ ト ル 等	報 道 機 関 名	報 道 年 月
桃崎有一郎著『中世京都の空間構造と礼節体系』	株式会社 吉川弘文館 (古文書研究 号：73 頁： 115-120)	2012 年 6 月
七大学の秘宝めぐり 大阪大学・光明皇后発願 出曜経 巻第四	社団法人 学士会 (U7 号：45 頁：3)	2012 年 9 月
わがまち歴史散歩 市史編纂だより 89 少年・佐治敬三と池田	池田市 (広報いけだ 号：1105 頁：20)	2012 年 12 月
中世の飲酒習慣 室町幕府は“酒浸りの政権”	株式会社 産経新聞社 (産経新聞)	2013 年 1 月

学術講演会など

講 演 タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
公事徴収システムと諸階層の得分	国立歴史民俗博物館 〔千葉〕	2012 年 7 月 21 日	中世における 富と貧困の淵 源研究会

報 道

タ イ ト ル	場 所	年 月 日	備 考
時間です！ 林編集長	ラジオ関西 558	2012年 11月6日	第15回企画展 紹介
まちのラジオ 大阪大学社会学連携事業	みのおエフエム 「タッキー816」	2012年 11月8・11日	第15回企画展 紹介

【共同研究および外部資金獲得状況】

科学研究費補助金およびその他の外部資金

補助金の種類および研究題目	研究代表者	期 間	継続 / 新規
研究成果公開促進費：学術図書 室町期公武関係と南北朝内乱	松永 和浩	2012年度	新規

【社会貢献、管理運営等】

講演会、サイエンスカフェ、ミュージアム・レクチャーなど

講 演 名 ・ 題 目	場 所	主催者名	年 月 日
蛍池公民館講座 「日本の中世の人々と災害」	豊中市立蛍池公民館	豊中市立蛍池 公民館	2012年 6月28日
とよなかサイエンスBAR 第6夜 「ジャパニーズ・ウイスキーのレジェンド」	とよなか起業・チャレ ンジセンター	とよなかサイ エンスBAR 実行 委員会	2012年 12月21日
第48回ミュージアム・レクチャー 「酔狂の室町時代」	大阪大学総合学術博 物館 待兼山修学館	大阪大学総合 学術博物館	2013年 1月19日

7. 資料

掲載項目

- ・ 2012 年度の主な活動一覧
- ・ 入館者数及びアンケート集計結果一覧
- ・ 団体見学一覧
- ・ 関連記事一覧
- ・ 寄贈図書一覧
- ・ 館内配置図

2012年度の主な活動一覧

期 間

主 な 活 動

2012年

- 4月7日～6月30日 大阪大学総合学術博物館 創立 10 周年記念 第 5 回特別展「巨大ワニと恐竜の世界 ―巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防―」を開催した。(主催：大阪大学総合学術博物館 共催：北海道大学総合博物館、豊中市・豊中市教育委員会、大阪大学大学院理学研究科 協力：国立科学博物館、群馬県立自然史博物館、神流町恐竜センター、茨城県自然博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、有限会社ゴビサポートジャパン、大阪大学 21 世紀懐徳堂)
- 4月14日 ミュージアム・レクチャー第 41 回「最新恐竜学：ワニのまなざしから」を開催した。(講師：国立科学博物館 真鍋真氏 主催：大阪大学総合学術博物館)
- 4月28日 ミュージアム・レクチャー第 42 回「ワニと恐竜の共進化」を開催した。(講師：北海道大学総合博物館 小林快次氏 主催：大阪大学総合学術博物館)
- 5月3日 ワークショップ「恐竜の復元画」を開催した。(講師：漫画家 所十三氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市・豊中市教育委員会)
- 5月13日 畑田家住宅（登録有形文化財）の一般公開及び医学フォーラム「いのちの不思議」が開催された。(主催：畑田家住宅活用保存会 後援：羽曳野市・羽曳野市教育委員会 協賛：大阪大学総合学術博物館 場所：国の登録有形文化財「畑田家住宅」)
- 5月19日 ミュージアム・レクチャー第 43 回「恐竜時代の日本：ワニと恐竜」を開催した。(講師：神流町恐竜センター 久保田克博氏 主催：大阪大学総合学術博物館)
- 5月26日 ワークショップ「マチカネワニ復元の話&ティラノサウルス復元に挑戦」を開催した。(講師：恐竜・古生物復元模型作家 徳川広和氏、古生物学者 荻野慎太郎氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市・豊中市教育委員会)
- 6月16日 ミュージアム・レクチャー第 44 回「現生ワニからわかる恐竜の顎の動き」を開催した。(講師：北九州市立いのちのたび博物館 大橋智之氏 主催：大阪大学総合学術博物館)
- 6月22日 大阪大学総合学術博物館 創立 10 周年記念特別講演会「伝統と革新 ―ユニバーシティ・ミュージアムが発信する学際研究―」を開催した。(京都大学総合博物館教授・前館長 中坊徹次氏、兵庫県立美術館館長・金沢 21 世紀美術館特任館長・大阪市立美術館名誉館長 蓑豊氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市 場所：大阪大学会館)
- 7月17日～8月25日 「ヒマラヤー変わり行く景観」写真展を開催した。(主催：山岳総合開発国際センター (ICIMOD)、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト (HAT-J)、大阪大学山岳会 共催：大阪大学総合学術博物館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂)
- 7月21日 サイエンスカフェ@待兼山 No.89 「『論語』を読む」を開催した。(講師：大阪大学大学院文学研究科 湯淺邦弘氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
- 7月28日 サイエンスカフェ@待兼山 No.90 「最新の航空機技術」を開催した。(講師：JAL-日本航空株式会社 宮本洋氏、大阪大学大学院基礎工学研究科 辻本良信氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
- 8月4日 サイエンスカフェ@待兼山 No.91 「古い時代の英語の文字について―古英語を中心に」を開催した。(講師：大阪大学大学院文学研究科 加藤正治氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
- 8月11日 サイエンスカフェ@待兼山 No.92 「はじめての漢方」を開催した。(講師：大阪大学大学院薬学研究科 島田佳代子氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)

- 8月17日 ミュージアム・レクチャー「変わり行くヒマラヤ 写真で見る地球温暖化」(講師：NPO 法人日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト 野田憲一郎氏)及び「P29 峰 登山・調査隊の記録」(大阪大学大学院工学研究科名誉教授 大野義照氏)を開催した。(主催：山岳総合開発国際センター、日本ヒマラヤン・アドベンチャー・トラスト、大阪大学山岳会)
- 8月18日 サイエンスカフェ@待兼山 No.93「[音声][音声信号処理]を身近に感じよう!」を開催した。(講師：大阪大学大学院基礎工学研究科 川村新氏、同研究科 早坂昇氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
- 8月21日 夏の小学生科学体験教室(1日目)「目に見えない空気の力を感じよう」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 宮久保圭祐 主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市立中央公民館(とよなかサイエンスネット実行委員会))
- 8月22日 夏の小学生科学体験教室(2日目)「ホタルの光のひみつ」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 豊田二郎 主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市立中央公民館(とよなかサイエンスネット実行委員会))
- 8月23日 夏の小学生科学体験教室(最終日)「江戸時代にもどって「蘭学」を学んでみよう」を開催した。(講師：大阪大学適塾記念センター 福田舞子氏 主催：大阪大学総合学術博物館、豊中市立中央公民館(とよなかサイエンスネット実行委員会))
- 8月25日 サイエンスカフェ@待兼山 No.94「日本中世ぼちたま物語」を開催した。(講師：大阪大学大学院文学研究科 芳澤元氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
- 9月1日 サイエンスカフェ@待兼山 No.95「放射能とは一身の回りの放射能を調べてみようー」を開催した。(講師：大阪大学大学院理学研究科 篠原厚氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
- 9月8日 大阪大学総合学術博物館 創立 10 周年記念 文化財公開シンポジウム「奈良の大仏はなぜ“若くみえる”のか? -美術史、化学、修復からみた金銅仏の最新研究-」を開催した。(講演者：大阪大学大学院文学研究科教授 藤岡穰氏、大阪大学名誉教授 笠井俊夫氏、財団法人 美術院国宝修理所 主任技師 八坂寿史氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：大阪大学大学院文学研究科 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂 場所：大阪大学会館)
- 9月8日 サイエンスカフェ@待兼山 No.96「東日本大震災で起こった巨大津波の原因を探る」を開催した。(講師：大阪大学大学院理学研究科 廣野哲朗氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
- 9月15日 日本動物学会 第 83 回大会 2012 大阪「動物学ひろば」を開催した。(主催：(社)日本動物学会 83 回大会実行委員会 共催：大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻、大阪大学総合学術博物館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂)
- 9月29日 サイエンスカフェ@待兼山 No.97「分子の右手と左手を作り分ける」を開催した。(講師：大阪大学大学院基礎工学研究科 真島和志氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
- 10月6日 サイエンスカフェ@待兼山 No.98「平清盛とその時代」を開催した。(講師：大阪大学大学院文学研究科 川合康氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
- 10月7日 「第 28 回 湯川記念講演会」が開催された。(主催：大阪大学総合学術博物館湯川記念室 共催：日本物理学会大阪支部 後援：日本物理教育学会近畿支部 場所：大阪大学中之島センター)
- 10月13日 サイエンスカフェ@待兼山 No.99「女性アーティストの作品から見える「ニッポン」」を開催した。(講師：大阪大学大学院文学研究科 北原恵氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)

期 間

主 な 活 動

10月13日～11月17日 (毎週土曜日)	「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2012 6週間でマリー キュリーになろう！」(全6回)が開催された。(主催:大阪大学総合学術博物館湯川記念室 共催:大阪大学大学院理学研究科、同大学大学院工学研究科、同大学大学院基礎工学研究科、同大学全学教育推進機構、同大学核物理研究センター、同大学レーザーエネルギー学研究センター 後援:大阪府教育委員会、京都府教育委員会、奈良県教育委員会、兵庫県教育委員会、京都市教育委員会、大阪府高等学校理化教育研究会、日本物理教育学会近畿支部、朝日新聞、大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター 場所:大阪大学豊中キャンパス)
10月27日 ～2013年1月19日	大阪大学総合学術博物館 創立10周年記念 第15回企画展「ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—」を開催した。(主催:大阪大学総合学術博物館 共催:大阪大学大学院工学研究科、日本生物工学会 協力:大阪大学21世紀懐徳堂、尚醸会)
11月3日	ワークショップ「酒のみりょく ～焼酎編～」(本坊酒造)を開催した。(講師:本坊酒造株式会社 瀬崎俊広氏 主催:大阪大学総合学術博物館)
11月10日	ワークショップ「酒のみりょく ～ウイスキー編～」(サントリー)を開催した。(講師:サントリー酒類株式会社 木村俊一氏 主催:大阪大学総合学術博物館)
11月24日	大阪大学総合学術博物館 創立10周年記念特別企画「酒ヲ愛デ、文華ニ酔フ～絵に酔い、酒に酔い、音に酔い～」を開催した。(特別講演会講師:冷泉時雨亭文庫・理事長 冷泉為人氏 演奏会奏者:雅楽同好会 夕凧 主催:大阪大学総合学術博物館 場所:大阪大学会館講堂・アセンブリーホール)
11月25日	大阪大学総合学術博物館 創立10周年記念シンポジウム「オオサカがとんがっていた時代 大阪のヴァンギャルド芸術—焼け跡から万博前夜まで—」を開催した。(趣旨説明・司会:大阪大学総合学術博物館館長・同大学院文学研究科教授兼任 橋爪節也 パネリスト:美術評論家・大阪芸術大学名誉教授 高橋亨氏、イメージプロデューサー・元具体美術協会会員 向井修二氏、大阪大学総合学術博物館招へい准教授 加藤瑞穂氏、和歌山県立近代美術館館長 熊田司氏、大阪市立大学非常勤講師・サントリーホールディングス 竹内幸絵氏、大阪大学大学院文学研究科長・教授 永田靖氏、同研究科招へい研究員 上野正章氏 主催:大阪大学総合学術博物館 協力:大阪大学大学院文学研究科、大阪大学21世紀懐徳堂 場所:大阪大学中之島センター)
12月1日	ワークショップ「酒のみりょく ～ビール編～」(アサヒビール)を開催した。(講師:アサヒビール株式会社 青木賢吉氏 主催:大阪大学総合学術博物館)
12月8日	ミュージアム・レクチャー第45回「日本における薬用酒」を開催した。(講師:日東薬品工業・特別顧問 森隆治氏 主催:大阪大学総合学術博物館)
12月15日	ミュージアム・レクチャー第46回「国酒を支えた近代の技師たち」を開催した。(講師:菊正宗酒造・総合研究所長 溝口晴彦氏 主催:大阪大学総合学術博物館)
12月22日	サイエンスカフェ@待兼山 No.100「漢方ことはじめ」を開催した。(講師:大阪大学大学院薬学研究科 東由子氏 主催:大阪大学総合学術博物館 共催:豊中市立中央公民館 協力:大阪大学21世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
2013年	
1月12日	ミュージアム・レクチャー第47回「ジャパニーズ・ウイスキー誕生「神話」」を開催した。(講師:大阪大学大学院経済学研究科准教授 竹内恵行氏 主催:大阪大学総合学術博物館)
1月19日	ミュージアム・レクチャー第48回「酔狂の室町時代」を開催した。(講師:大阪大学総合学術博物館助教 松永和浩 主催:大阪大学総合学術博物館)
1月26日	サイエンスカフェ@待兼山 No.101「誰もが使える未来のコンピュータ」を開催した。(講師:大阪大学クリエイティブユニット 伊藤雄一氏 主催:大阪大学総合学術博物館 共催:豊中市立中央公民館 協力:大阪大学21世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
2月2日	サイエンスカフェ@待兼山 No.102「細菌の中ではたらく超精密機械」を開催した。(講師:大阪大学大学院理学研究科 今田勝巳氏 主催:大阪大学総合学術博物館 共催:豊中市立中央公民館 協力:大阪大学21世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)

期 間

主 な 活 動

2月9日	サイエンスカフェ@待兼山 No.103「ホタルの光のひみつ」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 豊田二郎 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
2月16日	サイエンスカフェ@待兼山 No.104「近代の芸能」を開催した。(講師：大阪大学総合学術博物館 横田洋 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
2月22日～3月9日	国立公文書館所蔵資料展「国立公文書館が大阪大学にやってきた！」を開催した。(主催：独立行政法人国立公文書館 共催：大阪大学アーカイブズ、大阪大学総合学術博物館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂)
2月23日	ミュージアム・レクチャー「大阪大学アーカイブズご紹介」を開催した。(講師：大阪大学アーカイブズ准教授 菅真城氏 主催：独立行政法人国立公文書館)
3月2日	ミュージアム・レクチャー「国立公文書館ご紹介」を開催した。(講師：国立公文書館公文書専門官 中島康比古氏 主催：独立行政法人国立公文書館)
3月16日	サイエンスカフェ@待兼山 No.105「頼りになる薬剤師—「賢い薬の使い方」教えます」を開催した。(講師：大阪大学大学院薬学研究科 須磨一夫氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
3月23日	サイエンスカフェ@待兼山 No.106「生活と元素」を開催した。(講師：京都薬科大学名誉教授 桜井弘氏、大阪大学名誉教授・大阪大学大学院理学研究科 鈴木晋一郎氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)
3月24日	畑田家住宅（登録有形文化財）春の一般公開と経済フォーラム「先人に学び、未来を語ろう」が開催された。(主催：畑田家住宅活用保存会 後援：羽曳野市・羽曳野市教育委員会 協賛：大阪大学総合学術博物館 場所：国の登録文化財「畑田家住宅」)
3月30日	サイエンスカフェ@待兼山 No.107「くすりの不思議——くすりができるまで」を開催した。(講師：大阪大学大学院薬学研究科 森崎智子氏 主催：大阪大学総合学術博物館 共催：豊中市立中央公民館 協力：大阪大学 21 世紀懐徳堂、とよなかサイエンスネット実行委員会)

入館者数及びアンケート集計結果一覧

・2012年度大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館 入館者数

(単位：人)

創立10周年記念 第5回特別展

会期：4月7日(土)～6月30日(土)

入館者数：11,823人

創立10周年記念 第15回企画展

会期：10月27日(土)～2013年1月19日(土)

入館者数：3,715人

休館日：日曜・祝日、

年末年始

(12月29日(土)～2013年1月3日(木))

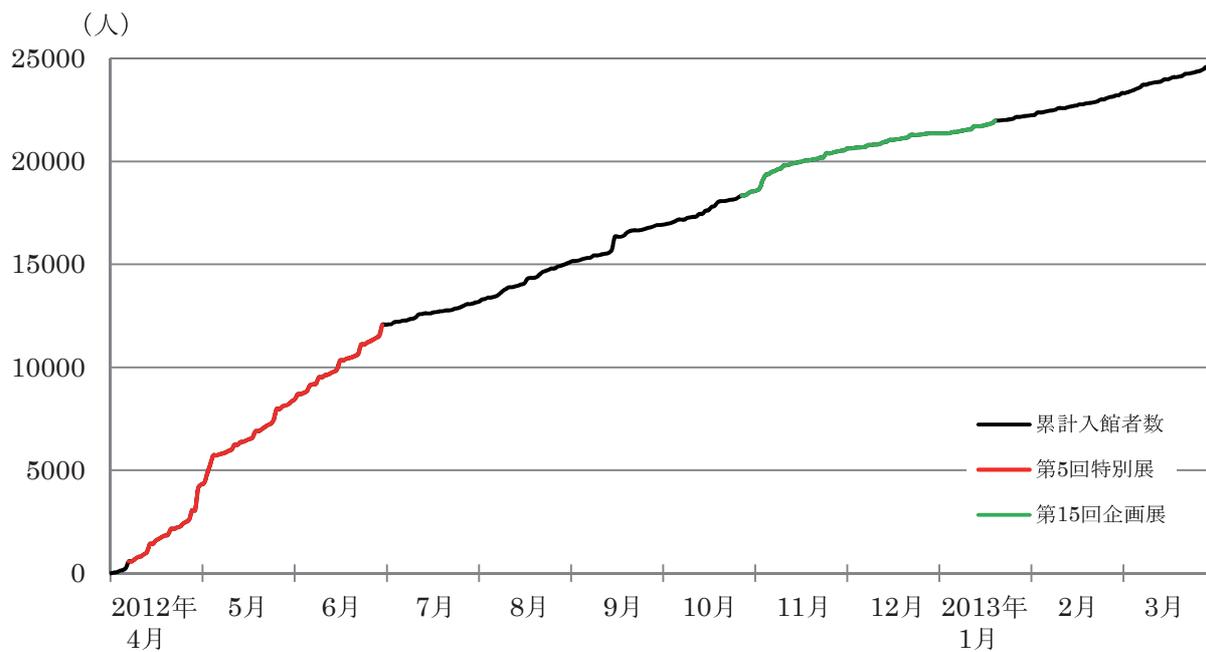
ただし、下記の日は開館

4月30日(月・振休)、5月3日(木・祝)、

5月4日(金・祝)、5月5日(土・祝)、

11月3日(土・祝)、11月4日(日)

	入館者数
2012年4月	4,128
5月	4,223
6月	3,714
7月	1,093
8月	1,939
9月	1,815
10月	1,638
11月	1,997
12月	815
2013年1月	884
2月	958
3月	1,394
合計	24,598



※以下の内容のアンケートを実施した。

大阪大学総合学術博物館—待兼山修学館 アンケート

本日はご来館いただき誠にありがとうございます。今後の参考のため、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。以下の項目の該当する欄にチェック をつけてください。

- 来館日 _____年 _____月 _____日 ()
- 年齢 10代未満 10代 20代 30代 40代
 50代 60代 70代以上
- 住所 大阪府 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山県 滋賀県
 その他 ()
- 学年 小学生未満 小学生 中学生 高校生 大学生・大学院生 (阪大)
 大学生・大学院生 (阪大以外) 専門学校生 一般 ()

・ 大阪大学総合学術博物館—待兼山修学館についてお尋ねします。

- Q1 どのようにして当館をお知りになりましたか？ (複数可)
- 通りがかり パンフレット ホームページ ガイドブック等
 友人・知人より その他 ()
- Q2 どの展示ゾーンが面白かったですか？ (複数可)
- 1階 玄関ホールのマチカネワニ 世界にはばたく研究者
 コンピュータの黎明期
- 2階 大阪大学の系譜 みる科学
- 3階 待兼山に学ぶ
- R階 自然教室
 その他 ()
- Q3 来館は何回目ですか？
- はじめて 2回目 3回目 4回目以上
- Q4 その他ご意見・ご感想などをお書き下さい。

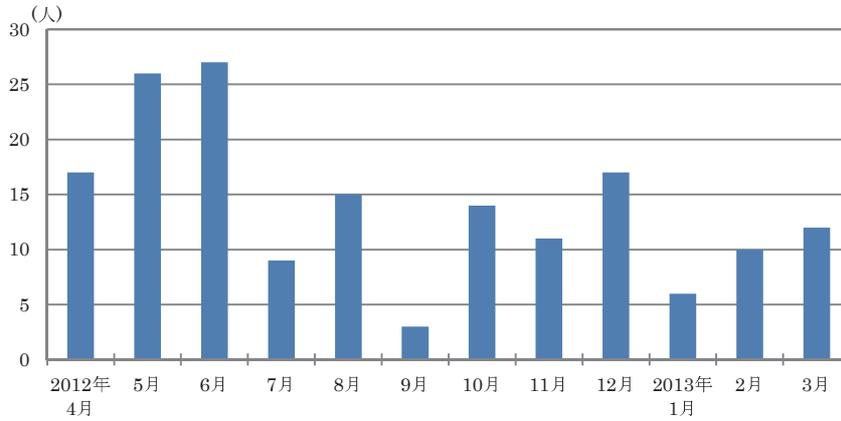
アンケートにお答え頂きありがとうございました。

貴重なご意見・ご感想などを今後の総合学術博物館発展のため、参考とさせていただきます。

大阪大学総合学術博物館

・アンケート集計結果

◆ アンケート回答総数



(単位：人)

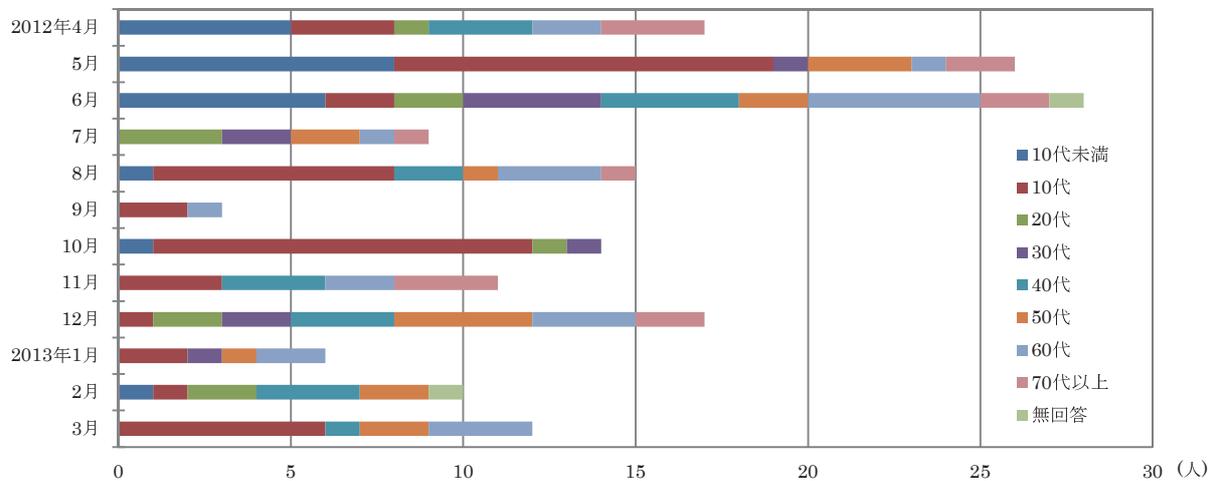
2012年4月	17
5月	26
6月	27
7月	9
8月	15
9月	3
10月	14
11月	11
12月	17
2013年1月	6
2月	10
3月	12
合計	167

■ 年齢分布

(単位：人)

	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
2012年4月	5	3	1	0	3	0	2	3	0
5月	8	11	0	1	0	3	1	2	0
6月	6	2	2	4	4	2	5	2	1
7月	0	0	3	2	0	2	1	1	0
8月	1	7	0	0	2	1	3	1	0
9月	0	2	0	0	0	0	1	0	0
10月	1	11	1	1	0	0	0	0	0
11月	0	3	0	0	3	0	2	3	0
12月	0	1	2	2	3	4	3	2	0
2013年1月	0	2	0	1	0	1	2	0	0
2月	1	1	2	0	3	2	0	0	1
3月	0	6	0	0	1	2	3	0	0
合計	22	49	11	11	19	17	23	14	2

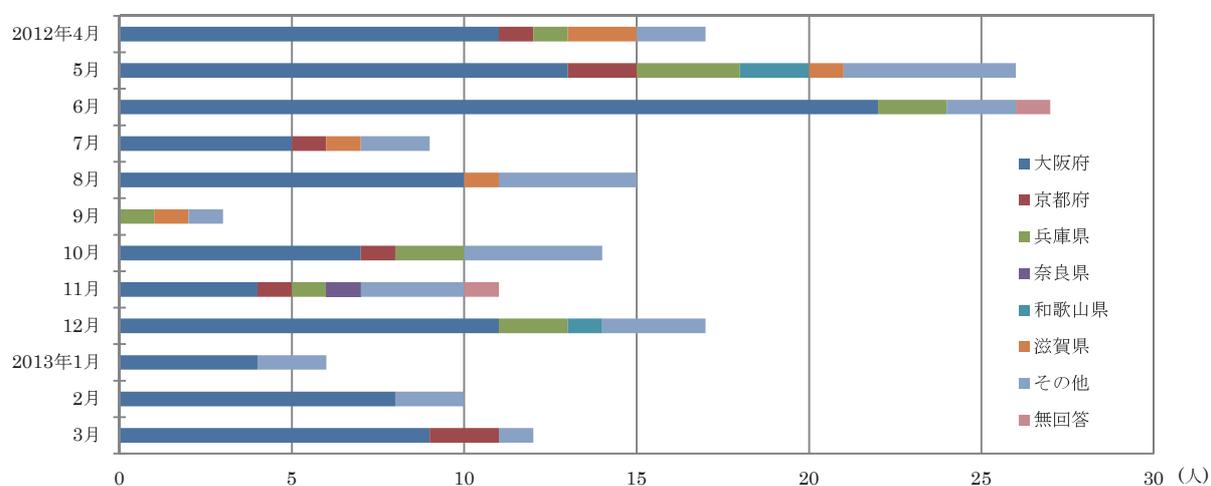
※重複回答有



■ 住所分布

(単位：人)

	大阪府	京都府	兵庫県	奈良県	和歌山県	滋賀県	その他	無回答
2012年4月	11	1	1	0	0	2	2	0
5月	13	2	3	0	2	1	5	0
6月	22	0	2	0	0	0	2	1
7月	5	1	0	0	0	1	2	0
8月	10	0	0	0	0	1	4	0
9月	0	0	1	0	0	1	1	0
10月	7	1	2	0	0	0	4	0
11月	4	1	1	1	0	0	3	1
12月	11	0	2	0	1	0	3	0
2013年1月	4	0	0	0	0	0	2	0
2月	8	0	0	0	0	0	2	0
3月	9	2	0	0	0	0	1	0
合計	104	8	12	1	3	6	31	2



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

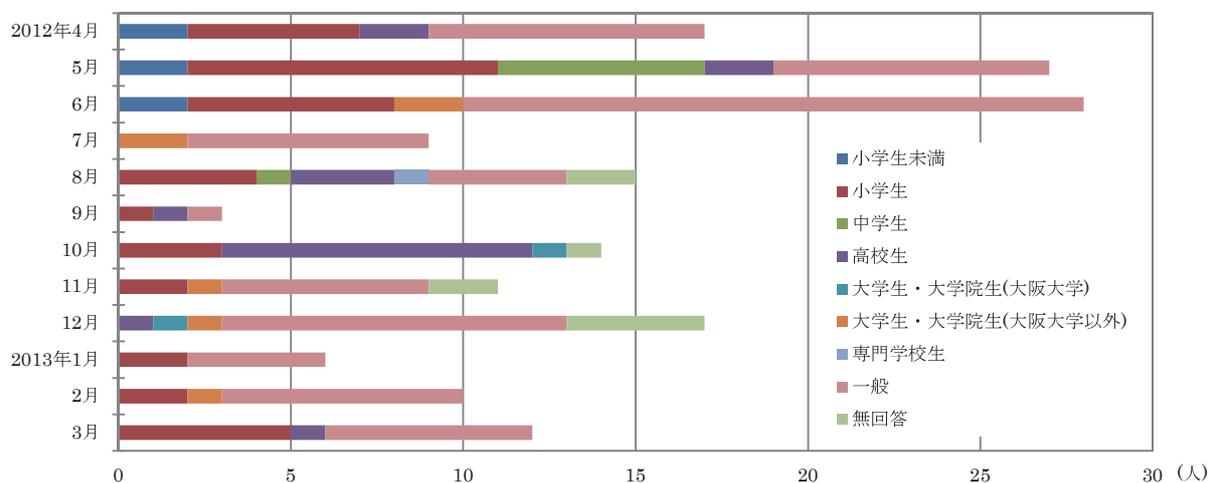
- | | | |
|---------|--------------------|----------|
| 4月 | 5月 | 6月 |
| ・東京都 | ・あいちけんあんじょうしじょうなん町 | ・神戸市 |
| ・ニイガタケン | ・東京都 | |
| | ・愛知 | |
| 7月 | 8月 | 10月 |
| ・東京都 | ・東京都 | ・福岡 |
| | ・神奈川県 | ・岡山 (3件) |
| | ・香川県 | |
| | ・鳥取県 | |
| 11月 | 12月 | 2013年1月 |
| ・宮崎県 | ・福岡県 | ・神奈川県 |
| ・東京都 | ・島根県 | ・吹田市 |
| ・香川県 | ・三重県 | |
| 2月 | 3月 | |
| ・富山県 | ・新潟県 | |
| ・愛知県 | | |

■ 入館者学年分布

(単位：人)

	小学生 未満	小学生	中学生	高校生	大学生 大学院生 (大阪大学)	大学生 大学院生 (大阪大学以外)	専門 学校生	一般	無回答
2012年4月	2	5	0	2	0	0	0	8	0
5月	2	9	6	2	0	0	0	8	0
6月	2	6	0	0	0	2	0	18	0
7月	0	0	0	0	0	2	0	7	0
8月	0	4	1	3	0	0	1	4	2
9月	0	1	0	1	0	0	0	1	0
10月	0	3	0	9	1	0	0	0	1
11月	0	2	0	0	0	1	0	6	2
12月	0	0	0	1	1	1	0	10	4
2013年1月	0	2	0	0	0	0	0	4	0
2月	0	2	0	0	0	1	0	7	0
3月	0	5	0	1	0	0	0	6	0
合計	6	39	7	19	2	7	1	79	9

※重複回答有



● 一般 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

5月

- ・同窓生

6月

- ・会社員
- ・主婦
- ・主婦
- ・阪大職員

7月

- ・代々木ゼミナール数学研究員

9月

- ・卒業生

11月

- ・卒業生
- ・阪大法 OB

2013年1月

- ・公務員
- ・Σ化工 OB

2月

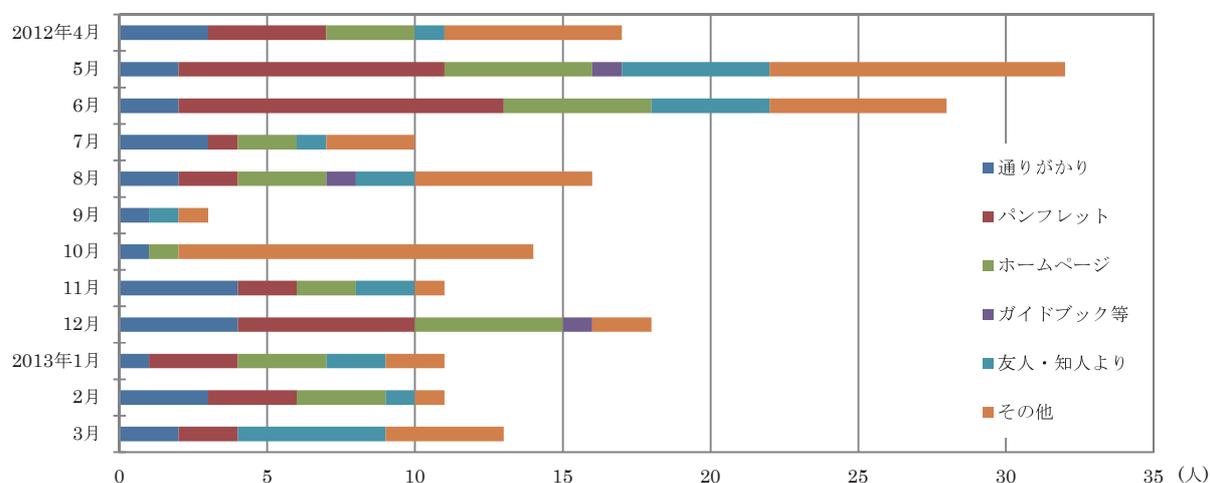
- ・受験生保護者

■ 大阪大学総合学術博物館 — 待兼山修学館についてお尋ねします。

Q1 どのようにして当館をお知りになりましたか？（複数可）

（単位：人）

	通りがかり	パンフレット	ホームページ	ガイドブック等	友人・知人より	その他
2012年4月	3	4	3	0	1	6
5月	2	9	5	1	5	10
6月	2	11	5	0	4	6
7月	3	1	2	0	1	3
8月	2	2	3	1	2	6
9月	1	0	0	0	1	1
10月	1	0	1	0	0	12
11月	4	2	2	0	2	1
12月	4	6	5	1	0	2
2013年1月	1	3	3	0	2	2
2月	3	3	3	0	1	1
3月	2	2	0	0	5	4
合計	28	43	32	3	24	54



● その他 内訳

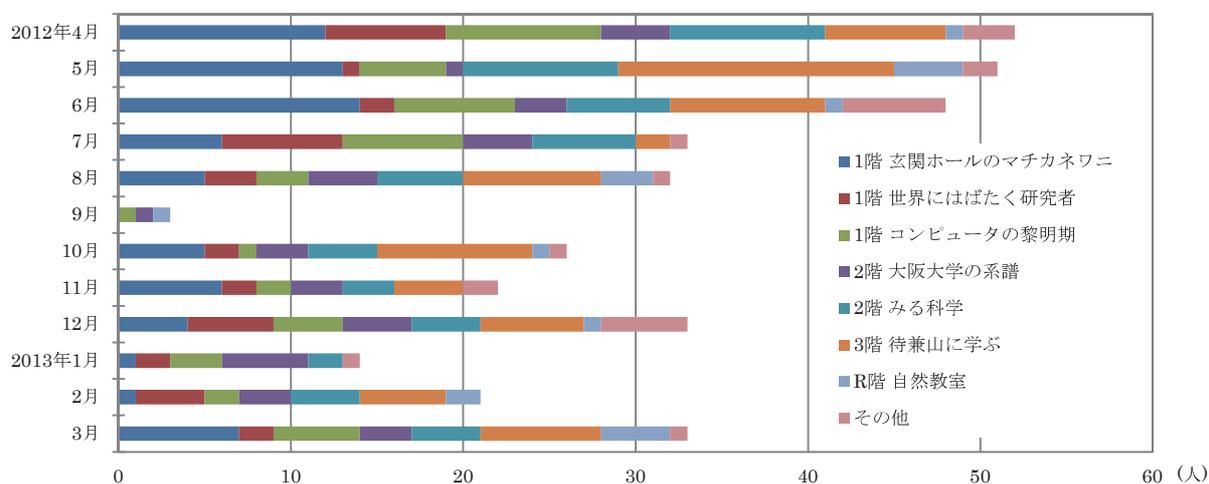
◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

- | | | | |
|--|--|---|--|
| <p>4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞 (3件) ・ポスター ・いちようまつり ・しんぶん | <p>5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームカミングデー ・お父さん ・ニュース ・ラジオ ・クラブのみんなでこようと ・美術部のみんなでこようと。 ・美術部のこもん (2件) ・ポスター「ワニと…」 ・先生引率 | <p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事 ・前から知っていた カフェ サカによくきている ・TV ・本学の職員 ・福井県 恐竜博物館 | <p>7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設見学 ・大学の授業で見学するように言われた ・通学している子供にチラシを見せてもらった |
| <p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校 (4件) ・近所に住む ・ヒマラヤ展の新聞記事 | <p>10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お父さんにおしえてもらった ・現地調査の勉強 ・学校の総合調べ ・学校に無理やり連れてこられた | <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の見学会 ・学校 (2件) ・学校訪問 ・授業 ・インターンシップ | <p>11月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看板、チラシ <p>12月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吹田地学会の催しに参加 ・学校の実習 |
| <p>9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学見学会 | <p>2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター | <p>3月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資格試験受験で来航した ・祖父に連れられて | <p>2013年1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・息子の大学 ・サイエンスカフェに参加して |
| | | | <p>京都新聞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親 |

Q2 どの展示ゾーンが面白かったですか？（複数可）

（単位：人）

	1 階			2 階		3 階	R 階	その他
	玄関ホールのマチカネワニ	世界にはばたく研究者	コンピュータの黎明期	大阪大学の系譜	みる科学	待兼山に学ぶ	自然教室	
2012年4月	12	7	9	4	9	7	1	3
5月	13	1	5	1	9	16	4	2
6月	14	2	7	3	6	9	1	6
7月	6	7	7	4	6	2	0	1
8月	5	3	3	4	5	8	3	1
9月	0	0	1	1	0	0	1	0
10月	5	2	1	3	4	9	1	1
11月	6	2	2	3	3	4	0	2
12月	4	5	4	4	4	5	1	5
2013年1月	1	2	3	5	2	0	0	1
2月	1	4	2	3	4	5	2	0
3月	7	2	5	3	4	7	4	1
合計	74	37	49	38	56	73	18	23



● その他 内訳

◎アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。

- 4月
- ・キョーリユウ
 - ・特別展
 - ・とくべつてん

- 7月
- ・ヒマラヤの写真展

- 11月
- ・企画展
 - ・特集

- 3月
- ・☑印しか見えませんでした。従って見たゾーンは全て面白かったということになります。

- 5月
- ・3F 巨大ワニと恐竜
 - ・特別展示
 - ・きょうりゅう（「待兼山」に記載）

- 8月
- ・ヒマラヤの写真展

- 12月
- ・企画展
 - ・上方酒ばなし
 - ・第15回企画展
 - ・企画展
 - ・企画展示

- 6月
- ・巨大ワニと恐竜の世界（3件）
 - ・恐竜
 - ・企画展示物
 - ・きょ大ワニときょうりゅうのせかい

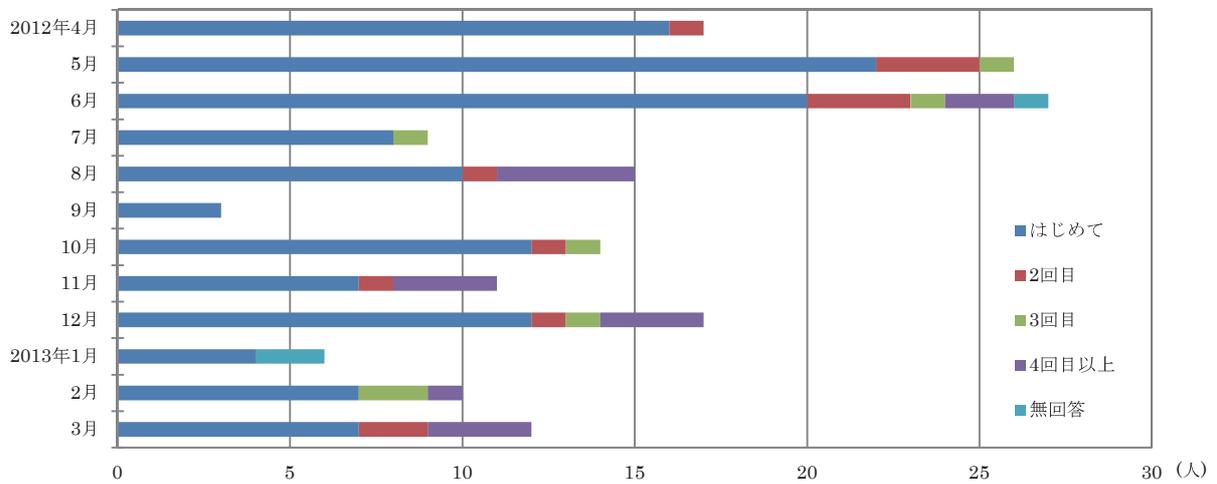
- 10月
- ・屋上の景色

- 2013年1月
- ・企画展示

Q3 来館は何回目ですか？

(単位：人)

	はじめて	2回目	3回目	4回目以上	無回答
2012年4月	16	1	0	0	0
5月	22	3	1	0	0
6月	20	3	1	2	1
7月	8	0	1	0	0
8月	10	1	0	4	0
9月	3	0	0	0	0
10月	12	1	1	0	0
11月	7	1	0	3	0
12月	12	1	1	3	0
2013年1月	4	0	0	0	2
2月	7	0	2	1	0
3月	7	2	0	3	0
合計	128	13	7	16	3



Q4 その他ご意見・ご感想などをお書きください。

◎ アンケート記載の内容を可能な限りそのまま転記。※部のコメントは内容を補足するために付加。

● 2012年4月

- ・貴重な資料がわかりやすく興味深く展示され充実した時を過ごすことができました。ありがとうございました。
- ・すごくおもしろかったです。
- ・めっちゃくちゃ楽しかった
- ・めっちゃくちゃおもしろかった。
- ・昨日の小林先生の講演会を聞きたかったと残念です。北海道に住んでいましたので、北大 M で、他の講演会で、お世話になっていました。しかし、M トークの方がとてもくわしくお話し下さって、息子共々、今日来てよかったと思っております
- ・いろんなことが、とくべつてんでわかって、うれしかった。
- ・けんぴ鏡がおもしろかったです。いろいろなものが大きく見えてよくわかりました。たのしかったです※音符記号有
- ・けんぴきょうで見るやつがとてもたのしかったです。
- ・たんぱく質とかウィルスのあたりが興味深かった。
- ・サイクロトロンなどの研究施設についてもっとくわしく展示してほしい
- ・大変おもしろかったです。
- ・けんぴきょうをみるところがおもしろかったです。

● 5月

- ・みてとてもれきしがしりたくなりました。
- ・マチカネワニの大きさに、おどろきました。いろいろな、きょうりゅうや、ワニのかせきが、はくりよくがあつて、楽しかったです。美術部のみんなで、また来たいと思いました。いや…、また絶対きます！
- ・マチカネワニのことが知れて、本当によかった。あんまりわからないことがいっぱいあつたから、知れてよかった。すごく楽しい。はじめてきた人も、喜ぶと思います。
- ・大きくてはくりよくがあつた。きょうりゅうが好きなのでたのしかったです。ワニのかせきが大きすぎて上の方が見えないくらいでした。
- ・ワニ、恐竜が大好きなので、感動しました。マチカネワニの大きさにビックリです。
- ・前からワニやきょうりゅうがきょうみあつたので、楽しかった。美術部だったので、たくさん絵をかけた。
- ・たのしかった。
- ・マチカネワニが大きくてびっくりしました。
- ・非常に良く保守されている 説明が判り易い 阪大生は全員訪れた(知っている)のだろうか？
- ・30年余り前、阪大を訪れたことがある。今回、当時に比べ大学全体が美しく、本施設のようなものも整い、良いことと思った。ただし、学費が昔に比べ高いのがつらい
- ・いえではみられないもののみ力てきなものがあつてえいぞうがおもしろくてれきしやほんものきょうりゅうむかしのものをみられてよかったです。
- ・てづかおさむのやつもういちどやってほしい。
- ・きょうりゅうがうごくところがすごかった。
- ・大規模な展示におどろき、大変興奮しました。無料なのもおどろきです。何度も来たくになります。
- ・私は大阪大学に入りたいです。頑張ります。
- ・孫をつれてきたい

● 6月

- ・おもしろかった！！
- ・特別展：せまいスペースにつめこみすぎです。
- ・「巨大ワニと恐竜展」はとても良かった。楽しく学ばせてもらいました。3階の「ハニワコーナー」？も勉強になった。
- ・とても おもしろかった。
- ・巨大ワニと恐竜の世界が一番面白かったです。いっぱい化石が見れて楽しかったです。
- ・巨大ワニと恐竜の世界がおもしろかった

- ・大阪大学工を S33 に卒業しました。当時の医短の変身振りをなつかしく思っています。
- ・ワニと恐竜の標本が興味深く楽しく見ることができました。
- ・恐竜の展示が予想以上に良かった。ワニの大きさを説明するパネルがあったが、床に、実際の大きさがあればなお良かったと思う。
- ・今日は幼児が多くて少しにぎやかでした。
- ・はじめてきたけど、とてもたのしかったです。きょうりゅうがおもしろかったです。またきたいです。
- ・博物館は初めて来ましたが、恐竜が大好きなので、とても興味深く観させて頂きました。マチカネワニの巨大さに驚きました。また、このような展示を期待しています。ありがとうございました。
- ・古い電算器？を実際に動かすワークショップ希望。ハニワは本物？馬と馬ひきのハニワは作りがものすごく雑だけど、そういうものなのですか？そんな説明も欲しかった。学生ボランティアとかで自由に質問できる人とかいたらうれしいです。
- ・コンピューター黎明期で、大阪大学の真空管計算機のモニター音が大きくて、タッチパネルのTVの音が聞こえにくいので、もう少し、音量を下げしてほしいです。けいさんきのおはなしがたのしかったし、くわしかったから、わかりやすかった ありがとう ばいばい
- ・展示内容が展示物の少ないのをすばらしくカバーしていた。ミュージアムショップの中央にある台の先（三角）をワニの頭にすれば。
- ・質が高く、展示方法も凝っていると思いました。順路や、導線がスムーズになると、より「見せる」「魅せる」博物館になると思いました。
- ・非常によかった。説明もよかった。
- ・特別展示がおもしろかった。
- ・一般有料の博物館などと比較しても、内容の濃さ、高さにおいて、ひけをとっておらず、施設の管理も行き届いている為、大変、楽しく充実した時を過ごせました。
- ・この空間でのこの展示内容は 大変満足です また来たい と思っています
- ・おもしろかった。ワニやきょうりゅうがかっこよかった。
- ・色々な化石などが 展示されてあって 勉強になりました。

● 7月

- ・展示が、よくまとまり見やすかった。研究がよくわかり勉強になりました。
- ・大阪大学の正史の紹介として見る分にはとても面白かったです。大学の現在の研究についても、展示があれば見てみたいです。
- ・とても面白かったです。映像に見応えがありました。
- ・マチカネワニが素晴らしかった。どうして温帯の日本で、こんなに巨大化したのか、などを解き明かしてほしい。
- ・以前に、南アメリカ(チリ?)の刺繍(アップリケ)による友政府運動に、とても感動しました。その後、映画「アレクサンドリア」の監督が、おそらくその影響下で成長期を送った人だったのだろうと思って、南アメリカ(チリ?)と映画の両方に一層親しみを持ちました。大学博物館の可能性を実感しています。
- ・数学機器というものを初めて知り、大変興味深かったです。是非また来たいと思います。
- ・実際に蚊の頭を顕微鏡で見たり体験できるのが面白かった。カフェも落ち着いていて感じがいいと思った。

● 8月

- ・自動改札システムの開発に大阪大学が貢献していたことを確かめることができました。(北千里駅に導入されたときに近くに住んでいました)
- ・氷河の後退が気になりました。温室効果ガスの排出を抑制しないといけないと思いました。原子力発電所を止めるのはよくても、一方で、火力発電所で化石燃料を大量に燃焼させるのはよくないと思います。
- ・卒業生ですが、初めて知りました。いいところですね。
- ・マチカネワニの食性について何も記されていないのが残念。口型から考えるに魚食か。
- ・たのしかった。
- ・すごかった。また来たら来よう。
- ・駅からも近く、とても貴重な展示をされているので是非また来たいと思います。
- ・サイエンス化学、昨年11月の講座1月の講座等もっと多く、又もう少し多くの人数を。
- ・とてもおもしろかった。

- ・楽しかったし勉強になった。
- 9月
 - ・自然教室とてもたのしかったです。
 - ・素晴らしいと思います。
- 10月
 - ・長岡半太郎先生の揮毫に感動しました。金森順次郎先生の movie も人生の指針を決める上で非常に役に立ちました。イネの芽の断面の形に心惹かれました。3D ツアーに出てみように驚きました。普通に見ても3Dに見えるんですね。埴輪がすてきです。びっくりしました。
 - ・ひょう本をふやして、かん字にふりがなつけて
 - ・マチカネワニのことがよりいっそう知ることができた。だがもう少しかんたんでもよかった
 - ・マチカネワニについて色々分かった。でも、小学校も来ると思うからふりがなをふった方がいいと思う
 - ・世界にはばたく！！
 - ・特になし
 - ・日本初のワニ化石があると聞き、大阪に来る機会があればぜひ来たいと思っていました。
 - ・カフェがおしゃれ
 - ・トイレがキレイ
 - ・ワニ感動しました
 - ・ない
- 11月
 - ・マチカネワニなどの展示は、子供も大いに興味をひきます。他の展示もいいです。土、日も開館出来れば、地域の多くの方が来館出来、良いと思います。(平日1~2日休みでもいい)
 - ・すぐたのしかった、また行きたいです。
 - ・げんかん前のマチカネワニはすぐでかかったです。
 - ・充実している。“ちょっと寄った”ではダメ。本格的に見ることが必要
 - ・小規模な記念館のような博物館と思って入ったのですが、中味が充実していてそれなりに感動的でした。
 - ・よかった、また来ます
 - ・第2会場が土曜日開館していないのにショック！東京からわざわざ来たのに、、、
 - ・本坊酒造の社長が阪大出身を初めて知りました。南日本新聞、懐かしいです
- 12月
 - ・建物は昔のもののような感じをうけましたが、中の展示は新しく、目をひくものが多くありました。
 - ・少しパネルの文字モノが多いような、、、
 - ・カフェ空間もとてもステキです。
 - ・酒についての説明を聞いて、面白かった。
 - ・学生の方によるミュージアムトークで御案内いただき、興味深く展示を見ることができて、よかったです。
 - ・聞きとりやすい声でレクチャーしていただきありがとうございました。
 - ・改めて時間を持って参観をしたい
 - ・「上方・酒ばなし」でガイドしていただき、展示内容が良く理解できた。定期的に他の展示場もガイドしていただければと思います。
 - ・酒について知らなかったことをいろいろと知ることができておもしろかったです。
 - ・ターゲットは、だれですか？目的は何んですか？すばらしい内容ですが、ほとんど見に来る人はないと思います。たまたまですがラッキーでした。
 - ・特別展示を見にきました。「頭に吞ませる」の力目的です。日本酒に興味があるので普段と違った面(流通、技術等)が楽しめて今後の日本酒がより美味しなりそうです。
- 2013年1月
 - ・修学旅行を取扱う旅行代理店や工場見学等の旅行確認にもっとアピールした方が、、、、。

- ・「書」の積文、一部書かれています。できれば、全部お書換えればと存じます。
- ・ありがとうございました。来館できてよかったです
- ・大阪大学の事について、たくさん知れました。また来たいなと思いました。
- ・色々知れて良かったです。大阪大学のてきしを知れて良かったです。また、来たいです。
- ・大阪大学に入りたいです

● 2月

- ・トイレの芳香剤がきつい。もう少しやわらかい香りがいいです。もしくは、不要。
- ・階段のまどのガラスの色が、きれい
- ・おもしろい
- ・すごくおもしろかった！
- ・わかりやすい展示でした。
- ・可能なら入学オリエンテーションで大阪大学の系譜のビデオを新入生に見せてほしいです。自分たちが、これから学ぶ大学に誇りが持てると思います。

● 3月

- ・とてもおもしろい展示がたくさんあり、勉強になりました。特に、細胞や昆虫を顕微鏡で観察できる展示はよかったです。
- ・子どもが受験する前に来てマチカネワニ様におねがいしました。「合格したらごあいさつにうかがわせます。」の約束を果たせました。
- ・展示がきれいで、レベルが高く大変驚きました。全て見れなかったのもまた来たいと思います。貴学の益々のご発展をお祈りします。
- ・すごくおもしろかった。
- ・古い物をたくさんみれて楽しかった。
- ・入館無料は大阪らしくて偉い。
- ・マチカネワニ万歳。
- ・思っていたよりもずっと面白かったです。時間あればもう少し長くみていたかったです。
- ・楽しかったです\(^o^)/またきます。(笑顔の女の子のイラスト入り)
- ・いろいろなものがたくさん見れて、楽しかったし発見ができたと思います※音符 ハート記号有
- ・ノミとか細かくてたのしいです。

団体見学一覧

※事前に申し込みのあった団体のみを掲載

No.	月 日	曜日	団 体 名	人数	説明館員
2012 年					
1	4 月 7 日	土	旧制浪速高等学校同窓会	15	—
2	4 月 16 日	月	[共通教育科目] 大阪大学の歴史	110	—
3	4 月 21 日	土	[講座] 第 7 回植物探検隊 @ 春の待兼山を訪ねて	33	—
4	4 月 25 日	水	[共通教育科目] 宇宙地球科学の考え方	72	—
5	5 月 10 日	木	[共通教育科目] モノから歴史を考える	11	—
6	5 月 14 日	月	[共通教育科目] 地球科学 A	67	—
7	5 月 16 日	水	豊中市教育研究会『豊中の歴史』研究部会	6	松永
8	5 月 16 日	水	池田市教育研究会小学校理科部会	17	—
9	5 月 21 日	月	豊中市桜塚婦人会	24	伊藤
10	5 月 21 日	月	豊中市サンマテオクラブ	8	横田
11	5 月 22 日	火	工学部応用理工学科	44	伊藤
12	5 月 23 日	水	和歌山県立橋本高等学校 第 2 学年	40	上田
13	5 月 23 日	水	刀根山御坊豊嶋山常楽寺仏教婦人会	7	上田
14	5 月 24 日	木	[専門科目] 化学入門セミナー 1	8	宮久保
15	5 月 25 日	金	大阪府立和泉高等学校	140	伊藤
16	5 月 25 日	金	野畑図書館	3	—
17	5 月 28 日	月	石橋南小学校 2 年生	42	—
18	5 月 28 日	月	石橋南小学校 3 年生	48	—
19	5 月 31 日	木	京都市両洋高等学校	97	—
20	6 月 1 日	金	豊中大阪国際空港ロータリークラブ	15	高橋
21	6 月 2 日	土	刀根山地域子供教室	12	伊藤
22	6 月 5 日	火	気楽会	20	伊藤
23	6 月 6 日	水	川西生涯学習短期大学 OB 会	12	—
24	6 月 6 日	水	[共通教育科目] 宇宙地球科学の考え方	180	—
25	6 月 11 日	月	豊中市上野婦人会	20	伊藤
26	6 月 13 日	水	瀬川保育園	32	豊田
27	6 月 13 日	水	兵庫県川西市生涯学習短期大学「レフネック」有志 OB 会	7	豊田
28	6 月 15 日	金	豊中第四中学夜間学級	11	横田
29	6 月 15 日	金	学術研究懇談会 (RUII) 研究担当理事・副学長懇談会	30	—
30	6 月 16 日	土	滋賀県立膳所高等学校 物理地学班	8	—
31	6 月 23 日	土	きしわだ自然友の会	27	伊藤
32	7 月 4 日	水	福井県立若狭高等学校 PTA	82	—
33	7 月 9 日	月	光泉高等学校	40	—
34	7 月 11 日	水	金光八尾高等学校	33	—
35	7 月 12 日	木	大阪府立泉陽高等学校	84	豊田・宮久保
36	7 月 12 日	木	社団法人 日本セカンドライフ協会	30	—
37	7 月 17 日	火	大阪市立咲くやこの花高等学校	24	豊田
38	7 月 26 日	木	台湾 (中華民国) 東海大学日本語文学系	23	—
39	7 月 27 日	金	関西地区国立大学工学部事務協議会	30	伊藤
40	8 月 2 日	木	兵庫県立小野高等学校	43	—
41	8 月 2 日	木	星稜高等学校	26	—
42	8 月 9 日	木	土佐高等学校	31	松永
43	8 月 9 日	木	近畿大学附属東広島高等学校	22	松永
44	8 月 17 日	金	西宮市西宮高校	40	—

No.	月 日	曜日	団 体 名	人数	説明館員
45	8月21日	火	長崎県教育庁高等教育課高等教育班	15	伊藤
46	8月23日	木	シニア自然大学校 自然観察・科学自然科	13	—
47	8月30日	木	稲田塾	25	—
48	8月31日	金	私立昭和薬科大学附属高等学校	28	宮久保
49	9月4日	火	NPO 法人 すいた市民環境会議	15	伊藤
50	9月4日	火	吹豊歩こう会	14	伊藤
51	9月19日	水	比叡山高校	92	横田
52	10月4日	木	豊中市上野公民分館	20	上田
53	10月9日	月	豊中市立豊南小学校	55	宮久保
54	10月15日	月	吹田市西山田地区公民館主催講座「てくてく北摂めぐり」	32	伊藤
55	10月17日	水	[専門科目] 応用地質学	30	—
56	10月17日	水	大阪府立三島高等学校	70	—
57	10月17日	水	近畿大学附属新宮中学校	47	横田
58	10月19日	金	大阪府立住吉高等学校	84	豊田
59	10月19日	金	大阪市立咲くやこの花高等学校	42	豊田
60	10月20日	土	高槻市立阿武山中学校 科学部	10	—
61	10月26日	金	大阪大学学際融合教育研究センター	25	—
62	10月29日	月	岡山県立岡山一宮高等学校	53	—
63	10月30日	火	兵庫県立北条高等学校	45	—
64	11月6日	火	群馬県立前橋高等学校(医療・化学系ゼミ)	42	—
65	11月6日	火	群馬県立前橋高等学校(心理・教育系ゼミ)	43	—
66	11月7日	水	箕面シニア塾 箕面の自然コース	16	高橋
67	11月8日	木	群馬県立前橋高等学校(物理・数学系ゼミ)	23	—
68	11月10日	土	西南学院大学博物館	3	—
69	11月13日	火	滯電会	22	—
70	11月22日	木	兵庫県立宝塚北高等学校 グローバルサイエンスコース	39	豊田
71	11月27日	火	阪大バックス29	10	—
72	12月1日	土	吹田地学会	10	—
73	12月13日	木	島根県立益田高等学校	36	—
74	12月22日	土	[共通教育科目] 生物科学概論B	66	伊藤
2013年					
75	2月18日	月	[大阪大学主催] 日韓学生会議	27	宮久保
76	3月11日	月	緑陰クラブ	22	—
77	3月19日	火	吹田市民大学 同窓会	14	豊田
				計	2,762 人

関連記事一覧

新聞

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載日	曜日	掲載紙名	内 容
2012年				
1	4月4日	水	朝日新聞	A+1 美術館・博物館 子どもと一緒に 大阪大学総合学術博物館 巨大ワニと恐竜の世界
2	4月8日	日	大阪日日新聞	阪大総合学術博物館 10周年特別展 ワニ vs 恐竜の歴史紹介
3	4月13日	金	毎日新聞	恐竜より強かった巨大ワニ 阪大総合学術博物館で企画展
4	4月14日	土	産経新聞	巨大爬虫類 2億3千万年の攻防 阪大総合学術博物館で特別展
5	4月23日	月	大阪日日新聞	「マチカネワニ」化石発掘記念 阪大にモニュメント
6	4月24日	火	朝日新聞	巨大爬虫類 2.3億年 ワニ・恐竜で知って 阪大博物館で特別展
7	5月16日	水	朝日新聞	狭さゆえの巨大な迫力
8	5月22日	火	大阪日日新聞	特別講演会の参加者を募集
9	5月29日	火	読売新聞	よみうり抄 大阪大学総合学術博物館創立 10周年記念特別講演会
10	6月13日	水	産経新聞	「大阪モノレール」で行こう 平安、太古…歴史秘めた待兼山
11	6月20日	水	朝日新聞	A+1 子どもと一緒に 大阪大学総合学術博物館 巨大ワニと恐竜の世界
12	8月25日	土	読売新聞	阪大で「奈良の大仏」シンポ
13	8月30日	木	産経新聞	十字路（創立 10周年 文化財公開シンポジウム紹介）
14	10月28日	日	読売新聞	大阪の芸術シンポ（創立 10周年 シンポジウム）
15	11月10日	土	産経新聞	企画展「ものづくり上方“酒”ばなし」
16	11月14日	水	毎日新聞	大阪で芽生えた前衛を探る 阪大中之島センターでシンポ
17	11月15日	木	大阪日日新聞	ものづくり上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科
18	11月21日	水	朝日新聞	大阪のアヴァンギャルド芸術
19	11月25日	日	毎日新聞	ものづくり 上方“酒”ばなし
2013年				
20	1月1日	火	米沢日報	文化 酒と文化の関わりを考える 大阪大学醸造科—国内初の設置、酒造業の近代化に寄与
21	1月7日	月	大阪日日新聞	ミュージアム・レクチャー ジャパニーズ・ウイスキー誕生「神話」
22	2月20日	水	朝日新聞	美術館・博物館 国立公文書館が大阪大学にやってきた！
23	2月26日	火	大阪日日新聞	大阪の歴史と今に光 阪大総合学術博物館 国立公文書館・阪大所蔵展
24	2月26日	火	産経新聞	重要な歴史資料紹介「国立公文書館」展 阪大総合学術博物館
25	2月26日	火	毎日新聞	国立公文書館所蔵資料展 第一級から意外なものまで

その他 刊行物

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌名	刊・号 等	内 容
1	ともも 有限会社 ともも	2012年4月 No.128	とももメッセージボード ギャラリー・催し 大阪大学創立10周年記念『巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防』
2	憩いのタウン情報誌 Yomi+Plus よみぷら編集部	2012年5月 vol.42	とよなかのいたワニ マチカネワニ かせき
3	日本列島の大研究 PHP 研究所	2012年6月25日	新生代の化石 6550万年前～現在 ○さまざまな生き物が見つかる
4	あっぱれ！江戸の医 術 現代医学の源流は 江戸時代にあり 株式会社 徳間書店	2012年8月15日	医療にも生かされた日本人の技術 (大阪大学総合学術博物館 個人蔵 顕微鏡の写真)
5	第10回 関西文化の 日 関西広域連合 関西元 気文化圏推進協議会	2012年 11月17・18日開催分	府県別 入館無料 施設リスト 大阪府 北部 大阪大学総合学術博物館
6	和歌山特報 和歌山特報社	2012年12月11日 第1395号	生涯学習 お酒づくりの話
7	薬史レター 日本薬史学会編集委 員会	2012年12月 第65号	【新刊紹介】 『森野旧薬園と松山本草 薬草のタイムカプセル』 大阪大学総合学術博物館叢書7

その他 刊行物

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌名	刊・号 等	内 容
8	Toyonaka MAP 豊中市政策企画部広 報広聴課	2013年3月	Culture 学ぶ 博物館へ行く 歴史や文化も豊中市の誇り。受け継がれる伝統を、あなたに…。
9	SUMITOMO QUARTERLY 株式会社 東洋経済リ サーチセンター	2012年秋季 No.130	IN THE TOWNS
10	Hello! Doctor アミューズ	2012年5月10日 通巻54号	大阪大学総合学術博物館第5回特別展 巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防—
11	Hello! Doctor アミューズ	2012年11月7日 通巻57号	大阪大学総合学術博物館 創立10周年記念 第15回企画展 ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—
12	広報いけだ 池田市	2012年4月1日 第1097号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館 第5回特別展「巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防—」
13	広報いけだ 池田市	2012年5月1日 第1098号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館 第5回特別展「巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防—」
14	広報いけだ 池田市	2012年6月1日 第1099号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館 第5回特別展「巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防—」
15	広報いけだ 池田市	2012年7月1日 第1100号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館
16	広報いけだ 池田市	2012年8月1日 第1101号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館
17	広報いけだ 池田市	2012年9月1日 第1102号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館
18	広報いけだ 池田市	2012年10月1日 第1103号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館 「ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—」
19	広報いけだ 池田市	2012年11月1日 第1104号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館 「ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—」
20	広報いけだ 池田市	2012年12月1日 第1105号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館 「ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—」
21	広報いけだ 池田市	2013年1月1日 第1106号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館 「ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—」
22	広報いけだ 池田市	2013年2月1日 第1107号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館 ●国立公文書館所蔵資料展 「国立公文書館が大阪にやってきた！」
23	広報いけだ 池田市	2013年3月1日 第1108号	みゅうじあむ・がいど 大阪大学総合学術博物館 ●国立公文書館所蔵資料展 「国立公文書館が大阪にやってきた！」
24	これがウチのおはこ やねん！ いしばし商店街	2012年 10月18日～21日	大阪大学総合学術博物館からのお知らせ 創立10周年記念 第15回企画展 ものづくり 上方“酒”ばなし
25	これがウチのおはこ やねん！ いしばし商店街	2012年 11月18日～20日	大阪大学総合学術博物館からのお知らせ 創立10周年記念 第15回企画展 ものづくり 上方“酒”ばなし
26	これがウチのおはこ やねん！ いしばし商店街	2012年 3月18日～20日	大阪大学総合学術博物館からのお知らせ 予告 第16回企画展 オオサカがとんがっていた時代
27	読売ファミリー 株式会社読売情報開 発大阪	2012年4月25日 No.1231 奈良・三重 版	巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防—
28	読売ファミリー 株式会社読売情報開 発大阪	2012年10月31日 No.1256 大阪北版	ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—
29	はろーあさひ 阪田新聞舗 川西山下 店 ときわ台店	2012年4月 第335号	大阪大学総合学術博物館創立10周年記念 第5回特別展 巨大ワニと恐竜の世界～巨大爬虫類2億3千万年の攻防～
30	はろーあさひ 阪田新聞舗 川西山下 店 ときわ台店	2012年9月 第340号	奈良の大仏はなぜ“若くみえる”のか？
31	はろーあさひ 阪田新聞舗 川西山下 店 ときわ台店	2012年11月 第342号	大阪大学総合学術博物館創立10周年記念 第15回企画展 ものづくり 上方“酒”ばなし
32	はろーあさひ 阪田新聞舗 川西山下 店 ときわ台店	2012年11月 第342号	シンポジウム 大阪のアヴァンギャルド芸術

その他 刊行物

※教員関連の記事は「6. 専任教員活動報告」のそれぞれの教員の項に記載

No.	掲載誌名	刊・号 等	内 容
33	リビング豊中・池田 サンケイリビング新聞社	2012年4月21日 1806号	information 巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防—
34	リビング北摂西 サンケイリビング新聞社	2013年1月5日	コレは使える!! 地元大学の施設開放 図書館・博物館などでアカデミック体験 大阪大学豊中キャンパス（大阪大学総合学術博物館）
35	リビング北摂中央 サンケイリビング新聞社	2013年1月5日	コレは使える!! 地元大学の施設開放 図書館・博物館などでアカデミック体験 大阪大学豊中キャンパス（大阪大学総合学術博物館）
36	学びの情報 生涯学習 吹田市民大学講座・ 各所轄講座案内 吹田市	2012年5月 2012年5月～9月開催 分	大阪大学総合学術博物館第5回特別展 巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防—
37	学びの情報 生涯学習 吹田市民大学講座・ 各所轄講座案内 吹田市	2012年10月 2012年10月～2013 年3月開催分	大阪大学総合学術博物館創立10周年記念シンポジウム オオサカがとんがって いた時代「大阪のアヴァンギャルド芸術—焼け跡から万博前夜まで—」
38	学びの情報 生涯学習 吹田市民大学講座・ 各所轄講座案内 吹田市	2012年10月 2012年10月～2013 年3月開催分	大阪大学総合学術博物館創立10周年記念 第15回企画展 「ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科」
39	シティライフ 北摂WEST版 吹田・豊中・箕面・ 池田	2012年4月 vol.110	大阪大学総合学術博物館創立10周年記念 第5回特別展 巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防—
40	シティライフ 北摂WEST版 吹田・豊中・箕面・ 池田	2012年11月 vol.117	ものづくり 上方“酒”ばなし —先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—
41	〔ほろよい手帖〕 たるたる出版株式会社	2013年2月25日 第34巻2号 (通巻364号)	大阪大学総合学術博物館叢書8 「ものづくり 上方“酒”ばなし—先駆・革新の系譜と大阪高等学校醸造科—」
42	〔ほろよい手帖〕 たるたる出版株式会社	2013年3月25日 第34巻3号 (通巻365号)	TARU Information Column 大阪大学総合学術博物館企画展 「ものづくり 上方“酒”ばなし」
43	広報とよなか 豊中市	2012年4月1日 通巻744号	人権・文化 巨大ワニと恐竜の世界 巨大爬虫類2億3千万年の攻防
44	広報とよなか 豊中市	2012年5月1日 通巻745号	人権・文化 巨大ワニと恐竜の世界 ミュージアム・レクチャー
45	広報とよなか 豊中市	2012年6月1日 通巻746号	人権・文化 巨大ワニと恐竜の世界 ミュージアム・レクチャー
46	広報とよなか 豊中市	2012年6月1日 通巻746号	人権・文化 大阪大学総合学術博物館10周年記念特別講演会
47	広報とよなか 豊中市	2012年8月1日 通巻748号	夏の小学生科学体験教室
48	広報とよなか 豊中市	2012年12月1日 通巻752号	小中学生理科展 表彰式・作品発表会
49	マチゴト 豊中・池田 毎日新聞社	2012年4月12日 vol.38	CALENDAR 4月中旬～5月前半の催しピックアップ 巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防（6月30日まで）
50	マチゴト 豊中・池田 毎日新聞社	2012年6月14日 vol.40	6月半ば～7月前半の催しピックアップ 22(金) 大阪大学総合学術博物館創立10周年記念特別講演会
51	マチゴト 豊中・池田 毎日新聞社	2013年3月14日 vol.49	CULTURE 大阪大学博物館カフェで「奇石の世界」
52	ザ・淀川 淀川通信舎	2012年6月 第373号	information 6月 創立10周年記念特別展『巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類2億3千万年の攻防—』
53	ザ・淀川 淀川通信舎	2013年1月 第380号	information 1月 企画展『ものづくり 上方“酒”ばなし』—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—

インターネット

No.	掲載 HP	内 容
1	豊中市ホームページ 文化芸術振興トビックス	巨大ワニと恐竜の世界
2	大阪国際空港（伊丹空港） 周辺ガイド	大阪大学総合学術博物館
3	シティライフ 北摂エリアニュース	巨大ワニと恐竜の世界 —巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防—
4	大阪日日新聞	10 周年記念し特別講演会 阪大総合学術博物館
5	科学技術 全て伝えます Science Portal (独) 科学技術振興機構	大阪大学総合学術博物館 10 周年記念講演会
6	毎日読んでトクするテレビ 4d よん de! MBS	貴重な学術資料 & 研究成果を展示 大阪大学総合学術博物館
7	豊中市ホームページ 中央公民館	夏の小学生科学体験教室
8	街コミ ZAQ 株式会社テクノロジーネット ワークス	酒のはなし（第 15 回企画展）
9	MSN 産経 WEST 産経新聞社	【お出かけガイド】 ちょっと知的に古きを温めて「歴」を楽しむ 企画展「ものづくり上方“酒”ばなし」
10	国立公文書館 ホームページ 国立公文書館	公文書館ニュース 国立公文書館所蔵資料展「国立公文書館が大阪大学にやってきた」（於：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館）開催のお知らせ
11	マチゴト 豊中 池田 毎日新聞	文化歴史 大阪大学博物館カフェで「奇石の世界」
12	タッキーブログ タッキー 816 みのおエフエム	4 月 18 日水曜日のモーニングタッキー （第 5 回特別展 PR）
13	タッキーブログ タッキー 816 みのおエフエム	「巨大ワニと恐竜の世界」（大阪大学総合学術博物館）会場からレポート！（まちのラジオ第二週）
14	タッキーブログ タッキー 816 みのおエフエム	大阪大学総合学術博物館の企画展「ものづくり上方“酒”ばなし」について（まちのラジオ第二週）

ラジオ・テレビ等

No.	掲載誌名	刊・号 等	内 容
1	モーニングタッキー タッキー 816 みのお エフエム	2012年4月18日	大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 第 5 回特別展 巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防—
2	モーニングタッキー タッキー 816 みのお エフエム	2012年6月14日	「巨大ワニと恐竜の世界」（大阪大学総合学術博物館）会場からレポート
3	原田伸郎のこの街ええ なあ #1 大阪府豊中市 K-CAT eo 光テレビ	2012年7月3日	マチカネワニの解説・発掘写真提供等
4	よ〜いドン! となり の人間国宝さん 関西テレビ	2012年7月13日	大阪大学総合学術博物館 紹介
5	モーニングタッキー タッキー 816 みのお エフエム	2012年11月8日	「ものづくり 上方“酒”ばなし」—先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—
6	青ちゃんのサタデーパーク 千里ニュータウン FM 放送株式会社	2012年4月21日	大阪大学総合学術博物館創立 10 周年記念 第 5 回特別展 巨大ワニと恐竜の世界—巨大爬虫類 2 億 3 千万年の攻防—
7	毎日放送 4de 毎日放送	2012年5月25～27日	貴重な学術資料 & 研究成果を展示 大阪大学総合学術博物館
8	ラジオ関西 558	2012年11月6日	ものづくり 上方“酒”ばなし —先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科—

寄贈図書一覧

No.	寄贈者	書名
1	池田市立歴史民俗資料館	平成 24 年度特別展 廣瀬旭荘と池田・大坂
2	和泉市久保惣記念美術館	開館三十周年記念特別展 美の宴 東洋の古美術、印象派と古地図が織りなす珠玉の世界
3	和泉市久保惣記念美術館	和泉市久保惣記念美術館 新藏品選集
4	伊丹市立美術館	館報 2009～2010
5	茨木市教育委員会	平成 23 年度発掘調査概報 一人暮らし住宅建築に伴う発掘調査報告一
6	岩手県立博物館	平成 23 年度岩手県立博物館年報
7	岩手県立博物館	岩手県立博物館調査報告書 第 29 冊 総説「日本のクマゲラ」
8	宇治市歴史資料館	宇治市歴史資料館 年報 平成 22 年度 2010
9	宇治市歴史資料館	収蔵資料調査報告書 14 絵ハガキ 1
10	宇治市歴史資料館	思い出と写真とモノで綴る 子どもたちの近代誌
11	大阪市博物館協会	日欧のサムライたちーオーストラリアと日本の武器器具展ー
12	大阪城天守閣	テーマ展 世情ー大阪城天守閣収蔵風俗図屏風にみる
13	大阪城天守閣	徳川時代大坂城関係史料集 第十五号 川崎東照宮関係記録(二)
14	大阪城天守閣	大阪城天守閣紀要 第 39 号
15	大阪城天守閣	特別展 秀吉の城
16	大阪城天守閣	テーマ展 南木コレクションシリーズ第 13 回 古写真にみる なにわの行事・祭礼
17	大阪市立大学大学史資料室	恒藤記念室叢書 2 恒藤恭滝川事件関係資料 神戸時代の井川(恒藤)恭
18	大阪市立大学大学史資料室	大阪市立大学史紀要 第 5 号
19	大阪市立東洋陶磁美術館	李秉昌博士記念 韓国陶磁研究報告 6「高麗「鉄絵青磁」の世界をさぐる」
20	大阪市立美術館	大阪市立美術館紀要 第 12 号
21	大阪府教育委員会	第 41 回 日本伝統工芸近畿展
22	大阪府教育委員会文化財保護課	重要文化財 四天王寺舞楽所用具 一染織品編一
23	大阪府教育委員会文化財保護課	大阪府指定無形文化財【木工芸】——藤寄 一正
24	大阪府教育委員会文化財保護課	文楽人形【鬘師・床山】——名越 昭司
25	大阪府立狭山池博物館	平成 24 年度特別展 中世狭山池の水上世界
26	大阪歴史博物館	特別展 天下の城下町 大坂と江戸
27	大阪歴史博物館	ザ・タワー 都市と塔のものがたり
28	大阪歴史博物館	ウクライナの至宝展 スキタイ黄金美術の煌めき
29	大阪歴史博物館	大阪歴史博物館年報 平成 23 年度
30	小樽市総合博物館	小樽市総合博物館紀要 第 26 号
31	香川県立ミュージアム	ミュージアム 調査研究報告 第 4 号 根香寺総合調査報告
32	香川県立ミュージアム	香川県立ミュージアム 年報 第 3 号 (平成 22 年度)
33	香川県立ミュージアム	香川県立ミュージアム 年報 第 4 号 (平成 23 年度)
34	香川県立ミュージアム	収蔵資料目録 4
35	香川県立ミュージアム	ふるさとの汽車と電車 そして連絡船 昭和鉄道展
36	香川県立ミュージアム	棟方志功 祈りと旅
37	香川県立ミュージアム	語りかける彫刻 速水史朗展
38	香川県立ミュージアム	フランス絵画 200 年 光と風景 ミレー、カラーそしてモネ、ルノワールへ
39	香川県立ミュージアム	東京国立近代美術館工芸館所蔵名品展 耀くわざと美ー日本工芸のいま
40	香川県立ミュージアム	夏休み子どもミュージアム つなげてひろげて紙から生まれた不思議 秋山たいけいのからくり展覧会報告書
41	香川県立ミュージアム	高松松平家博物図譜 写生画帖 雑草
42	鹿児島大学総合研究博物館	鹿児島大学総合研究博物館年報 No.10 2010
43	鹿児島大学総合研究博物館	やきものづくりの考古学ー鹿児島県の縄文土器から薩摩焼までー
44	笠岡市立竹喬美術館・京都国立近代美術館・毎日新聞社	山口華楊
45	柏原市立歴史資料館	柏原市古文書調査報告書第八集 中家文書目録
46	柏原市立歴史資料館	平成 24 年度夏季企画展 歴史資料館開館 20 周年・鳥坂寺跡国史跡指定記念 鳥坂寺再興
47	柏原市立歴史資料館	柏原市立歴史資料館 館報 第 24 号 2011 年度
48	金沢大学資料館	金沢大学資料館紀要
49	関西学院大学 博物館開設準備室	図録「アンデスのデザイン Design in the Andes」
50	関西学院大学 博物館開設準備室	公開研究会報告書第 1 号「高精細画像でみる和鏡」
51	関西学院大学 博物館開設準備室	新劇、耀きの'60年代 大阪労演とその時代Ⅱ 1960-1969
52	関西学院大学 博物館開設準備室	高精細画像による文化財研究 第 2 号 金属工芸の小宇宙ー高精細画像でみる刀装具ー
53	関西大学大阪都市遺産研究センター	大阪都市遺産研究叢書 別集 1 明治・大正 大阪映画文化の誕生
54	関西大学大阪都市遺産研究センター	大阪都市遺産研究 第 2 号
55	関西大学大阪都市遺産研究センター	第 4 回大阪都市遺産フォーラム特別企画展 道頓堀今昔ー芝居画家 山田伸吉の世界ー 展示図録
56	関西大学博物館	平成 24 年度 関西大学博物館企画展 東洋のやきものー日本・朝鮮・中国ー 南部靖之氏寄贈 古硯と古墨
57	関西大学博物館	関西大学博物館紀要 第 18 号
58	岸和田市教育委員会	岸和田史跡めぐり
59	岸和田市教育委員会	岸和田市の 90 年／岸和田の自然・90 年の物語
60	北九州市立自然史・歴史博物館	北九州市立自然史・歴史博物館 研究報告 B 類(歴史) 第 9 号
61	北九州市立自然史・歴史博物館	大連・モダンの風景 旅順博物館所蔵 大連古写真展
62	九州国立博物館	黄檗 京都宇治・萬福寺の名宝と禪の新風 九州国立博物館 5 周年記念 黄檗宗大本山萬福寺開創 350 周年記念 特別展
63	九州国立博物館	東風西声 九州国立博物館 紀要 第 6 号 2010
64	九州国立博物館	日本とタイ ふたつの国の巧と美 トピック展示 アジア友好日本古美術帰国展 九州新幹線開業記念
65	九州国立博物館	彫漆 漆に刻む文様的美 トピック展示
66	九州国立博物館	よみがえる国宝 守り伝える日本の美 特別展
67	九州国立博物館	琉球と袋中上人展 エイサーの起源をたどる 京都・檀王法林寺 開創 400 年記念

No.	寄贈者	書名
68	九州国立博物館	九州最古の狩人とその時代 九州国立博物館トピック展示「発掘された日本列島2011」地域展
69	九州国立博物館	東風西声 九州国立博物館 紀要 第7号 2011
70	九州国立博物館	横河民輔コレクション 東京国立博物館所蔵 中国陶磁名品選
71	九州国立博物館	契丹 草原の王朝 美しき3人のプリンセス 特別展
72	九州国立博物館	平山郁夫 シルクロードの軌跡 人類の遺産にかけた画家の人生
73	九州国立博物館	日本医術のことはじめ まじないから解体新書まで
74	九州国立博物館	館蔵 水墨画 名品展
75	九州国立博物館	細川家の至宝 珠玉の永青文庫コレクション
76	九州産業大学美術館	平成22・23年度 九州産業大学美術館年報報告書 No.5
77	九州大学総合研究博物館	九州大学総合研究博物館年報 第4号 2009-2010年度
78	九州大学総合研究博物館	Bulletin of the Kyushu University Museum Number 11 2013
79	九州大学総合研究博物館	九州大学所蔵 標本・資料 2012
80	京都国立近代美術館	KATAGAMI Style
81	京都大学総合博物館	Proceeding of Association of Pacific Rim Universities(APRU) Research Symposium on University Museums: Forming a University Museum Collection Network as the Core of Frontier Research
82	熊本大学五高記念館	第五高等学校の学徒出陣 熊本大学五高記念館叢書 第一集
83	公益財団法人阪急文化財団	阪急文化研究年報 第一号
84	公益財団法人阪急文化財団	阪急文化財団 阪急文化 第二号
85	公益財団法人阪急文化財団	阪急文化財団 阪急文化 第三号
86	公益財団法人秀明文化財団	MIHO MUSEUM 研究紀要 第11号
87	神戸大学大学院海事科学研究科海事博物館	海事博物館研究年報 2011(平成23年度) No.39
88	神戸大学大学院海事科学研究科海事博物館	海事博物館 企画展 図録 2011
89	神戸大学大学院人文学研究科 海港都市研究センター	海港都市研究 第8号
90	神戸ファッション美術館	型絵染 三代澤本寿展 民藝とともに 暮らしによりそう色と形
91	国立ハンセン病資料館	国立ハンセン病資料館 特別企画 北高作陶展
92	国立民族学博物館	国立民族学博物館 展示ガイド
93	国立民族学博物館	霧の森の智恵 マダガスカル、無形文化遺産のものづくり
94	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館外部評価報告書 ～歴博の共同研究について～
95	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館外部評価報告書 ～歴博の展示について～
96	国立歴史民俗博物館	国立歴史民俗博物館外部評価報告書 ～歴博の資源について～
97	堺市博物館	堺市博物館研究報告 第31号
98	サントリー美術館	開館五〇周年記念 サントリー美術館 研究紀要 二〇一二
99	滋賀大学経済学部附属史料館	滋賀大学経済学部附属史料館研究紀要 第四十五号
100	滋賀大学経済学部附属史料館	博物館相当施設指定60周年記念 平成24年度企画展 史料館で近江商人たちと出会う
101	静岡県立美術館	静岡県博物館協会研究紀要第35号
102	静岡市立美術館	平成23年度 静岡市美術館年報 No.2
103	静岡市立美術館	ストラスブル美術館展
104	鳥本町教育委員会	鳥本町文化財調査報告書 第20集
105	鳥本町教育委員会	鳥本町文化財調査報告書 第19集
106	鳥本町教育委員会	鳥本町文化財調査報告書 第18集
107	鳥本町教育委員会	鳥本町文化財調査報告書 第21集 離宮八幡宮社家 松田家文書調査報告書
108	鳥本町立歴史文化資料館	鳥本町立歴史文化資料館 館報第4号
109	吹田市立博物館	吹田市立博物館 館報12
110	吹田市立博物館	吹田市立博物館二〇周年記念／平成二四(二〇一二)年度春季特別展 大庄屋 中西家名品展
111	吹田市立博物館	吹田市立博物館 館報12
112	吹田市立博物館	吹田市立博物館 館報13
113	全国理工系学芸員会議	第2回 全国理工系学芸員展示研究大会 集録
114	大東市立歴史民俗資料館	平成24年度特別展 堂山古墳群のひみつ
115	たばこと塩の博物館	2011年度版 たばこと塩の博物館 年報 第27号
116	たばこと塩の博物館	わたしの句読点2<食いろいろ>
117	たばこと塩の博物館	版画・たばこのある風景
118	筑波大学芸術系	報告書 日本における未来派100年記念シンポジウム
119	東京藝術大学漆芸 軌跡と未来実行委員会	東京藝術大学創立125周年記念事業 漆芸 軌跡と未来
120	東京藝術大学大学院 美術研究科リサーチセンター	東京藝術大学 大学院美術研究科 博士後期課程 平成23年度 博士審査展 作品・論文要旨集
121	東京藝術大学大学院 美術研究科リサーチセンター	東京藝術大学 大学院美術研究科 博士後期課程 平成24年度 博士審査展 作品・論文要旨集
122	東京藝術大学美術学部	平成23年度 東京藝術大学 卒業・修了制作作品集 -美術学部/大学院美術研究科修士課程-
123	東京藝術大学美術学部	平成24年度 東京藝術大学 卒業・修了制作作品集 -美術学部/大学院美術研究科修士課程-
124	同志社大学歴史資料館	同志社大学歴史資料館 館報 第15号
125	東北大学総合学術博物館	Bulletin of the Tohoku University Museum No.11 2012
126	東北大学総合学術博物館	Bulletin of the Tohoku University Museum No.13 2013
127	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館	東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館
128	独立行政法人 科学技術振興機構	関与者の拡大と専門家の新たな役割 科学技術と社会の相互作用「科学技術と人間」領域成果報告書
129	長崎大学環境科学部	環境教育研究マネジメントセンター年報 地球環境研究 第4号
130	長野県植物研究会	長野県植物研究会誌 第45号
131	長野県埋蔵文化財センター	北陸新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書6 南首峯遺跡
132	長野県埋蔵文化財センター	中野市柳沢遺跡 千曲川替佐・柳沢築堤事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 -中野市内その3-
133	長野県埋蔵文化財センター	一般国道18号(野尻バイパス)埋蔵文化財発掘調査報告書5 大道下遺跡 清水東遺跡
134	長野県埋蔵文化財センター	長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書103 鎌田原遺跡 近津遺跡群 和田原遺跡群 中部横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1-小諸市内・佐久市内1-
135	長野県埋蔵文化財センター	北陸新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書6 -中野市内その1- 沢田鍋土遺跡 立ヶ花表遺跡 立ヶ花城跡
136	長野県埋蔵文化財センター	千曲川替佐・柳沢築堤事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 -中野市内その2-

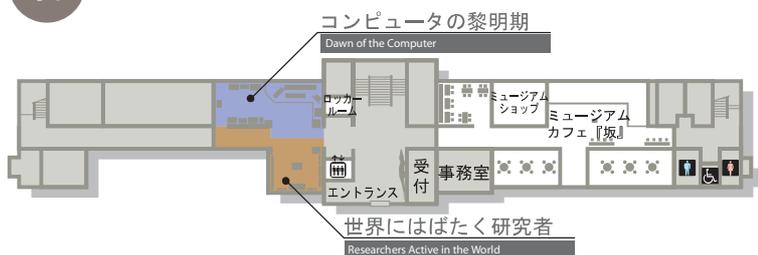
No.	寄贈者	書名
137	長野市教育委員会	文人大名 真田幸弘とその時代
138	名古屋市科学館	名古屋市博物館紀要 第38号 2012
139	名古屋市博物館	名古屋市博物館研究紀要 第35巻
140	名古屋市博物館	調査報告 重要文化財 甚目寺愛染明王坐像
141	名古屋市博物館	驚きの博物館コレクション展 時を超え、世界を駆ける好奇心
142	南山大学人類学博物館	南山大学人類学博物館紀要 第31号
143	新潟大学旭町学術資料展示館	Visiting Europe to uncover materials related to Sado Gold Mine
144	新潟大学旭町学術資料展示館	新潟大学所蔵貴重学術資料公開展示会記録集
145	西宮市立郷土資料館	西宮市歴史調査団調査報告書 第一集 甲山八十八カ所
146	西宮市立郷土資料館	西宮歴史調査団年報 2010年度版
147	西宮市立郷土資料館	西宮市立郷土資料館 第28回特別展示 西宮の祭礼 -だんじり巡行を支える人びと-
148	根津美術館	KORIN 展 国宝「燕子花図」とメトロポリタン美術館所蔵「八橋図」
149	根津美術館	平家物語画帖
150	根津美術館	ZESHIN 柴田是真の漆工・漆絵・絵画
151	兵庫県立芸術文化センター	兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二バレー・コレクション 目録 第1巻 プログラム・バレー台本
152	広島大学総合博物館	広島大学総合博物館研究報告 4
153	福井県立恐竜博物館	翼竜の謎—恐竜が見あげた「竜」
154	福井県立歴史博物館	ミュージアムスタイル Vol.6
155	福井県立歴史博物館	玩具の100年～玩具でたどる明治・大正・昭和～
156	福井県立若狭歴史民俗資料館	館報 平成23年度
157	佛教大学宗教文化ミュージアム	佛教大学宗教文化ミュージアム 研究紀要 第8号
158	文化ファッション研究機構	2010～2012年度 文部科学省託 服飾文化共同研究拠点事業報告 近代日本モダニズム芸術とファッションについての研究 1910年代～1930年代を中心に
159	北海道大学総合博物館	クラーク博士と札幌の植物
160	松代文化施設等管理事務所	松代<付・年報> 第25号(2011年)
161	松代文化施設等管理事務所	真田宝物館収蔵品目録 真田家旧蔵資料目録—服飾—
162	三浦市教育委員会	三浦市埋蔵文化財調査報告書 第24集 平成21年度遺産試掘調査
163	帝塚山大学考古学研究所	帝塚山大学考古学研究所研究報告XIV
164	帝塚山大学附属博物館	帝塚山大学附属博物館報Ⅶ
165	帝塚山大学附属博物館	帝塚山大学附属博物館報Ⅷ
166	水と土の芸術祭実行委員会	開港都市にいがた 水と土の芸術祭 2012
167	宮崎大学農学部附属農業博物館	宮崎大学農学部附属農業博物館年報 第12号 平成22年度(2010-2011)
168	ミュージアム探検隊	ミュージアム探検隊 10年のあゆみ
169	明治大学校地内遺跡調査団	明治大学校地内遺跡調査団 年報6 2009
170	明治大学校地内遺跡調査団	明治大学校地内遺跡調査団 年報7 2010
171	明治大学校地内遺跡調査団	明治大学校地内遺跡調査団 年報8 2011
172	明治大学校地内遺跡調査団	下原・富士見町遺跡Ⅰ 近世～近・現代の発掘調査
173	明治大学校地内遺跡調査団	下原・富士見町遺跡Ⅱ 縄文時代の発掘調査
174	明治大学校地内遺跡調査団	明治大学和泉校地遺跡Ⅱ—明大第2地点の発掘調査—
175	明治大学校地内遺跡調査団	富士見町遺跡Ⅰ 第1地点の発掘調査
176	八尾市立歴史民俗資料館	八尾市立歴史民俗資料館 研究紀要 第22号
177	八尾市立歴史民俗資料館	八尾市立歴史民俗資料館 研究紀要 第23号
178	立命館大学国際平和ミュージアム	立命館大学国際平和ミュージアム 20年の歩み —過去・現在、そして未来—
179	立命館大学国際平和ミュージアム	立命館大学国際平和ミュージアム 20年の歩み —過去・現在、そして未来— 資料編 20年間の事業記録 1992.5-2012.3
180	立命館大学国際平和ミュージアム	立命館平和研究 —立命館大学国際平和ミュージアム紀要— 第14号
181	和歌山市立博物館	平成23年度 和歌山市立博物館館報 No.27
182	和歌山市立博物館	特別展 華岡青洲の医塾 春林軒と合水堂
183	和歌山市立博物館	和歌山市立博物館 研究紀要 第27号
184	和歌山市立博物館	和歌山市史研究 41
185	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	紀州経済史文化史研究所紀要 第33号
186	和歌山大学紀州経済史文化史研究所	和歌山大学紀州経済史文化史研究所 2012年度 特別展 和歌山大学とその周辺の生き物たち



「知」を軸に人・モノ・情報が出会い、交流し、新たな「知」の創造を目指す。

大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館のご案内

1F



コンピュータの黎明期 Dawn of the Computer

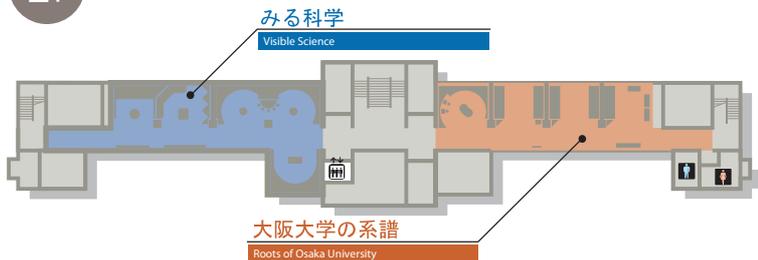
阪大では、第二次世界大戦後まもなく真空管式コンピュータの研究と試作を始めました。その当時誕生したばかりの真空管式コンピュータと、時代の先駆を担った研究者たちを紹介しています。

世界にはばたく研究者 Researchers Active in the World

ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が、中間子論を着想した大阪大学物理学教室。当時、日本の科学の中心といわれた理学部の自由な研究環境、そこに関わりのある様々な研究者を紹介しています。

ミュージアムカフェ「坂」 Museum Café「SAKA」

2F



みる科学 Visible Science

みる科学 Visible Science

光学顕微鏡、電子顕微鏡、超高压電子顕微鏡のしくみや、細胞より小さい分子の構造や、仕組みを明らかにするX線構造解析などの技術と、それらを利用した研究の一端を紹介しています。

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

大阪大学の系譜 Roots of Osaka University

かつての懐徳堂、適塾といった大坂市民の学問からの流れを継承し、今日まで受け継がれてきた大阪大学。その学問や研究活動と、社会との関わりの歴史を紹介しています。

3F

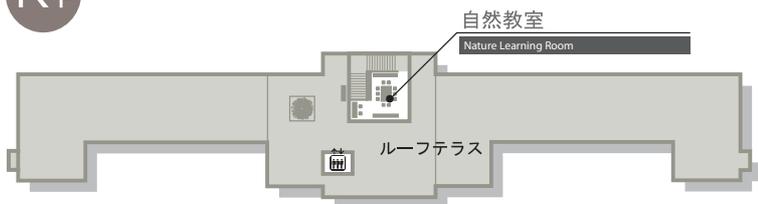


待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

待兼山に学ぶ Learning from Machikaneyama

阪大豊中キャンパスが位置する待兼山。古代の生物や、地形の変遷から、現在の豊かな自然の中で棲息する生き物の営みまで、地域に根ざしその変化を解明する研究を紹介しています。

R F



自然教室 Nature Learning Room

自然教室&ルーフテラス Nature Learning Room

阪大キャンパスは豊中、吹田共に自然がいっぱいです。自然教室内に設置されたPCでは「阪大キャンパスに咲く花」を検索することができます。また、ルーフテラスに出れば背後の待兼山の息吹を感じることができます。

Museum of Osaka University

編集後記

2012年は当館の創立10周年にあたりましたが、橋爪館長のもとで年度当初をむかえた最初の年であり、資料先端研究系に上田教授が加わり、さらに事務機構の刷新もあり、振り返ってみれば変革の1年であったように思います。春に開催した特別展では、当館では初めての試みが数多くあったのですが、特に北海道大学と連携した展覧会を開催できたことは、諸外国に比べ歴史の浅い日本の大学博物館にとっても貴重な体験だったのではないかと思います。秋の企画展は、春の特別展に比べて大人向きの内容の展覧会とよく話していたのですが、そのなかで企業に協力していただいたワークショップや試飲会の開催は新しい挑戦でした。10周年企画として開催した特別講演会や公開シンポジウムでも、大阪大学外の方の協力を多く頂いたことが印象に残ります。これからも活発な知の交流の場となるように、館員として進取の意識を持ち続けたいと思います。ご意見やご提案など頂ければ幸いに存じます。

(文責 宮久保 圭祐)

大阪大学総合学術博物館 年報 2012

2014年2月発行

編集・発行 大阪大学総合学術博物館
〒560-0043 豊中市待兼山町1-13
印刷 株式会社 セイエイ印刷
〒536-0016 大阪市城東区蒲生2-10-33

表紙デザイン 辻村紀子 (アトリエツジムラ)

